

科目名	科目担当代表教員	ページ数
文章表現	矢部 玲子	3
心理学概論	石垣 則昭	8
食生活論	荒井 三津子	13
生活と社会環境	辻 幸美	18
総合教養講座	白戸 力弥	23
日本国憲法	池田 杏奈	28
現代医療と福祉・介護	高岡 哲子	33
キャリア入門	木村 悠里菜	38
キャリア形成	木村 悠里菜	42
生命科学	有賀 早苗	46
情報処理リテラシー	松岡 審爾	51
情報処理リテラシー	松岡 審爾	55
統計の基礎	武田 裕康	59
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	64
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	68
物理学	松岡 審爾	72
基礎化学	藤井 駿吾	77
英語 I	Patrick Hall	82
英語 I	Patrick Hall	87
英語 II	Walzem Allen George	92
英語 III	Joseph S Tomasine	97
中国語 I	玉 珍	102
中国語 II	玉 珍	107
韓国語 I	金 京室	112
韓国語 II	金 京室	117
生涯スポーツ I	平岡 英樹	122
生涯スポーツ I	平岡 英樹	127
生涯スポーツ II	平岡 英樹	132
生涯スポーツ II	平岡 英樹	137
人間発達学	横井 裕一郎	142
解剖学 I	木村 一志	147
解剖学 II	池野 秀則	152
生理学 I	木村 一志	157
生理学 II	木村 一志	161
生理学 III	木村 一志	165
生理学演習	木村 一志	170
生理学演習	木村 一志	175
運動学 I	高田 雄一	180
運動学 II	大森 圭	185
運動学実習	大森 圭	190
病理学	瀧山 晃弘	194

微生物・免疫学	木村 一志	.....	199
終末期医療	佐藤 明紀	.....	203
内科学	水越 常德	.....	207
整形外科学	未定	.....	212
脳神経内科学	松谷 学	.....	217
小児科学	石黒 信久	.....	222
精神医学Ⅰ	瀧山 晃弘	.....	226
リハビリテーション医学	生駒 一憲	.....	231
老年医学	瀧山 晃弘	.....	235
臨床心理学	松岡 紘史	.....	239
リハビリテーション栄養学	佐々木 将太	.....	243
言語障害治療学	金浜 悦子	.....	247
医学概論	生駒 一憲	.....	251
リハビリテーション概論	白戸 力弥	.....	255
公衆衛生学	佐々木 幸子	.....	259
地域包括ケアシステム論	水本 淳	.....	263
応用解剖学演習	池野 秀則	.....	267
応用解剖学演習	池野 秀則	.....	275
精神医学Ⅱ(理学療法)	瀧山 晃弘	.....	283
理学療法概論Ⅰ	橋田 浩	.....	288
理学療法概論Ⅱ	橋田 浩	.....	292
運動生理学	大森 圭	.....	296
病態運動学	牧野 均	.....	301
基礎解剖学実習	池野 秀則	.....	305
基礎解剖学実習	池野 秀則	.....	309
理学療法評価学Ⅰ	佐藤 明紀	.....	313
理学療法評価学Ⅱ	柴田 恵理子	.....	317
理学療法評価学実習Ⅰ	佐藤 明紀	.....	321
理学療法評価学実習Ⅰ	佐藤 明紀	.....	325
理学療法評価学実習Ⅱ	佐藤 明紀	.....	329
理学療法評価学実習Ⅱ	佐藤 明紀	.....	333
物理療法学Ⅰ	水本 淳	.....	337
物理療法学Ⅱ	水本 淳	.....	341
日常生活活動学	佐々木 幸子	.....	345
トレーニング・コンディショニング理学療法学実習	大森 圭	.....	349
トレーニング・コンディショニング理学療法学実習	大森 圭	.....	354
臨床実習Ⅰ(見学実習)	柴田 恵理子	.....	359
臨床実習Ⅱ(訪問・通所)	水本 淳	.....	364

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		文章表現				ナンバリング	1102
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	矢部 玲子						
<b>授業の位置づけ</b>							
初年次教育の一環として、研究力をみがく科目である。ディプロマ・ポリシーの、【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適應できる能力を身につけている。と関連があり、文章作成能力を習得する科目である。							
<b>授業の概要</b>							
様々な文章の「型」を、文章作成と添削および相互批評を組み合わせた、実作学習によって習得する。							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に存在する様々な文章の「型」について分類することができるようになる。</li> <li>・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実際的な文章作成ができるようになる。</li> <li>・文の正誤・適否・美醜等が区別できるようになる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。</li> <li>2. 説明に基づいて実際に各自文章作成・添削・相互評価を毎時間行う。</li> <li>3. インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。</li> <li>4. 全授業で数回文章作成能力到達度チェックを行う。</li> <li>5. 完成させた文章は毎時間提出して担当教員の添削を受け、指定されたものをすべて締め切りまでに提出する。</li> </ol>							
<b>ICT活用</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題作成・提出・評価はGoogle classroom の諸機能を用いて行う。</li> <li>・必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。</li> </ul>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
公立中学校・高等学校の国語科教師としての勤務経験が約10年あり、学校教育、中でも国語科教育に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。</li> <li>作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。</li> </ul>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	手紙文の型:手紙文の形式を理解し、心情を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.6-11の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第2回	ビジネス文書の型:ビジネス文書の形式を理解し、用件を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.12-15の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	三段構成の型:「三段構成で書く」、「常体文で書く」、「一文を40字以内で書く」ことを理解し、これらの書式による文章作成を学ぶ。	PP.16-19の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第4回	原稿用紙を用いた文章作成の型:意見文視写を通して、原稿用紙を用いた日本語表記法に沿った文章作成を学ぶ。	PP.20-23の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	新聞読者投稿欄の文章の型:新聞投書欄の文章作成を通して、客観的な視点で事実を書くことを学ぶ。	PP.24-25の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第6回	見ることと書くことの関係(1) 報道文:身近な事件に関するメモをもとに、報道文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことを学ぶ。	PP.26-27の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第7回	見ることと書くことの関係(2) 観察文:身近な対象に関する観察メモをもとに、観察文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことに習熟することを学ぶ。	PP.28-29の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第8回	インタビュー書き起こし文の型:履修者同士のインタビューと紹介文の作成を通して、聞き書きの手法による文章作成を学ぶ。	PP.30-33の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第9回	聞き書きの型(1):前回の「インタビュー」を発展させ、「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を聞き書きし、記録する方法を学ぶ。	PP.34-35の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第10回	聞き書きの型(2):「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を本人に代わって記録させてもらい、聞き書きとして完成させることを学ぶ。	PP.36-37の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第11回	論説文の型:論説文の型に沿って文章を作成することを通して、事実と意見を適切に書き分ける方法を学ぶ。	PP.38-41の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	理学療法観の型:理学療法の立場を能動の立場で書くという形式による文章作成について学ぶ。	PP.52-63の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第13回	事例報告の型:事例報告(case report)の形式に沿って文章を作成することを通して、専門職に求められる文章の形式について学ぶ。	PP.54-59の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	事例研究の型:事例研究(case study)の形式に沿って文章を作成することを通して、専門職に求められる文章の形式についてより深く学ぶ。	P.60の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	添削と推敲一まとめ一:これまで学んだ文章表現にかかわる知見に基づき、習得した文章表現能力について、添削と推敲を通して自己評価することを学ぶ。 指定された課題を授業終了時に提出する。	PP.61-62の熟読・理解。指定された提出課題の完成。(90分)	指定された提出課題の完成・提出。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>作成した文章のうち指定されたものを定めた期限内に提出する。 指示された課題をすべて提出した場合評価の対象とする。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>出席率66%以上を評価対象とする。</p>
<p><b>教科書</b></p>		
<p>「型」で身につける文章作成技術／矢部玲子／大学図書出版</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>必要に応じて提示する。</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>状況如何で講義内容変更の場合あり。 教材配信システム使用。 出席率66%以上で全対象課題提出の場合評定対象とする。 連絡はGoogle classroom で行う。 メールでの問合せ等には必要に応じて対応する。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		
<p></p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻						
区分	教養科目 人間と文化						
科目名	心理学概論					ナンバリング	1110
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石垣 則昭						

授業の位置づけ

心理学概論は、全共通教養科目の教養人文系・科目として、現代の自然、人間、社会において生起する複雑・多様な諸現象に関してこれを的確に読み解き、妥当な判断ができる教養を身につける科目に位置付けられている。健康栄養学科では、現代医療と福祉・介護さらに全学年共通の疾病の成り立ちとの関連を重視し学習を進める。こども発達学科においては、乳幼児期のこどもの成長・発達を支える知識や技術を学ぶ対象の理解の分野である乳幼児心理学、青年心理学との関連を重視する。地域未来学科においては、幅広い教養を身につける人間と文化に位置付けられ、ディプロマポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学における専門的知識、技能を身につけ、生涯に渡り学び続ける教養を有している(知識技能)」。「地域社会における意欲的かつ主体的のある個人や企業の学習活動を引き出し支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」に位置付けられ、教育心理学Ⅰ、教育心理学Ⅱとの関連を重視する。リハビリテーション学科理学療法学専攻では、医療と理学療法に位置し、ディプロマポリシーの「臨床場面や研究において、状況に変化に柔軟に対応できるコミュニケーションを身につけている(思考・判断・表現)」に位置付けられ専門・専門基礎科目と連携している教養科目として臨床心理学との関連を重視する。リハビリテーション学科作業療法学専攻では、医療と心理と社会と作業の分野に位置し、ディプロマポリシーの「業療法を実践するために必要な基礎的知識を身につけている(知識技能)」。「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」などに位置付けられ専門・専門基礎科目と連携している教養科目として臨床心理学との関連を重視する。看護学科においては、幅広い教養を身につける教養人文系に位置し、ディプロマポリシーの「看護の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる(思考・判断・表現)」などに位置付けられ専門・専門基礎科目と連携している教養科目としてメンタルヘルスとの関連を重視する。

授業の概要

本科目では、人格論に焦点を合わせ難解な現代心理学の概観を試みる。まず学習、動機づけ、知覚等の心理学的概念を用いて人格の形成過程を説明する。さらに摂食障害、薬物依存、多重人格等、広く人格障害に関与する異常行動の病理に言及する。履修者は心理学を通して、人間が外側からは知ることのできない人間のこころの内側と、そのしくみをどのように解き明かしてきたのかを知ると同時に、その方法を自分自身にも適用し自分を客観的に見つけ、いまの自分がどのように形成されてきたのか。また今の自分をどのように変えていくことができるのかという問題に、答えられることを期待する。

到達目標

①心理学が辿った歴史的研究の過程と特徴を理解する(知識・技能)。②心理学概論の研究の変遷を適切にとらえ表現することができる(思考・判断・表現)。③心理学概論の学習を他のメンバーと協力し、学習課題を解決することができる(関心・意欲・態度)。

授業の方法

授業の到達目標を達成するため、説明と演習の知的生産交流により授業を進める。受講者の学習への主体化を図るため、ハイブリッド型(ICTの活用と対面学習)を中心にアクティブラーニングにより授業を進める。毎時間、400字～700字及程度で作成する学習レポートを授業中クラスルームより送信、学習終了前に完成させ返信する。その後、採点し返却する。あわせて14回目に小テスト(30点満点)を実施し、総合的に学習評価を行う。

ICT活用

毎時間のレポートの作成、FAMアプローチによる授業評価などグーグルクラスルームの活用による教師と学生の双方向による授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

北海道内の公立中学校の校長12年の実務経験と教育及び心理学理論により教職員と共に生徒指導上の課題が山積する学校の改善を図り、生徒の人間関係力の育成、学力向上を中心に様々な教育成果をあげ数たびメディアで全国で紹介された。また校長在任中より現在までの間、北海道内外の保幼小中高等学校、特別支援学校、医療法人、民間企業へ「職場のメンタルヘルスの保持・増進」社会心理学による「職場の人間性」[ソーシャルエモーショナルラーニング(SEL)]など研修会の講師を務めている。さらに今日的教育問題に対応するため発達心理学を起点にソリューション・フォーカスト・アプローチ(SFA)、選択理論、認知行動、現実療法などの心理理論により各種研修会の講師を務めている。さらに心理分析により学校問題委員、いじめ重大調査委員長、特別支援委員をはじめ北海道内外の各種教育関係委員及び相談活動に応じている。



課題に対するフィードバックの方法			
質問は授業中、クラスルームでのレポート提出時とあわせ随時受けつけ、内容により受講者全員への還元を図る。また毎時間、授業への自己評価、相互評価さらにルーブリックにより学習レポートを作成し、学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ルーブリック評価による評価基準、授業規律重視の授業の意義の説明、心理学概論を学ぶ意義、基礎心理学の進化心理学、行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズと1.自己発見とは何かを理解できる。	心理学概論を学ぶ意義、基礎心理学の進化心理学、行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズと自己発見心理学、心理学概論とは何かを各自調べ授業に臨む。(90分)	ルーブリック評価による評価基準、授業規律重視の授業の意義の説明、心理学概論を学ぶ意義、基礎心理学の進化心理学、行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズと1.自己発見の内容を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第2回	教科書2ヒポクラテスの単純元素、3プラトンの自己概念、4中世暗黒時代、5イスラムと心、6共通感覚、7一つの身体と一つの魂、8悪魔祓い、9心理学、10デカルトの思考機械の学習内容が理解できる。	教科書2ヒポクラテスの単純元素、3プラトンの自己概念、4中世暗黒時代、5イスラムと心、6共通感覚、7一つの身体と一つの魂、8悪魔祓い、9心理学、10デカルトの思考機械の学習内容を調べ授業に臨む。(90分)	教科書2ヒポクラテスの単純元素、3プラトンの自己概念、4中世暗黒時代、5イスラムと心、6共通感覚、7一つの身体と一つの魂、8悪魔祓い、9心理学、10デカルトの思考機械の内容を整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第3回	教科書11脳地図の作成、12知識の本性、13観念と実物、14メスマリズム、15骨相学、16ウェバー・フェヒナーの法則、17自己の選択、18フィニアス・ゲージ、19気分障害の学習内容が理解できる。	教科書11脳地図の作成、12知識の本性、13観念と実物、14メスマリズム、15骨相学、16ウェバー・フェヒナーの法則、17自己の選択、18フィニアス・ゲージ、19気分障害の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書11脳地図の作成、12知識の本性、13観念と実物、14メスマリズム、15骨相学、16ウェバー・フェヒナーの法則、17自己の選択、18フィニアス・ゲージ、19気分障害の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第4回	教科書20チャールズ・ダーウィンと情動、21生まれと育ち、22ヒステリー、23心理学の起源、24情動のジェームス・ラング説、25大脳半球優位性、26精神分析を中心課題に学習内容が理解できる。	教科書20チャールズ・ダーウィンと情動、21生まれと育ち、22ヒステリー、23心理学の起源、24情動のジェームス・ラング説、25大脳半球優位性、26精神分析を中心課題に学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書20チャールズ・ダーウィンと情動、21生まれと育ち、22ヒステリー、23心理学の起源、24情動のジェームス・ラング説、25大脳半球優位性、26精神分析を中心課題に学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第5回	教科書27心理学の原理、28自律神経系、29双極性障害、30解離性障害、31青年期、32パブロフの犬と条件付け、33統合失調症、34ユングの原型、35劣等コンプレックスを中心に36サイコドラマの学習内容が理解できる。	教科書27心理学の原理、28自律神経系、29双極性障害、30解離性障害、31青年期、32パブロフの犬と条件付け、33統合失調症、34ユングの原型、35劣等コンプレックスを中心に36サイコドラマの学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書27心理学の原理、28自律神経系、29双極性障害、30解離性障害、31青年期、32パブロフの犬と条件付け、33統合失調症、34ユングの原型、35劣等コンプレックスを中心に36サイコドラマの学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		

第6回	教科書37知能指数(IQ)、38サルの精神能力、39ゲシュタルト心理学の潮流、40アルバート坊や研究、41ロールシャッハテスト、42発達心理学を中心に43刷り込み、44ストロープ効果の学習内容が理解できる。	教科書37知能指数(IQ)、38サルの精神能力、39ゲシュタルト心理学の潮流、40アルバート坊や研究、41ロールシャッハテスト、42発達心理学を中心に43刷り込み、44ストロープ効果の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書37知能指数(IQ)、38サルの精神能力、39ゲシュタルト心理学の潮流、40アルバート坊や研究、41ロールシャッハテスト、42発達心理学を中心に43刷り込み、44ストロープ効果の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第7回	教科書45心理学の場理論、46自閉症、47体形の心理学、48偏見の学習、49非生産的パーソナリティ、50知能の心理学、51徹底的行動主義、52認知行動療法を中心に学習内容が理解できる。	教科書45心理学の場理論、46自閉症、47体形の心理学、48偏見の学習、49非生産的パーソナリティ、50知能の心理学、51徹底的行動主義、52認知行動療法を中心に学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書45心理学の場理論、46自閉症、47体形の心理学、48偏見の学習、49非生産的パーソナリティ、50知能の心理学、51徹底的行動主義、52認知行動療法を中心に学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第8回	教科書53人生の八つの段階54パーソン-センタード療法、55仲間からの圧力と同調行動、56多重パーソナリティ障害、57神経信号、58欲求理論、59欲求の階層構造を学習の中心課題とし60言語の獲得の学習内容が理解できる。	教科書53人生の八つの段階54パーソン-センタード療法、55仲間からの圧力と同調行動、56多重パーソナリティ障害、57神経信号、58欲求理論、59欲求の階層構造を学習の中心課題とし60言語の獲得の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書53人生の八つの段階54パーソン-センタード療法、55仲間からの圧力と同調行動、56多重パーソナリティ障害、57神経信号、58欲求理論、59欲求の階層構造を学習の中心課題とし60言語の獲得の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第9回	教科書61ワーキングメモリ、62道徳性の発達、63認知不協和を学習の中心課題とし64注意フィルター、65反精神医学、66モデリング行動、67「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」、68フーコーの人間観、69記憶痕跡、70抑うつテスト「うつ行のテスト」の学習内容が理解できる。	教科書61ワーキングメモリ、62道徳性の発達、63認知不協和を学習の中心課題とし64注意フィルター、65反精神医学、66モデリング行動、67「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」、68フーコーの人間観、69記憶痕跡、70抑うつテスト「うつ行のテスト」の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書61ワーキングメモリ、62道徳性の発達、63認知不協和を学習の中心課題とし64注意フィルター、65反精神医学、66モデリング行動、67「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」、68フーコーの人間観、69記憶痕跡、70抑うつテスト「うつ行のテスト」の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第10回	教科書71反対感情、72愛着理論を学習の中心課題とし73スタンフォード実験、74家族療法、75記憶地図、76驚愕実験:正気なのはだれ?、77ヒューリスティクス、78天才の問題の学習内容が理解できる。	教科書71反対感情、72愛着理論を学習の中心課題とし73スタンフォード実験、74家族療法、75記憶地図、76驚愕実験:正気なのはだれ?、77ヒューリスティクス、78天才の問題の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書71反対感情、72愛着理論を学習の中心課題とし73スタンフォード実験、74家族療法、75記憶地図、76驚愕実験:正気なのはだれ?77ヒューリスティクス、78天才の問題の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		

第11回	教科書79がっかりさせてしまう記憶、80アイデンティティ、81衝動性と強迫性、82感覚データ、83自己肯定感を中心課題とする学習内容が理解できる。	教科書79がっかりさせてしまう記憶、80アイデンティティ、81衝動性と強迫性、82感覚データ、83自己肯定感を中心課題とする学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書79がっかりさせてしまう記憶、80アイデンティティ、81衝動性と強迫性、82感覚データ、83自己肯定感を中心課題とする学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第12回	教科書84広告が有効な理由、85フロー体験＝幸福感、86マインドフルネス、87機能的MR、88六つの基本感情を中心課題に学習し89超心理学、90つりがね型の曲線の学習内容が理解できる。	教科書84広告が有効な理由、85フロー体験＝幸福感、86マインドフルネス、87機能的MR、88六つの基本感情を中心課題に学習し89超心理学、90つりがね型の曲線の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書84広告が有効な理由、85フロー体験＝幸福感、86マインドフルネス、87機能的MR、88六つの基本感情を中心課題に学習し89超心理学、90つりがね型の曲線の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第13回	教科書91心的外傷後ストレス障害(PTSO)を中心に学習し92フォースメモリー、93意識に関する難問、94ミラーニューロン、95社会的調和、96あいまいさへの嫌悪の学習内容が理解できる。	教科書91心的外傷後ストレス障害(PTSO)を中心に学習し92フォースメモリー、93意識に関する難問、94ミラーニューロン、95社会的調和、96あいまいさへの嫌悪の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	教科書91心的外傷後ストレス障害(PTSO)を中心に学習し92フォースメモリー、93意識に関する難問、94ミラーニューロン、95社会的調和、96あいまいさへの嫌悪の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、97心理学による不平等の説明、98性的違和、99ブレイン・イニシチブ、100再現可能性の危機の学習内容が理解できる。	学習のまとめとしての小テストの学習準備を行い、97心理学による不平等の説明、98性的違和、99ブレイン・イニシチブ、100再現可能性の危機の学習内容を教科書により調べ授業に臨む。(90分)	学習のまとめとしての小テストの振り返りを行い、97心理学による不平等の説明、98性的違和、99ブレイン・イニシチブ、100再現可能性の危機の学習内容を教科書を含め整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
第15回	教科書、心理学の基本概念、心理学に残された問題の学習内容を理解し、本科全体の学習を振り返り学習のまとめを行う。	教科書、心理学の基本概念、心理学に残された問題の学習内容を調べるとともに、本科全体の学習を振り返り学習のまとめを行い授業に臨む。(90分)	教科書、心理学の基本概念、心理学に残された問題の学習内容を調べるとともに、本科全体の学習を振り返り学習のまとめを整理する。(90分)
担当教員	石垣 則昭		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
図鑑心理学～歴史を変えた100の話～(トム・ジャクソン＝著 清水・井上智義＝監訳・訳 (NEWTONPRESS 2020発行)を教科書とする。		
<b>参考文献</b>		
自作の補助資料を授業ごとに提供しする。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
難解な学習内容を理解するため準備学習、事後学習は必ず行い提出物は期限を厳守する。授業中はオリエンテーションにて説明した学習規律を重視し、自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「心理学概論」への理解を深めて頂きたい。		
<b>備考欄</b>		
なし		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	1164
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						

授業の位置づけ

ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係が築くことができる」と、作業療法学科でのディプロマ・ポリシーとして、「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。

授業の概要

ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。

到達目標

医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。  
 ○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。  
 ○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。  
 ○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。

授業の方法

- ①教科書を利用し、確実に講義の内容を把握できるよう指導する。
- ②必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。
- ③内容に合わせて、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。
- ④中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法			
調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「食」は生理的、文化人類学的、社会学的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	科書全体の構成を把握し、「食べる」ことを学ぶ意義を考察する。90分程度。
担当教員			
第2回	私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	教科書P2～8を読んでくること。90分程度。	講義で学んだ「食べる理由」について整理しておくこと。90分程度。
担当教員			
第3回	<食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情> ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器系医療の最新事情について学ぶ。	教科書9～14まで読んでくること。90分程度。	消化の仕組みと腸内環境について理解する。90分程度。
担当教員			
第4回	<ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満> ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能的食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	教科書P17～26まで読んでくる。90分程度。	ヒトが痩せたい理由とダイエットの問題点について整理しておく。90分程度。
担当教員			
第5回	<ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム> 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	前回学んだ『食べない理由』を復習し、P28～30、P72～73を読んでくる。90分程度。	「食のタブー」とベジタリアン、フードファディズムについて説明できるようにしておく。90分程度。
担当教員			

第6回	<p>&lt;「食べ方」を学ぶ理由&gt; 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。</p>	<p>教科書P41～51まで読んでおくこと。90分程度。</p>	<p>作法が必要な意義について考察しておくこと。90分程度。</p>
担当教員			
第7回	<p>&lt;ヒトから人間へ・食べるモノの変遷&gt; 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。</p>	<p>教科書P54～61まで読んでおくこと。90分程度。</p>	<p>日本の食の歴史を整理しておくこと。餌と食事の違いを説明できること。90分程度。</p>
担当教員			
第8回	<p>&lt;おいしさとはなにか&gt; 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。</p>	<p>教科書のP72～80まで読んでおくこと。90分程度。</p>	<p>「おいしい」とはどのようなことか整理しておくこと。90分程度。</p>
担当教員			
第9回	<p>&lt;ヒトはなぜ食べるのか&gt; 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。</p>	<p>前回までの講義内容を復習しておくこと。90分程度。</p>	<p>中間の総まとめの講義内容を復習しておくこと。90分程度。</p>
担当教員			
第10回	<p>&lt;「食」の未来&gt; 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。</p>	<p>教科書p84～96まで読んでおくこと。90分程度。</p>	<p>養殖や染色体、遺伝子組み換えなどについて整理しておくこと。90分程度。</p>
担当教員			

第11回	<食事空間を学ぶ> 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	教科書p98～105まで読んでおくこと。90分程度。	台所と調理の進化を整理し、これからの食事について考察すること。90分程度。
担当教員			
第12回	<「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告> 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	教科書p107～p115まで読んでおくこと。90分程度。	周囲にある食関連の広告を調査整理すること。90分程度。
担当教員			
第13回	<「食」の演出> 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	教科書p81～83、p124～p132を読んでおくこと。90分程度。	自分の周囲の食卓について調査してみる。90分程度。
担当教員			
第14回	<餌場から食事の場へ・テーブルコーディネート機能> 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	前回の講義内容を整理しておくこと。90分程度。	食卓の演出について具体的なテクニックを整理する。90分程度。
担当教員			
第15回	<年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について> 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。	年中行事に食べるものについて調査しておくこと。90分程度。	教科書全体の重要事項をまとめておくこと。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		



定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
食学入門―食べるヒト・食べるモノ・食べるコト― / 荒井三津子 / 光生館		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
私語厳禁。 毎回必ず教科書を持参すること。		
<b>備考欄</b>		
特になし		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		生活と社会環境				ナンバリング	1128
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	辻 幸美、金子 翔拓						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>各該当学科のディプロマ・ポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、現代日本の社会環境を高齢者や代表的な疾患による身体障害を持つ人を通して理解するとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につける共通重要科目であり、更に人の生活全般と関連し、地域医療や社会環境を考える基礎となると共に、将来医療職種専門職を希望される学生においては、必要と考える。特に看護科においては、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を会得する重要科目である。(思考・判断・表現)</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>現代日本においては、様々な疾患や障害を持つ人々が地域社会で生活している。この現状を踏まえ、疾患や障害といった背景を持ちながらも快適な生活を送るためにはどのような様な生活環境の整備が求められているのかについて、生活環境が生活の質に大きく影響する疾患や障害の特徴を理解したうえで考察する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>① 現代日本の地域医療の現状を説明できる。                  ② 代表的な疾患に適合した生活環境の整備について説明できる。                  ③ 今後の日本における生活環境のあるべき姿を考え、説明することができる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントを用い講義形式ですすめる。また、講義後に課題を提示し講義内容の確認を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>授業中の課題の一部にグーグルクラスルームを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として勤務した経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。                  辻幸美:22年間、脳神経外科病院で看護師として務めた経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
前回授業の最後に提出された課題に関して、次回の授業で補足説明や解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 医療保険制度の現状を理解する(診療報酬制度等も含む)	自身を取り巻く生活環境について考えてくること。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者の生活と社会環境① 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)が生活するうえでの「リスク」について理解を深める。	高齢者が抱えるリスクについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	高齢者の生活と社会環境② 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)に適する生活環境の整備について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第4回	障害者の生活と社会環境③ 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考える。	筋ジストロフィー疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	障害者の生活と社会環境④ 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考えるパート2	前回の講義で提示された疾患の患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第6回	障害者の生活と社会環境⑦ 重症心身障害児(者)の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	重症心身障害児(者)はどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第7回	障害者の生活と社会環境⑧ 精神疾患患者の生活環境の整備について考える。	精神疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	ハンセン病とハンセン病療養施設の生活と社会環境について、過去の日本における偏見と差別を鑑み考える。	ハンセン氏病を取り巻く社会の歴史を調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	介護保険制度の現状を理解し、地域社会で在宅サービスを受ける対象者について理解する。	介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第10回	障害者の生活と社会環境① 脳卒中患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脳卒中とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第11回	障害者の生活と社会環境② 脳卒中患者の生活環境の整備について考える。	脳卒中患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	障害者の生活と社会環境⑤ パーキンソン病患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	パーキンソン病とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第13回	障害者の生活と社会環境⑥ パーキンソン病患者の生活環境の整備について考える。	パーキンソン病患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	障害者の生活と社会環境⑨ 脊髄損傷患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脊髄損傷とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	障害者の生活と社会環境⑩ 脊髄損傷患者の生活環境の整備について考える。 まとめ 1～14回までの内容について総復習を行い、障害を持つ人の生活環境について理解する。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。 1～14回の内容について、これまでに作成したノートを確認しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし(プリントにて対応)		
<b>参考文献</b>		
特に指定しない		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
なし		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻						
区分	教養科目 人間と文化						
科目名	総合教養講座					ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。

国際教養学科のディプロマ・ポリシー (DP) の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関連する。

授業の概要

この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。

到達目標

- ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsの取り組みの重要性を理解できること。
- ・4年間を通して、しっかりと履修計画を立てられること。
- ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- ・Google Classroomの利用ができること。
- ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

図書館の利用方法など、一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法			
グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く正しく雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	授業を受講するには② 履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	遠隔授業の受講方法について 本学で遠隔授業のツールとして使用しているGoogle Classroomの使用方法について学び、遠隔授業を受講できるようになる。	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		



第6回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、 蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。 (図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。 また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学生会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学生会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学生会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉強時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第13回	えこりん村SDGs研修① (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	えこりん村SDGs研修② (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。研修を受けた感想を提出する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修③ (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし。		
<b>参考文献</b>		
渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年―恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット 渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別紙で連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。13～15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田 杏奈						
<b>授業の位置づけ</b>							
人間社会のルールの一つである日本国憲法を学ぶことにより、幅広く教養を身につける科目である。							
<b>授業の概要</b>							
民主主義(国民主義)と基本的人権の相関関係を明確にするとともに、なぜ「憲法」が国家の最高法規とされるかを理解することを目指す。次いで、日常生活の場面で生じる様々な紛争解決する手段としての裁判の意義、システムを学び、同時に法解釈の手法を考察する。以上の基本的な知識を修得した上で、日本国憲法の本質と構造を(明治憲法との比較を含め)大枠で理解するよう努める。							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。</li> <li>2. 様々な基本的人権について概要を述べるができる。</li> <li>3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。 各講義中に毎回コメント(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)をGoogleフォーム、クラスルーム等に提出する。 確認テストをGoogleフォーム等を利用して時間内に行う(全15回)。							
<b>ICT活用</b>							
Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし。							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要、法の基礎知識について学ぶ。	事前に教科書を購入し、「読者のみなさんへ」の部分を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文等を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」 「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」 「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えらるる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」「Theme17 民の声 vox Dei?——国会(2)」「Theme18 首相の選び方——内閣」「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法での天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交?——天皇」「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手續きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を!——地方自治」「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行／有斐閣		
<b>参考文献</b>		
講義中に適宜紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
特になし。		
<b>備考欄</b>		



2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		現代医療と福祉・介護				ナンバリング	1122
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						

授業の位置づけ

各該当学科のディプロマポリシーを鑑み、地域包括ケアシステムにおいて高齢者障害者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、[住まい][医療][介護][看護][予防][生活支援]が切れ目なく一体的に提供ができ、「[心/意欲/態度]」が養われる重要な科目である。更に日本の社会事情を広く理解するうえで必要な知識としての[医療/福祉/介護]に焦点をあて、近未来の社会制度を思考し、構築するための基礎的能力の向上を目指す。

授業の概要

少子高齢化、人口減、労働力の減退などの社会構造が大きく変容している背景により、現代医療は、福祉や介護との連続性と包括的な制度や考え方が大きく変遷している。このようなことから、医療や福祉・介護に携わる者は、制度論だけではなく、幅広く社会を俯瞰する知識や倫理観を持ち備えることが必要である。これらをふまえ、授業では医療、福祉、介護の現状を理解し、日本が現在抱えている諸問題について考え、その解決策を探る。また、日本と諸外国における医療、福祉、介護制度を比較し、日本の特徴を理解する。同時に今後の日本の理想的な医療、福祉、介護のあるべき姿を考える。

到達目標

- ・社会と我が国における社会問題を理解し、自身の考えを述べることができる。
- ・医療と我が国における医療問題を理解し、自身の考えを述べることができる。
- ・福祉と我が国における福祉問題を理解し、自身の考えを述べることができる。
- ・介護と我が国における介護問題を理解し、自身の考えを述べることができる。
- ・医療・福祉・介護におけるコミュニケーションの特徴と実践方法を説明することができる。

授業の方法

授業の方法は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して行う。教材は、担当教員が作成した資料である。本科目は、理解度を確認するための確認テスト5回の提出によって評価する

ICT活用

G Suite for educationを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

総合的な病院において看護師として約7年間勤務した経験の中で、高齢者を対象にケアを行った経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
提出された確認テストの解説を、集団に対して行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイドンス(講義・GW) 内容:現代医療と福祉・介護の位置づけとシラバスの説明 行動目標:ガイドンス内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題が説明できる。 GW:本科目が将来、どのように役立つのかを検討する。	・シラバスを熟読する。 ・ノートを準備する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 学習すべき内容を確認して自らが学習すべき内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第2回	社会とは何か(講義・GW) 内容: ・社会の定義 ・社会の意味と歴史的背景 ・社会の概念 行動目標:社会とは何かが説明できる。 GW:社会と個人との関係を検討する。	社会とは何かを調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身の社会に対する考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第3回	日本が抱えている社会問題(講義) 内容: ・社会問題とは何か ・具体的な社会問題 ・社会問題の解決策 行動目標:日本が抱えている社会問題を説明することができる。 確認テスト①	日本が抱えている社会問題を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・社会問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第4回	医療とは何か(医療制度を含む)(講義・GW) 内容: ・医療の定義 ・医療の意味と歴史的背景 ・医療の概念 行動目標:医療とは何かが説明できる。 GW:医療現場で自身がとるべき態度を検討する。	医療とは何かを調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身の医療に対する考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第5回	医療における2025年問題(講義・GW) 内容: ・2025年問題とは何か ・具体的な2025年問題 ・2025年問題の解決策 行動目標:日本が抱えている医療における2025年問題を説明することができる。 GW:医療における2025年問題に対して自身ができることを検討する。	2025年問題を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・社会問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		

第6回	医療における少子高齢化問題(講義) 内容: ・少子高齢化問題とは何か ・具体的な少子高齢化問題 ・少子高齢化問題の解決策 行動目標:日本が抱えている医療における少子高齢化問題を説明することができる。 確認テスト②	少子高齢化問題を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・少子高齢化問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第7回	福祉とは何か(講義・GW) 内容: ・福祉の定義 ・福祉の意味と歴史的背景 ・福祉の概念 行動目標:福祉とは何かが説明できる。 GW:福祉の現場で自身がとるべき態度を検討する。	福祉とは何かを調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身の福祉に対する考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第8回	日本が抱える福祉問題(講義) 内容: ・福祉問題とは何か ・具体的な福祉問題 ・福祉問題の解決策 行動目標:日本が抱えている福祉問題を説明することができる。 確認テスト③	福祉問題を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・福祉問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第9回	介護とは何か(講義・GW) 内容: ・介護の定義 ・介護の意味と歴史的背景 ・介護の概念 行動目標:介護とは何かが説明できる。 GW:介護の現場で自身がとるべき態度を検討する。	介護とは何かを調べてノートに記載する。	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身の介護に対する考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第10回	日本が抱える介護問題(講義) 内容: ・介護問題とは何か ・具体的な介護問題 ・介護問題の解決策 行動目標:日本が抱えている医療における介護問題を説明することができる。 確認テスト④	介護問題を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・介護問題を解決する方法に対する自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		

第11回	日本と諸外国の医療・福祉・介護の比較(講義・GW) 内容: ・日本と諸外国の医療の比較 ・日本と諸外国の福祉の比較 ・日本と諸外国の介護の比較 行動目標:日本と諸外国の比較において医療・福祉・介護の特徴を説明できる。 GW:日本と諸外国の特徴を検討する。	イギリス、フランスなどの医療・福祉・介護を調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・日本と諸外国の医療、福祉、介護の特徴をまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第12回	医療・福祉・介護に必要なコミュニケーション1(講義・GW) 内容: ・コミュニケーションとは ・コミュニケーションの特徴 ・医療・福祉・介護に必要な共感力 行動目標:医療・福祉・介護に必要なコミュニケーション能力が説明できる。 GW:相手が言っていることが適切に理解するために必要なことを検討する。	コミュニケーションとは何かを調べる(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・自身が考えるコミュニケーションに必要なことをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第13回	医療・福祉・介護に必要なコミュニケーション2(講義) 内容: ・コミュニケーションに必要な読解力とは何か ・読解力の測定方法 ・コミュニケーションの実際 行動目標:コミュニケーションに必要な読解力が説明できる。	読解力とは何かを調べてノートに記載する。(90分)	・本日の行動目標の自己評価を行う。 ・読解力において自分の強みと弱みを理解し、ノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第14回	医療・福祉・介護に必要なコミュニケーション3(GW) 内容: ・事前学習を基にディスカッションする。 ・ディスカッション内容を発表する。 GW:事前学習を基に検討する。 確認テスト⑤	指定された事前課題を行う。(90分)	GWの内容をふりかえり、自身の考えをノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第15回	全授業のふりかえり 内容:授業で学習したすべての内容をふりかえる。 行動目標:本授業の学習のふりかえりができる。	本授業のノートを見直して整理する。(90分)	本授業の学習成果をいつでも見返せるように整理する。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
必要時講義中に提示する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
授業には積極的に参加すること。		
<b>備考欄</b>		
なし		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。

授業の概要

グローバル化と高度情報化が益々進展する現代社会においては、自己のアイデンティティを確立することが重要である。そのために、我々をとりまく文化、環境を再認識しながら自らの生き方や生活、仕事について考えることを目指す。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。
- ・自己理解の方法(「人生曲線」、「ジョハリの窓」等)、「計画的偶発性」について述べることができる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法			
各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	働くことの意味などを考えた上で、我々を取り巻く市場環境や「社会人基礎力」などを学ぶ。	高校生と大学生の違いと、働くことの意味について、調べ、考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第3回	自己理解の方法の全体像を理解した上で、テストの実施を通して学ぶ。「計画的偶発性」などを学ぶ。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などの概要を理解する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		

第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などの概要を理解する。	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第7回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第8回	これまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0		
その他	0		
<b>教科書</b>			
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房			
<b>参考文献</b>			
授業内で順次紹介する。			
<b>履修条件・留意事項等</b>			



- 各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- 出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- 講義中に私語が多い学生や講義とは関係のない行為をする学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	
配当年度	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。

授業の概要

これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
- ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。グループワークを実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法			
各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		

第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0		
その他	0		
<b>教科書</b>			
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房			
<b>参考文献</b>			
授業内で順次紹介する。			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

- 各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- 出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- グループワークが中心となるため、積極的参加を必須とする。
- 講義中に私語が多い学生やグループワークに取り組まない学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。
- 講義内容は、キャリア入門の振り返りを含む。

**備考欄**

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		生命科学				ナンバリング	1150
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	有賀 早苗						

授業の位置づけ

科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。「解剖学」、「生理学」、「生化学」(健康栄養)、「解剖学I」、「解剖学II」、「生理学I」、「生理学II」(看護、リハビリ)、「免疫学」(看護)、「教科教育法 理科」(こども発達)と連携する教養科目である。

授業の概要

生命科学の内容は私たちの健康、医療、食生活、生活環境などの日常生活に密接に関わっているだけではなく、持続的な社会の発展や生物多様性保全など地球生態系にも関係するヒトがよりよく生きるための知識である。この授業科目では、専門科目の学習に発展・深化しうる身近なトピックスを取り上げながら、生物に共通した細胞・分子レベルの仕組みから生物の特性を知り、ヒトと生態系との共生を考える知識基盤を築くと共に、遺伝子操作・再生医療等の科学的基礎理解から健全な生命倫理観の醸成基盤も築いていく。高等学校で生物を履修しなかった学生にも十分理解できるように、初歩的な事項から、最先端研究まで、興味が広がるように解説する。

到達目標

生物が物質から成る細胞を単位に構成されることを理解する  
 遺伝情報に基づく生物に共通した流れであるセントラルドグマを理解する  
 細胞・分子レベルから癌等の疾患の原因を理解する  
 遺伝子操作・再生医療等の基本的な仕組みを理解する

授業の方法

本授業で学ぶべき内容をわかりやすく解説したパワーポイントスライドの映写により講義を進め、指定した教科書も参照しながら学ぶ。第2回目からは講義開始時に前回講義内容に関するクイズ(自己採点、解答解説はGoogleクラスルームに掲載、成績評価には含めない)を実施し、内容理解と筆記試験に向けた準備をしていく。  
 アクティブラーニングとして、最終回の講義では小グループでのディスカッションに基づく課題研究発表を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法			
授業内に実施・解説するクイズの問題・解答を、Googleクラスルームに掲示する。 2回の筆記試験に向けた練習問題・解答もGoogleクラスルームに掲示する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	科目ガイダンス: 本科目の位置づけ、概要、到達目標、授業方法・進め方、成績評価等について、シラバスに基づき説明する。アンケート等により、履修学生の高等学校までの生物学学習状況を確認する。 講義内容: 非生物と異なる生物の特性、分子・細胞レベルで生物を捉える共通原理(分子生物学のセントラルドグマ)、生物が物質から成ることを理解する。	シラバスをよく読んで、この科目で学ぶこと、学習目標等を把握し、また教科書のp. 2~6, p. 15を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、生物を構成する分子で最も多い水分子の意義を説明できるようにする(90分程度)
担当教員			
第2回	分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、タンパク質について、基本構造と性質、生物・生命現象における機能・重要性について学ぶ。	教科書p. 7~8, p. 115を読み、疑問点・不明点を整理しておく。また、アミノ酸について簡単に調べておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質の変性について説明できるようにする(90分程度)
担当教員			
第3回	分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、核酸(DNA、RNA)について、共通する構造を学び、さらにDNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して認識できるよう解説する。	教科書p. 11~15, p.19を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して、それぞれ説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第4回	分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、RNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。	教科書 p. 14~16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整理し、遺伝暗号コドンがなぜ3文字(3塩基)配列なのか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第5回	生物の最小構成単位である細胞について、基本構造を学び、原核生物・真核生物の違いを学ぶ。真核生物を構成する真核細胞がもつ細胞内小器官、特に細胞膜、核、ミトコンドリアについて、構造・機能を学ぶ。現代生物学では生物とはみなされないウイルスについても概要を学ぶ。	教科書p. 11, p. 12~16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整理し、なぜウイルスは現代生物学では生物とみなされないのか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			

第6回	遺伝情報の複製について、2本鎖DNAの半保存的複製の分子機構の基礎を学ぶ。細胞の生活環である細胞周期の中で、細胞分裂に先立つ特定の時期においてのみ遺伝情報の複製が行われること、また真核生物のDNA末端の繰り返し配列テロメアについても学ぶ。	教科書p.48～49, p. 55～56を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、真核生物のDNA末端複製問題とはどのようなことか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第7回	セントラルドグマに沿った遺伝情報の発現の流れについて、転写・翻訳の分子機構の基礎、発現のしくみから見た原核生物・真核生物の違いを学ぶ。	教科書p. 12～16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、また、第1回から第7回の講義内容、出題されたクイズの問題を復習する。(90分程度)
担当教員			
第8回	筆記試験A：第1回から第7回までの授業内容に関する筆記試験(90分程度)を実施する。試験答案回収の後、試験問題と解答の解説を行う。	授業ノートを整理して、第1回から第7回の講義内容、出題されたクイズの問題を復習する。(90分程度)	授業ノートを読み返して、筆記試験Aの解答解説を今一度確認し、特に自身が誤答だった問題について復習する。(90分程度)
担当教員			
第9回	生物の進化について、生物の歴史、ダーウィンの『進化論』から木村資生の『中立説』、分子時計、RNAワールド仮説などを通して、進化が進歩ではなく多様性の増加であることを学ぶ。人類の進化についても、ミトコンドリア・イヴ説や鎌状赤血球症の分布などから学ぶ。	木村資生の『中立説』について簡単に調べ、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、ミトコンドリア・イヴ説はどのようにして考えられたか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第10回	多細胞生物を構成する細胞は生殖細胞と体細胞物とに大別されることを学び、生殖細胞から多様な体細胞が生じる細胞分化の過程は遺伝情報発現調節によって実現されていることを学ぶ。遺伝情報発現調節の分子機構について、大腸菌オペロンの例から仕組みの基礎を学ぶ。また、従来の遺伝学だけでは説明のできないエピジェネティクスについても概要を学ぶ。	教科書p. 24～26, p. 173を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、エピジェネティクスとはどのようなことか、説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			



第11回	多細胞生物1個体に属するすべての細胞は同一ゲノムをもつことに基づいたクローン動物、iPS細胞の作製原理について学ぶ。一方、限られた遺伝子数で多様性を実現する遺伝子の再構成、および動く遺伝子トランスポゾンについて学ぶ。	教科書p.20～22, p. 62～65を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、iPS細胞とはどのようなものか説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第12回	細胞の増殖・分化・死・癌化の相関性について学び、多細胞生物の宿命である癌の発症について、原因・分子機構の概略を学ぶ。多細胞生物の発生・個体維持に不可欠な細胞増殖・細胞分化・細胞死の制御機構が破綻した場合に細胞が癌化することを学ぶ。細胞癌化に関わる遺伝子群(原癌遺伝子群)は細胞増殖・分化・死の調節・制御に必須な遺伝子群であることを学ぶ。	教科書p. 48～57を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、原癌遺伝子群とはどのような遺伝子群か説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第13回	遺伝子そのものや発現調節を人工的に操作する遺伝子操作・バイオテクノロジーについて、方法の基礎を成す技術と、新たな展開を生んだPCR、ゲノム編集などの技術革新について学ぶ。 翌週授業で実施する筆記試験Bについて、および翌々週授業で実施のグループ発表の解説も行き、グループ編成等を伝える。	教科書p. 18, p. 23, p. 66～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(90分程度)	授業ノートを読み返して学習内容を確認・整理し、PCRとは何を利用したどのような技術か説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第14回	筆記試験B: これまでの全授業内容に関する筆記試験を実施する。試験答案回収後、試験問題と解答の解説を行う。 翌週授業でのグループ発表に向け、グループに分かれて準備作業を開始する。	授業ノートを整理して、第1回から第7回、第9回から第13回までの講義内容、出題されたクイズの問題、および練習問題を復習する。(90分程度)	グループ発表に向けた準備作業を行う。(90分程度)
担当教員			
第15回	グループ発表: 設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。 課題レポートについて解説する。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	グループ発表を踏まえ、課題レポートを作成する。(90分程度)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
みんなの生命科学 第2版 北口哲也・塚原伸次・坪井貴司・前川文彦 化学同人 ISBN 9784759820997		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理リテラシー(1組)				ナンバリング	1160
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目であり、数理・データサイエンス・AIへの関心を高めそれを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>コンピュータを用いた表計算、プレゼンテーションの基本操作を学ぶことにより、情報の分析方法およびプレゼンテーション方法を習得する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行うことができる。</li> <li>2. Excelによりデータの加工、可視化を行いデータの特徴を抽出することができる。</li> <li>3. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>Excelを用いた分析、Powerpointを用いた表現は各人がパソコンを操作して習得する。補足的な説明が必要な事項についてはパワーポイントを用いて講義形式で行う。特に第8回目はパワーポイントのプレゼンテーション資料を主体的に作成する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【データ活用プロセス】データ活用の概略についての知識を得る。 【情報の分析:Excelの基本1 データと数式の入力】データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する。数式の入力方法・コピーを習得する。相対参照と絶対参照の使い分けを習得する。	シラバスを読み、教科書のp20～p26とp91～p95を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報の分析:Excelの基本2 関数の使用法】ホームタブの合計ボタンから呼び出す関数の使用法、数式バーの関数挿入ボタンからの関数の使用法を習得する。数値分析に必要な関数の探し方を理解する。統計関数、数学/三角関数の使い方を習得する。	教科書のp96～p100を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報の分析:Excelの基本3 検索関数、条件分岐、データベース】あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する。条件に応じて処理を変えるIF関数の使い方を習得する。リスト形式のデータベースの基本的な操作である並べ替え、抽出を修得する。	教科書のp99～p105を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第4回	【情報の分析:Excelの基本4:ピボットテーブル、グラフ作成】データベースから集計表を作成できるピボットテーブル機能を修得する。Excelを用いた棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ、散布図などのグラフの特徴を学びそれらの作成方法を習得する。	教科書のp37～p41,p44～p48とp106～p116を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【情報の分析:データ分析演習】教科書記載の顧客分析に関するダミーデータを使用して、データ分析に必要な手順を学ぶ。インターネットの普及に関連した実データをもとにしてデータ分析の実際を学ぶ。	教科書のp42～p43とp52～p63とp127～p129を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第6回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本1-スライドの作成、ビジュアル表現】スライドの作成、コピーや移動方法、スライドの編集方法を習得する。ビジュアルな表現を実現するワードアート、SmartArtの作成法、Excelの表やグラフを挿入する方法を習得する。	教科書のp168～p174を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第7回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本2-効果の設定と実行操作】スライドへのテキストボックス、画像および図形の挿入方法を習得する。スライドショーにおける画面切り替え効果とアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作、リハーサル機能を習得する。	教科書のp165～p167を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析および結果の表現演習】データ分析からそれをもとにしたスライド作成までの演習を行う。	教科書のp34とp164を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス/ノア出版			
<b>参考文献</b>			
なし			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

なし
備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理リテラシー(2組)				ナンバリング	1160
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目であり、数理・データサイエンス・AIへの関心を高めそれを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>コンピュータを用いた表計算、プレゼンテーションの基本操作を学ぶことにより、情報の分析方法およびプレゼンテーション方法を習得する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行うことができる。</li> <li>2. Excelによりデータの加工、可視化を行いデータの特徴を抽出することができる。</li> <li>3. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>Excelを用いた分析、Powerpointを用いた表現は各人がパソコンを操作して習得する。補足的な説明が必要な事項についてはパワーポイントを用いて講義形式で行う。特に第8回目はパワーポイントのプレゼンテーション資料を主体的に作成する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【データ活用のプロセス】データ活用の概略についての知識を得る。 【情報の分析:Excelの基本1 データと数式の入力】データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する。数式の入力方法・コピーを習得する。相対参照と絶対参照の使い分けを習得する。	シラバスを読み、教科書のp20～p26とp91～p95を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報の分析:Excelの基本2 関数の使用法】ホームタブの合計ボタンから呼び出す関数の使用法、数式バーの関数挿入ボタンからの関数の使用法を習得する。数値分析に必要な関数の探し方を理解する。統計関数、数学/三角関数の使い方を習得する。	教科書のp96～p100を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報の分析:Excelの基本3 検索関数、条件分岐、データベース】あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する。条件に応じて処理を変えるIF関数の使い方を習得する。リスト形式のデータベースの基本的な操作である並べ替え、抽出を修得する。	教科書のp99～p105を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第4回	【情報の分析:Excelの基本4:ピボットテーブル、グラフ作成】データベースから集計表を作成できるピボットテーブル機能を修得する。Excelを用いた棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ、散布図などのグラフの特徴を学びそれらの作成方法を習得する。	教科書のp37～p41,p44～p48とp106～p116を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【情報の分析:データ分析演習】教科書記載の顧客分析に関するダミーデータを使用して、データ分析に必要な手順を学ぶ。インターネットの普及に関連した実データをもとにしてデータ分析の実際を学ぶ。	教科書のp42～p43とp52～p63とp127～p129を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			



第6回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本1-スライドの作成、ビジュアル表現】スライドの作成、コピーや移動方法、スライドの編集方法を習得する。ビジュアルな表現を実現するワードアート、SmartArtの作成法、Excelの表やグラフを挿入する方法を習得する。	教科書のp168～p174を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第7回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本2-効果の設定と実行操作】スライドへのテキストボックス、画像および図形の挿入方法を習得する。スライドショーにおける画面切り替え効果とアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作、リハーサル機能を習得する。	教科書のp165～p167を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析および結果の表現演習】データ分析からそれをもとにしたスライド作成までの演習を行う。	教科書のp34とp164を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス/ノア出版			
<b>参考文献</b>			
なし			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

なし
備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						

授業の位置づけ

「統計と社会調査法」(健康栄養学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻、地域未来学科)、「医療統計学」「理学療法研究」(リハビリテーション学科理学療法学専攻)と連携している教養科目である。

授業の概要

主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。

到達目標

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。  
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。  
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～p136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「パートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			

第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変数の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し宿題プリントを行うこと。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
特になし		
<b>備考欄</b>		
特になし		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	1166
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。                      数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。                      数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。                      数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。                      実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							



課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【データ・AI活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI ((Artificial Intelligence: 人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【言語生成系AIの活用の留意点】近年急速に発展したChatGPT等の言語生成系AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	教科書の第1講の1、第1講の2、第2講、第3講の1を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データを説明する方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数のデータの間の関係を調べるための散布図からわかること、相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	教科書の第6講を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【AIの手法1:教師あり学習(回帰)】AIに含まれる分析技術を理解する。機械学習の学習方式の違い(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	教科書の第5講の4のp74-p75, 第14講の1,第14講の2,第14講の6を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。	教科書の第14講の3のp216,第14講の4のp76-p77を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3:教師なし学習】教師なし機械学習の手法のうち、クラスタリング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスタリングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4:ニューラルネットワーク】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教科書の第14講の3のp217,第14講の7のp233,第5講の4のp226-p227を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第6回	<p>【社会におけるAIの利活用の現場】 実際の事例を紹介しながら、データの有用性と人の価値観を組み合わせたアプローチについて学ぶ。一般的なデータサイエンスのアプローチを通して業務改善を行った事例や、それによる変化などを紹介する。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、FOOD &amp; LIFE COMPANIES(スシロー)での事例を元に、DWH『SnowFlake』でのデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 最新のAI利活用事例として、『2023年はAIブーム』というテーマをもち、その社会の変化について予測や代表</p>	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第7回	<p>【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】 情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】 すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI(Ethical:倫理的、Legal:法的、Social Issues:社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。</p>	教科書の第7講の2のp99,第8講を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	<p>【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】 AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題(AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。</p>	教科書の第7講を読んでおく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	

教科書

はじめてのAIリテラシー／岡嶋裕史、吉田雅裕／技術評論社

参考文献

AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局  
Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社  
Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社

履修条件・留意事項等

なし
備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	1167
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>インターネットから目的とするデータを取得することができる。                      データを分析できる形に整えることができる。                      データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。                      データの特徴を説明することができる。                      任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<p>【データの取得】e-Statを利用してインターネットからデータを取得する実践を行う。</p> <p>【データを扱う方法】取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。</p> <p>【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。</p>	教科書の第6講の2を復習し、Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	<p>【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。</p> <p>【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。</p>	教科書の第6講の4を復習しておくExcelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	<p>【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。</p> <p>【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。</p>	教科書の第11講の4～6を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第4回	<p>【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。</p> <p>【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。</p> <p>【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。</p>	教科書の第11講の7と第12講の3～4を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	<p>【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。</p>	教科書の第14講の6を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	教科書の第14講の5を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。また、k-means法によるクラスタリングを体験する。 【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	主成分分析およびクラスタリング手法であるk-means法について調べておく。教科書の第5講の4のp.76,p.77を復習しておく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教師あり学習における分類の各手法の特徴およびニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
はじめてのAIリテラシー／岡嶋裕史、吉田雅裕／技術評論社(後期「数理・データサイエンス・AI入門」の教科書)			
<b>参考文献</b>			
AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。  
教科書は他の教科でも使用しているものなので、重複して購入しないように注意してください。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		物理学				ナンバリング	1152
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。                      「運動学Ⅰ」(理学、作業)、「運動学Ⅱ」(理学、作業)、「物理療法学Ⅰ」(理学)、「物理療法学Ⅱ」(理学)、「物理療法学演習」(理学)と連携している教養科目である。                      看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。                      理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・理解)」と特に関係がある科目である。                      作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関係がある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>物理学は広範な自然現象を統一的に理解しようとするものであり、全ての自然科学の基礎をなしている。ここでは、生体力学や運動学の基礎となるニュートン力学および熱力学の基本的な考えや電磁気学の基礎法則を理解し、剛体の力学、変形体の力学および生体組織の力学的性質および電気、電磁波、超音波の性質や生体作用について学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ニュートンの法則にもとづいて運動方程式を記述し、物体の運動を求めることができる。</li> <li>2. 力のモーメントを用いて剛体のつりあいの式を記述できる。</li> <li>3. 変形する物体の力学的性質や波動の性質について説明できる。</li> <li>4. 仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則、熱エネルギーについて説明できる。</li> <li>5. 電磁現象の概略(電気力や磁力の原因、電磁誘導、電磁波の性質)を説明できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。                      理解度確認テストを実施するとともに、コメントを書かせる(全15回)。                      毎回の内容について宿題を課す(1回目～14回目)。                      9回目と15回目に試験を実施する。                      フィードバックとして理解度確認テストと宿題の解説を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Formのテスト作成機能を用いて、確認テストと宿題として練習問題を提供し自主学習を促す。                      授業の動画(パワーポイントの説明に音声を入力したものを)をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし							



課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	はじめに 物理学で用いられる単位系について学ぶ。 力学1 【運動の記述】直線上を運動する物体の速度、加速度の計算方法を習得する。また、平面上の運動における物体の位置の表しかた、速度と速さの違いを理解する。	教科書のp5、p9～p10、p12、p14、p19、p25～p28を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	力学2 【運動の記述】平面上の運動における物体の加速度の向きを知る方法を理解する。【ニュートンの運動の法則】ニュートンの運動の3法則である慣性の法則、運動の法則( $F=ma$ )および作用反作用の法則を理解する。 ・物体に働く力の矢印の書き方を習得する。 ・等速円運動する物体に働く力の向きを理解する。	教科書のp29、p34～p37、p39～p40、p73～p75を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	力学3 【ニュートンの運動の法則の応用】・地球上の物体に働く重力と落下運動について理解する。・床等に置かれた物体が静止するために垂直抗力が働くことが必要なことを理解する。物体の運動方程式を立てることによって、物体に働く力や加速度を求める方法を習得する。・平面における運動式を理解する。	教科書のp41、p43、p46～p47を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第4回	力学4 【ニュートンの運動の法則の応用】・力の合成と分解を理解する。・静止摩擦力、最大摩擦力、動摩擦力のちがいを理解する。・垂直抗力と摩擦係数から最大摩擦力、動摩擦力を計算する方法を習得する。斜面上の物体の運動方程式を立てる方法を習得する。	教科書のp42～p43、p45下半分、p48～p50を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	力学5 【剛体の力学】・大きさがあるが変形しないというモデルである「剛体」の概念を理解する。物体の回転状態を変化させる作用である力のモーメントの計算方法を習得する。力のモーメントをもとにして重心という概念を理解できること、また重心の位置を計算する方法を習得する。	教科書のp42、p51を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第6回	<p>力学6【剛体の力学】・剛体の力学—剛体が回転せずにつりあうための条件を理解し、これに基づいて剛体に働く力を求める方法を習得する。 【仕事とエネルギー】仕事と仕事率の定義を理解する。</p>	<p>教科書のp44～p45、p52～p53、p59～p62を読んでおく。(90分)。</p>	<p>授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。</p>
担当教員			
第7回	<p>力学7【仕事とエネルギー】・重力の位置エネルギー、運動エネルギーの計算方法を習得する。・仕事と運動エネルギーとの関係から力学的エネルギー保存則が導かれることを理解する。・力学的エネルギー保存の法則を用いて運動する物体の速さを求める方法を習得する。・より広い意味のエネルギー保存則を理解する。 【慣性力】・非慣性系における、みかけの力(慣性力)を学び、遠心力が慣性力であることを理解する。</p>	<p>教科書のp62～p66、p93を読んでおく。(90分)。</p>	<p>授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。</p>
担当教員			
第8回	<p>力学8【変形する物体の静力学】・力を加えると変形するが、力を取り除くと元に戻る性質をもつ物体を弾性体という。弾性体のひずみが小さいとき、弾性体の変形のもととなる応力はひずみに比例する。このときの比例定数が弾性定数であり、これを用いて物体の変形量を計算する方法を習得する。また、いくつかの弾性率(ヤング率、剛性率)の違いを知る。</p>	<p>教科書のp101～p104を読んでおく。(90分)。</p>	<p>授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。</p>
担当教員			
第9回	<p>力学9【流体の力学】・流体の力学—流体とはなにか、またその圧力の特徴を理解する。流体の密度や、ある深さにおける流体の圧力の計算方法を習得する。粘性がずれ応力であることを理解する。 ★授業の1回目から7回目の内容を範囲とした試験を行う。</p>	<p>教科書のp95～p101、p104～p108を読んでおく。(90分)。</p>	<p>授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。</p>
担当教員			
第10回	<p>【波動】・波の表し方および波の基本式を理解する。・正弦波が波の基本的な形であることを理解する。・波の干渉と回折について理解する。・弦に生じる定在波の固有振動の計算を修得する。・超音波の性質を学ぶ。</p>	<p>教科書のp114～p124を読んでおく。(90分)。</p>	<p>授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。</p>
担当教員			

第11回	電磁気学1【電気力】・電気現象を引き起こす電荷について理解する。・真空中の電荷の間に働く力である電気力(クーロン力)の性質を学ぶ。電気力を働かせる空間である電場の概念を理解する。電位の定義を理解し電位差と電気量から電気力がした仕事量を計算する方法を習得する。・電場によって物体表面に電荷が現れる現象である静電誘導について理解する。	教科書のp158～p161、p162～p171を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第12回	電磁気学2【電流・電気回路】・電流、電圧と電気抵抗との間の関係であるオームの法則を理解する。・電力およびジュール熱の計算し、抵抗の発熱量を計算する方法を習得する。・交流による電力と実効値を理解する。・電荷を蓄える装置であるキャパシタの性質を理解する。・比誘電率について理解する。	教科書のp161～p162、p164～p165、p173～p175、p177～p179、p182～p184、p206～p208を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第13回	電磁気学3【磁場】・磁場の性質を理解する。・電流が磁場を発生されることを知り、定常電流がどのような向きの磁場を生じるかを理解する。・磁場中で運動する荷電粒子に働くローレンツ力の向き、また磁場中で電流が流れている導線に働く力を理解する。	教科書のp191～p199を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第14回	電磁気学4【電磁誘導】・電磁誘導(ファラデーの法則)、磁場が時間変化することにより電場が発生することを理解する。・磁場中でコイルを動かすと、磁場が時間変化していてもコイルに電流が流れることを理解する。・電場の変化によって磁場の発生することを理解する。・電磁波の発生機序を理解する。	教科書のp199～p203、p212～p214を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第15回	【熱力学】・熱の移動方法は主に熱伝導、対流、熱輻射の3つがある。このうち熱伝導の性質、熱輻射の性質を理解する。 ★授業の8回目から14回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp136～p144、p147、p149～p150を読んでおく。(90分)。	授業で行った全範囲について復習しておく(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
第3版 物理学入門 Web動画付／原康夫／学術出版図書		
<b>参考文献</b>		
医療系のための物理／佐藤幸一他／東京教学社		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
理学療法学専攻の学生は、運動学、物理療法学の基本となるので、高校で物理基礎のみ履修の学生、それすら未履修の学生は必ず履修すること。作業療法学専攻の学生は、運動学の基本となるので履修するとよい。看護学科、健康栄養学科の学生は専門に直結するわけではないので数理分野が得意で興味があれば履修してもよい。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		基礎化学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、佐々木 将太						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>化学的知識を学ぶことによって、幅広い教養を身に付けるための科目である。生化学、基礎栄養学などの科目に必要とされる基礎的知識を学ぶ科目である。理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」と、作業療法学科では「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>私たちの身近に存在する物質や身の回りで起こる現象が、どのように化学と結びついているのかを理解するために、化学の基礎知識を習得する。今後専門科目を履修していく上で、化学に関する基礎学力の不足によって支障が生じないように化学の基礎知識を習得する。特に、モル概念、化学反応式の量的関係、濃度等の計算問題をしっかり理解する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原子の構造から、イオン、原子価を理解し、化学結合について説明できる。</li> <li>2. 化学反応式の表す意味を理解し、反応式の量的関係の計算ができる。</li> <li>3. 濃度計算ができる。(パーセント濃度、モル濃度)</li> <li>4. 酸・塩基の定義を理解し、水素イオン濃度とpHの値を求めることができる。</li> <li>5. 飽和炭化水素、特にアルカンの分子式、示性式、構造式を書くことができる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントによる講義形式で、必要に応じてプリント配布する。理解度を確認するため、確認テストを実施する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>確認テストや、授業資料の配布にGoogleフォームやGoogle Classroomなどを使用する。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
Googleフォームによる確認テスト時は、回答送信後、得点および誤答に対する解説を返信する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(佐々木) ・オリエンテーション ・原子の構造について学習する ・電子配置について学習する。	「原子核」、「電子」、「陽子」、「中性子」、「質量数」などの化学用語及び電子配置図について調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を、自分の力で再度解答する。電子配置図を正確に書けるようにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第2回	(佐々木) ・イオンについて学習する。 ・電子式の書き方について学習する。(有機化学の分野でも使用) ・化学結合について学習する。 (1) イオン結合 (2) 共有結合(同種原子)	イオン結合、共有結合について調べておく。 「電子式」「構造式」の書き方について調べておく。(90分)	「電子式」「構造式」を確実に書くことができる。 化学式の表記の仕方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第3回	(佐々木) ・化学結合について学習する。 (3)共有結合(異種原子) ・化学式の読み方について、別紙プリントを配布して学習する。 ・分子量の求め方を学習する。	「共有結合」特に単結合、二重結合について、調べておく。 分子量の求め方を調べておく。(90分)	「共有結合」について、説明できるようにする。化学式が確実に読め、かつ書くことができ、分子量を求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第4回	(佐々木) ・物質質量(モル)の概念について学習する。 ・物質質量(モル)の求め方について学習する。	「アボガドロ数」と「モル」の計算上での関係を調べておく。(90分)	講義で出題された問題を復習することで、考え方、求め方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第5回	(佐々木) ・化学反応式の量的関係について学習する。 (化学反応式を使った計算問題を解く)	化学反応式の係数が持つ意味について、計算にどのような使い方をするか確認しておく。(90分)	「モル」「体積」「アボガドロ数」「分子量」の相互関係を確実に理解し、計算で求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		

第6回	(藤井) ・質量パーセント濃度についてしっかり学習する。	質量パーセント濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第7回	(藤井) ・モル濃度についてしっかり学習する。 (1) 固体 (2) 液体	モル濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第8回	(藤井) ・酸と塩基について学習する。 ・中和反応について学習する。	中和滴定を利用して、濃度の求め方を確認しておく。 特に、食酢中の酢酸の定量について確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第9回	(藤井) ・水素イオン濃度について学習する。 ・酸化・還元について学習する。	水素イオン濃度とpHの関係について調べておく。 酸化か還元かの判定方法について事前に調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を復習し、pHと水素イオン濃度の関係を理解する。 酸化・還元の判断も確実にできる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第10回	(藤井) ・有機化合物の歴史について学習する。 ・有機化合物(炭化水素化合物)の分類について学習する。 ・有機化合物の表し方(分子式、示性式、構造式)について学習する。	「分子式」「示性式」「構造式」の表し方の違いについて事前に調べておく。(90分)	簡単な有機化合物の「示性式」「構造式」を書くことにより、違いを確認し分類できる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第11回	(藤井) ・飽和炭化水素のアルカンについて学習する。 (1)アルカンの性質 (2)アルカンの反応 (3)構造異性体	身近に存在する有機化合物である「アルカン」の性質、特徴及び用途について調べておく。(90分)	講義の内容を復習し、特に構造異性体の構造式を確実に書くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第12回	(藤井) ・IUPAC命名法について学習する。 ・不飽和炭化水素(アルケン)について学習する。 (1)アルケンの性質 (2)アルケンの反応	IUPAC命名法、アルケンの性質、特徴及び付加反応について事前に調べておく。(90分)	IUPAC命名法を用いて確実に物質名を答えることができる。付加反応について理解する。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第13回	(藤井) ・アルコールについて学習する。 (1)アルコールの利用方法 (2)アルコールの分類 (3)アルコールの命名法 (4)線描構造式	基本的なアルコールである「メタノール」「エタノール」「プロパノール」について調べておく。(90分)	講義内容を復習し、「アルコールの酸化」「アルコールの命名法」等自分の言葉で説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第14回	(藤井) ・芳香族炭化水素について学習する。 (1)歴史 (2)構造異性体・命名法 (3)置換反応	「芳香族炭化水素」の構造の特徴や構造異性体について調べておく。(90分)	講義の中で出題された問題をしっかりと復習し、構造異性体、置換反応について、説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第15回	(藤井) ・身の回りに存在する芳香族炭化水素について学習する。	身の回りに存在する代表的な芳香族炭化水素について調べておく。(90分)	生活環境の中に多くの有機化合物が存在することを知らることにより、今後の生活での意識改革に繋がるとよい。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		



定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
特に指定しない。		
<b>参考文献</b>		
高校で使用した「教科書」または「参考書」があれば良い。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
特になし。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I (1組)				ナンバリング	1170
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Patrick Hall						

授業の位置づけ

グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係、地域未来学科のディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと関係がある科目である。グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)。

授業の概要

本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを習得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行うために必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。

到達目標

Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法			
The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (90 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.1 (90minutes)
担当教員	Walzem Allen George		
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 1 part II p. 17-19 (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		

第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (90minutes)	Review vocabulary and concepts (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (90 Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare p41-43 (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		

第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (90 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (90 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! (90 minutes or more)	Prepare for final exam!! (at least 90 minutes)
担当教員	Walzem Allen George		
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (up to 90 minutes)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (90 minutes, if necessary)
担当教員	Walzem Allen George		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
<b>教科書</b>		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
<b>参考文献</b>		
Handouts will be given in class		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻							
区分								教養科目 外国語							
科目名								英語 I (2組)				ナンバリング		1170	
配当年度		1年		開講学期		2024年度前期		区分		演習		単位		1	
担当教員		Patrick Hall													
<b>授業の位置づけ</b>															
<p>グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係、地域未来学科のディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと関係がある科目である。グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)。</p>															
<b>授業の概要</b>															
<p>本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを習得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行うために必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。</p>															
<b>到達目標</b>															
<p>Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)</p>															
<b>授業の方法</b>															
<p>This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.</p>															
<b>ICT活用</b>															
<p>If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).</p>															
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>															
<p>Not Applicable</p>															

課題に対するフィードバックの方法			
The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (90 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.1 (90minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 1 part II p. 17-19 (90 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (90 Min)
担当教員			
第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (90 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (90 Min)
担当教員			



第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (90 Min)
担当教員			
第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (90minutes)	Review vocabulary and concepts (90 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (90 Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (90 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare p41-43 (90 Min)
担当教員			
第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (90 Min)
担当教員			

第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (90 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (90minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (90 Min)
担当教員			
第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (90 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (90 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! (90 minutes or more)	Prepare for final exam!! (90 minutes minimum)
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (up to 90 minutes)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (no more than 90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	

**教科書**

English Firsthand, Fifth Edition  
 Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown  
 Published by Pearson

**参考文献**

Handouts will be given in class

**履修条件・留意事項等**

please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class

**備考欄**

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ				ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと関係がある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>本科目では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行う。さらに、それらを用いて英語で自己表現することに慣れることを目的とする。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>Students will continue to practice normal, daily-life English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>Not applicable</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Class intro, syllabus, first grammar pattern	Go over syllabus, semester 1 materials if needed (25 minutes)	Preview Unit 7, Part I, p60-64 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第2回	Unit 7 Part I p60-64: I'd love that job. Asking and answering questions about job skills. 20 questions for jobs game. Questions about job related stress and injuries.	Review unit 7 vocabulary and concepts (p60-64) (25minutes)	Please read and prepare Unit 7 Part II, p65-67 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第3回	Unit 7 Part II p65-67 : I'd love that job. Asking and answering questions about job skills. 20 questions for jobs game. Questions about job related stress and injuries.	Preview Unit 8, Part I, p6-72 (25 minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第4回	. Unit 8 Part I, p68-72: Talking about opinions and making plans. Describing people and activities in present progressive tense.	Review unit 8 Part I, p68-72, vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit Part II, p73-75 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第5回	Unit 8 Part II, p73-75: Talking about opinions and making plans. Describing people and activities in present progressive tense.	Review unit 8 part II (p73-75) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 9, Part I, p76-80 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		

第6回	Unit 9 Part I p76-80 : What are you going to do? Future plans, including patient scheduling.	Review unit 9, p76-80 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 9 Part II, p81-83 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第7回	Unit 9 Part II p81-83: What are you going to do? Future plans, including patient scheduling.	Prepare for midterm exam!! (as much time as you need, but probably over 1 hour)	Review vocab, grammar, concepts from Units 6-9 (as long as needed)
担当教員	Walzem Allen George		
第8回	Midterm exam	Go over exam materials	Prepare for Unit 10, Part I, p.84-88
担当教員	Walzem Allen George		
第9回	Unit 10 Part I, p84-88 : Using intensives and intensifier, comparing things (-er, est, etc.)	Review unit 10 p84-88 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 10 part II, p89-91 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第10回	Unit 10 part II, p89-91 : Using intensives and intensifier, comparing things (-er, est, etc.)	Review unit 10 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 11, Part I, p92-96 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		

第11回	Unit 11, Part I, p92-96 : Giving and following instructions. Telling a patient about exercise, therapy, or other activities.	Review unit 11 Part I, p92-96, vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 11, Part II, p97-99 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第12回	Unit 11, Part II, p97-99 : Giving and following instructions. Telling a patient about exercise, therapy, or other activities.	Review unit 11 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 12, Part I, p100-104 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第13回	Unit 12, Part I, p100-104: Small talk about interests and activities, giving and receiving professional opinions.	Review unit 12 Part I (p100-104) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 12, Part II, p105-107 (20 Min)
担当教員	Walzem Allen George		
第14回	Unit 12, Part II, p105-107 : Small talk about interests and activities, giving and receiving professional opinions.	Review Units 10-12 thoroughly! Study notes given by teacher during classes, and especially during week 14! (2 or more hours!)	Prepare for final exam !! (as much time as you need)
担当教員	Walzem Allen George		
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (20 minutes to check, if necessary)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor Walzem (20 minutes, or as long as needed)
担当教員	Walzem Allen George		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson 2018		
<b>参考文献</b>		
Handouts will be given in class		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
Not applicable.		
<b>備考欄</b>		
Please bring textbook, pen or pencil, and paper to every class		



2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Joseph S Tomasine						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>学生の「関心・意欲・態度」の形成を図り、グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる人を育てる科目として位置付けられる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>これまで学んだことの総括として、健康・医療・食品・教育 などに関するテーマの英文に触れ、与えられた課題について短いレポートを書いたり、実践的な会話を行える能力を養う。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>By the end of this course, students will be able to plan future English language learning using authentic written material from their specialty area.</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>This course utilizes a variety of learning structures, including teacher-directed instruction, task-based group work and individualized work.</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>The course utilizes the learning management system Google Classroom as well as the associated multimedia tools for creating documents (Google Docs), presentations (Google Slides), and synchronous online meetings (Google Meets).</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>The instructor has a Masters of Arts in Teaching with a speciality in Teaching English to Speakers of Other Languages, as well as 15 years of teaching experience in the classroom.</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
Feedback will be given on each individual assignment, at the end of each group work task and in response to each test; it will be given orally to groups and in writing to individuals.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(1) Students will learn about the course, its methods and its assessments. (2) Students will learn about the systems of language: phonetics, vocabulary, grammar, discourse	Students will read the syllabus, consider their goals for the course and prepare questions to ask the teacher. (45 minutes)	Students will re-read the syllabus, revise their goals for the course and review their notes from the lecture. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第2回	Students will experience a range of English language learning structures which they will rate and indicate their preferences for during the rest of the course.	(1) Students will reflect on their language learning history, their learning style and the learning structures they prefer. (2) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will respond to a survey about their preferences in learning structures. (2) Students will review their notes from the lecture. (3) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第3回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第4回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (OT) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第5回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		

第6回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第7回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on report writing skills (paragraph structure). (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第8回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on report writing skills (essay structure). (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第9回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 1: get ideas) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by getting ideas. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第10回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 2: rough draft) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by completing a rough draft. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		

第11回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 3: revise) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by revising their rough draft (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第12回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 4: edit) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by editing their revised draft. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第13回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 5: polish) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will complete their report by polishing their edited draft. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第14回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) As necessary, students will take part in a student-led presentation (3) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will submit their report. (45 minutes) *Students will NOT prepare an issue log	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
第15回	(1) Students will take their test. (2) Students will receive feedback on their report.	(1) Students will prepare for their test. (2) Students will self-assess their report. (45 minutes) *Students will NOT prepare an issue log.	(1) Students will reflect on their performance on the test. (2) Students will reflect on their performance on the report. (45 minutes)
担当教員	Joseph S Tomasine		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
This class does not use a textbook.		
<b>参考文献</b>		
All materials will be distributed by the instructor.		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
Not applicable.		
<b>備考欄</b>		
Not applicable.		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語 I				ナンバリング	1178
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						
<b>授業の位置づけ</b>							
初年度教育の一環として、これから専門領域を学習する心構えを養うための科目である。							
<b>授業の概要</b>							
中国語の発音をマスターする(ローマ字を見て発音できる、発音を聞いてローマ字に直せるようになる)ということは、中国語の基礎をマスターすることに等しい。この授業では、日本人の習慣を考慮した学習法により、効率的に中国語の発音をマスターすることを目指す。また、それと同時に、基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。							
<b>到達目標</b>							
中国語の発音と基本文型を理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。							
<b>授業の方法</b>							
読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物などの多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。履修者の理解度によって、講義の内容と授業の進捗状況を微調整する可能性がある。							
<b>ICT活用</b>							
Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし。							

課題に対するフィードバックの方法			
毎回授業開始時に配られるノートを兼ねたプリントの答えを記入して授業終了後に提出し、次回に返却されたものを見ながら重要点を復習する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 中国語とは？ 予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分(p.6-10)について、予習すること。(90分)	四声、声調符号の付け方について復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。 単母音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。 単母音をマスターした後に、2重母音、3重母音の複母音について訓練する。	学習予定の部分(p.12-14)について、予習すること。(90分)	母音と声調を合わせて、正しく発音できるように練習すること(90分)
担当教員			
第3回	発音③ 子音(1)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。また、中国語の有気音と無気音の違いについては、徹底して発音訓練を行う。	学習予定の部分(p.16~18)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるように練習すること。(90分)
担当教員			
第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。	学習予定の部分(p.20~22)について、予習すること。(90分)	子音と声調を合わせて、正しく発音できるよう復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。 S+“是”+O S+“不是”+O	学習予定部分(p.24~27)について、予習すること。(90分)	p.29の振り返りシートを完成すること。p.25の本文をよく読み、録音し、次回授業前日までに提出。(90分)
担当教員			

第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。 S(人)+“叫”+フルネーム S(人)+“姓”+苗字	授業の前に学習予定の部分(p.30~33)について、予習すること。(90分)	自分の名前や相手の名前を尋ねる表現を復習すること(90分)
担当教員			
第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分(p.36~39)について、予習すること。(90分)	動詞を用いた基本的な文型と選択疑問文について復習する(90分)。
担当教員			
第8回	I、二つ以上の動詞からなる文——連動文 II、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分(p.42~45)について、予習すること。(90分)	講義で学んだ動詞を使って文を作る練習をすること(90分)。
担当教員			
第9回	“有”を用いた文型をマスターする。 S+“有”+O S+“没有”+O “在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。 S+“在”+場所 場所+“有”+S	学習予定の部分(p.48~51)について、予習すること。(90分)	講義内容の復習をし、p.53の振り返りシートを完成すること(90分)
担当教員			
第10回	I、年月日、曜日の言い方 II、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分(p.54~57)について、予習すること。(90分)	講義内容を復習し、p.59の振り返りシートを完成すること。(90分)
担当教員			



第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分(p.60～63)について、予習すること。(90分)	講義内容を復習し、p.65の振り返りシートを完成すること。(90分)
担当教員			
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分(p.66～69)について、予習すること。(90分)	講義内容を復習し、p.71の振り返りシートを完成すること(90分)。
担当教員			
第13回	I、年齢の言い方と尋ね方 II、前置詞“在”	学習予定の部分(p.72～75)について、予習すること。(90分)	講義内容を復習し、p.77の振り返りシートを完成すること。(90分)。
担当教員			
第14回	I、文末助詞の“了” II、動詞の重ね(AA A“一”A “一下”)	学習予定部分(p.78～81)について、予習すること。(90分)	講義内容を復習し、p.83の振り返りシートを完成すること。(90分)。
担当教員			
第15回	小テストを行う	学習した部分(第1課～14課)を復習すること。(60分)	小テストの内容を確認すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
「いま始めよう！アクティブラーニング - 初級中国語」陳淑梅(著), 張国璐(著)		
<b>参考文献</b>		
授業中に適宜指示する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
無断欠席は必ず減点要素になる。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
<b>区分</b>		教養科目 外国語					
<b>科目名</b>		中国語Ⅱ				<b>ナンバリング</b>	1179
<b>配当年次</b>	1年	<b>開講学期</b>	2024年度後期	<b>区分</b>	演習	<b>単位</b>	1
<b>担当教員</b>	玉 珍						
<b>授業の位置づけ</b>							
初年度教育の一環として、これから専門領域を学習する心構えを養うための科目である。							
<b>授業の概要</b>							
この授業では、前期に引き続き中国語の発音をマスターすることと同時に、基本的な語彙や、すぐに医療現場で役に立つ会話句をも紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。							
<b>到達目標</b>							
中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。							
<b>授業の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントと配布印刷物を用いた方法で説明し、グループ学習を行う。</li> <li>・小テストを行い、理解度を確認する。</li> </ul>							
<b>ICT活用</b>							
Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
(なし)							

課題に対するフィードバックの方法			
課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	前期で学んだの中国語の発音・ 文法・語彙を復習すること。(90 分)	講義で学んだ発音、文法、語彙 のまとめをすること(90分)
担当教員			
第2回	中国の医療保健制度や病院、西洋医学と中医学について 理解する 中国語の発音(声調、母音)習得できる	教科書p.7-15を予習する(90分)	教科書p.9, 12, 16の練習問題 を完成する(90分)
担当教員			
第3回	第4課: 自我介绍 第5課: 医院指南 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.17-23を予習する(90 分)	教科書p.20, 24の練習問題を完 成する(90分)
担当教員			
第4回	第6 課: 门诊确认 第7 課: 既往病史 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.25-31を予習する(90 分)	教科書p.28, 32の練習問題を完 成する(90分)
担当教員			
第5回	第8 課: 诊断治疗 第9 課: 骨折疗养 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.33-39を予習する(90 分)	教科書p.36, 40の練習問題を完 成する(90分)
担当教員			

第6回	第10課:対症下薬 第11課:答疑解難 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.41-47を予習する(90分)	教科書p.44, 48の練習問題を完成する(90分)
担当教員			
第7回	第12課:予約就診 第13課:外科急診 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.49-55を予習する(90分)	教科書p.52, 56の練習問題を完成する(90分)
担当教員			
第8回	第14課:住院生活 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.57-59を予習する(90分)	教科書p.60の練習問題を完成する(90分)
担当教員			
第9回	第15課:日常交际 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.61-63を予習する(90分)	教科書p.64の練習問題を完成する(90分)
担当教員			
第10回	第16課:康复出院 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.65-67を予習する(90分)	教科書p.68の練習問題を完成する(90分)
担当教員			

第11回	常用表現 (1) 日常寒暄 (2) 院内施設 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.69-72を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員			
第12回	常用表現 (3) 挂号候診 (4) 身体部位 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.73-76を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員			
第13回	常用表現 (5) 病名症状 (6) 问诊治疗 (7) 注射点滴 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.77-82を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員			
第14回	常用表現 (8) 常规検査 (9) 特殊検査 (10) 住院出院 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.83-88を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員			
第15回	常用表現 (11) 付款窓口 (12) 薬房指南 必要な単語をマスターし、発音できるようになる  小テスト	教科書p.89-92を予習する 1-14回の授業で学んだことを復習すること(90分)	授業で学んだ単語を使って簡単な会話ができるように復習を行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
看護・保健・医療スタッフの基礎中国語 著者:劉建		
<b>参考文献</b>		
指定しない		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
遅刻は減点の対象になるので注意すること。 前期の中国語 I を履修しているか、中国語の基礎をマスターしていることを前提とする。		
<b>備考欄</b>		
遅刻は減点の対象になるので注意すること。		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語 I				ナンバリング	1188
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」 「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>国際社会で活躍するには何よりコミュニケーションの手段としての外国語習得が不可欠である。韓国語Iでは、韓国語をはじめて学ぶ学生を対象とした科目である。この科目では韓国語の学習にとって大切な「読む、書く、話す、聞く」の四つの技能を身につけ、その運用能力を養うことを目的に、まず韓国語の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや発音の基礎を学ぶ。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語の基礎的な読み・書きができる。</li> <li>・韓国語で簡単な自己紹介ができる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、パワーポイントと教科書を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。</li> </ul>							
<b>ICT活用</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Google formを用いた課題提出を行ってもらう。</li> </ul>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
なし							



課題に対するフィードバックの方法			
課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・ハングルについて ・ハングルの特徴について理解する	ハングル文字について確認しておくこと(90分)	講義で配布した資料および教科書を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	第1課 おはようございますー出会い I ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語の母音を発音・書くことができる	教科書p1-4を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p1-4を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	第2課 おはようー出会い II ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語の子音を発音・書くことができる	教科書p5-8を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p5-8を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第4回	第3課 さようならー別れ I ・韓国語で挨拶ができる ・濁り音の理解・発音・書くことができる	教科書p9-12を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p9-12を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第5回	第4課 明日またねー別れ II ・韓国語で挨拶ができる ・激音の理解・発音・書くことができる	教科書p13-16を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p13-16を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第6回	第1-4課のまとめと復習 ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語を発音・書くことができる ・小テスト①	教科書p1-16を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-16を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第7回	第5課 これ、どうですか ・韓国語で尋ねる・答えることができる ・濃音を理解・発音・書くことができる	教科書p17-20を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p17-20を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	第6課 ありがとう ・韓国語で感謝を表現することができる ・半母音を理解・発音・書くことができる	教科書p21-24を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p21-24を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	第7課 ありがとうございます ・韓国語で丁寧に感謝を表現することができる ・バッチムを理解・発音・書くことができる	教科書p25-28を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p25-28を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第10回	第8課 何ですか ・韓国語で質問することができる ・連音を理解・発音することができる ・数字を読むことができる	教科書p32-38を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p32-38を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第11回	第5-8課のまとめと復習 ・韓国語で質問や答えができる ・韓国語を発音・書くことができる ・小テスト②	教科書p17-38を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p17-38を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	第9課 申し訳ありません ・韓国語で謝罪することができる ・弱音化・鼻音化 I を理解・発音することができる	教科書p39-41を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p39-41を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第13回	第10課 私は山崎未来です ・韓国語で自己紹介することができる ・助詞・疑問詞を理解・発音することができる	教科書p42-47を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p42-47を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第14回	第11課 誕生日はいつですか？ ・韓国語で日付を理解・発音することができる ・韓国の記念日を発音することができる	教科書p48-51を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p48-51を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第15回	第1-11課のまとめと復習 ・韓国語を発音・書くことができる ・簡単な会話ができる ・小テスト③	教科書p1-51を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-51を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
コミュニケーション韓国語聞いて話そう I 長谷川由起子 白帝社		
<b>参考文献</b>		
指定なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
なし		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語 II				ナンバリング	1189
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」に関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>韓国語 II では、韓国語 I に引き続き、韓国語の文法や発音を学び、挨拶や自己紹介等の基礎的なコミュニケーションを学ぶことに加え、韓国の社会や文化についての理解も深め、コミュニケーション能力および国際感覚を身につける。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語の基礎的な読み・書きができる。</li> <li>・韓国語で簡単な会話ができる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、パワーポイントと配布印刷物を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。</li> <li>・小テストを行い、理解度を確認する。</li> </ul>							
<b>ICT活用</b>							
なし							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
なし							

課題に対するフィードバックの方法			
課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・第1～11課の復習 ・第1～11課の復習を行う	第1～11課の復習しておくこと (90分)	講義で配布した資料および教科書を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	第12課 なに学科ですか一所属と学年 ・疑問詞を使うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p52-55を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p52-55を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	第13課 僕は音楽が好きです ・好みの表現ができる ・助詞の表現ができる	教科書p56-59を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p56-59を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第4回	第14課 未来さんの携帯じゃありませんか ・指し示す言葉や所有・所属の表現ができる ・否定文が理解できる	教科書p60-63を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p60-63を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第5回	第15課 彼女いますか？ ・存在表現ができる ・丁寧語・助詞の表現ができる	教科書p64-67を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p64-67を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第6回	第16課 満では19です ・年齢を言うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p68-73を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p68-73を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第7回	第12-16課 まとめと復習 ・小テスト①	教科書p52-67を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p52-67を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	第17課 K-POPに大いに興味があります ・流音化・2重パッチムが理解できる ・助詞が表現できる	教科書p74-79を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74-79を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	第18課 大学で習っています① ・否定表現ができる ・助詞が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第10回	第18課 大学で習っています② ・否定表現ができる ・助詞が表現できる ・逆接の接続語尾が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第11回	第19課 先週末何をしましたか ・過去形が理解できる ・行き来の目的を表す表現ができる	教科書p88-93を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p88-93を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	第20課 ソウルに旅行しようと思っています ・予定・つもりの表現ができる ・希望表現ができる	教科書p94-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p94-99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第13回	第17-20課 復習およびまとめ 小テスト②	教科書p74-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74-99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第14回	韓国に行くならどこに行く？そこで何を食べる？グループ学習 ・韓国の旅行先についてグループで話し合い、予定を計画する ・計画を発表する	韓国の地理について予習する(90分)	講義の資料や発表資料を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第15回	第1-20課のまとめと復習 小テスト③	教科書p1-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		



定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	0	
その他	0	
<b>教科書</b>		
コミュニケーション韓国語聞いて話そう I 長谷川由起子 白帝社		
<b>参考文献</b>		
指定なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
なし		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I (1組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。ディプロマポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。                  ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。                  ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。                  ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。                  ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
なし							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関する注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール(4) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
特になし、必要に応じて資料を配付		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
<b>備考欄</b>		
(Blank)		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I (2組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。ディプロマポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。                  ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。                  ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。                  ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。                  ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
なし							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関する注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			



第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
特になし、必要に応じて資料を配付		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ(1組)				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。ディプロマポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>参加者のレベルに応じて展開するスポーツ及び軽スポーツの方法論について、個々の学生がすでに修得しているスポーツの技術・技能レベルを基礎として、設備・用具等を含め、実践を通して考察する。とりわけ、北海道の自然環境を活かしたスポーツ活動を実際に行いながら、生活の中に運動に親しむ活動時間を定着させ、生涯にわたって、仲間とともにスポーツを継続できる知識と実践法を学ぶ。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。                  ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。                  ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。                  ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。                  ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
なし							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。(20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第6回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第7回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(3) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンピプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	ニュースポーツ(5) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	ニュースポーツ(6) 応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
特になし、必要に応じて資料を配付		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		



2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ(2組)				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。ディプロマポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。                  ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。                  ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。                  ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。                  ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
なし							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関する注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
特になし、必要に応じて資料を配付		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		人間発達学				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、専門領域の学習のための基礎を学び、専門用語の読み書きを獲得する科目である。本科目は理学療法学専攻では「小児科学」「子どもの理学療法学」「子どもの理学療法学演習」、作業療法学専攻では「発達障害作業療法治療学」、「発達障害作業療法学演習」の基礎となる科目である。本科目は理学療法学専攻のディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技能を身につけている(知識・技能)」と関連しており、特に「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と強く関連している。また「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」と関連している。また作業療法学専攻では「作業療法を実践するために必要な基本的な知識を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と関連している。特に「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」と強く関連している。本科目は正常運動発達、認知機能発達、日常生活動作の発達など、年齢ごとに変化していく機能について基本的知識を修得する科目である。

授業の概要

この科目では人間発達がいかなるものであるか、それにどのような要因が影響するのかという事を通して、人間は発達するものとしての理解を深める。胎生期から成人するまでの運動、認知能力、社会性、摂食嚥下、家族関係等の発達から、発達上の課題を学ぶ。発達概念、発達の理論、発達検査、運動発達など様々な発達を学習し、発達に影響を及ぼす要因を理解し、人間の発達がどのように起こり得るかについて理解を深める。さらに成人・老人までを生涯発達と捉え、各ライフステージの課題を理解することで、障害学や疾患との結びつきを考える基礎を学習する。

到達目標

1. 人間の発達とは何か説明できる
2. 発達検査・評価の種類を学習して必要に応じた選択ができる
3. 運動発達と姿勢反射の関係を説明できる
4. 子どもの発達には環境が影響することを説明できる

授業の方法

教科書、教科書の内容をわかりやすく説明するためにパワーポイント、動画、配付資料を使用して講義形式ですすめる。理解度を確認するために、講義中にまとめレポート、15回目の講義の中でまとめテストを行う。

ICT活用

Google classroomを使用した資料配付、必要に応じて動画配信を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の34年の実務経験があり、現在でも地域の発達支援センターにて、保護者を含めた子どもの発達支援を行っている。新生児・乳幼児から学齢児、大人まで成長した人の支援の経験を元に、発達の遅れの児、発達性協調運動障害などの発達支援に必要な内容を教育する。

課題に対するフィードバックの方法			
授業時間内のレポート作成は、授業時間内に課題を提示する。レポートについては授業時間に回収して、確認後、必要に応じて紙面に記載してフィードバックする			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達概念について 発達の定義、発達の原則などについて学習する	教科書第1章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第2回	発達の理論 ライフサイクルに沿った心理、精神的な発達について学習する	教科書第2章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第3回	発達検査 子どもを理解するために必要な発達検査を学習する。また障害に応じた発達検査についても学習する	教科書第3章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第4回	姿勢反射・反応 子どもの発達の背景、基盤となる反射・反応を学習する	教科書第4章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第5回	発達① 0～6ヵ月までの知覚運動発達などを学習する。	教科書5章・6章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第6回	発達② 7～12ヵ月までの知覚運動発達などを学習する。	教科書7章・8章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第7回	発達③ 6歳までの知覚運動発達などを学習する	教科書9章・10章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第8回	発達④胎児期 胎児期からすでに発達が始まっていることを学習する	教科書第11章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第9回	発達⑤上肢の発達 上肢は支持機能から操作機能へ発達する。その過程について学習する。	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第10回	発達⑥言語の発達 言葉の発達の基礎となる心の発達、構音の発達について学習する	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			



第11回	発達⑦摂食嚥下の発達 食べる発達の基礎は口腔運動が重要である。また構音の発達とも密接に関係していることを学習する	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第12回	発達⑧ 遊び・ADL(食事・排泄・更衣動作)の発達について学習する	教科書第12章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第13回	発達⑨ 感覚・知覚・視覚認知・社会性の発達について学習する	教科書第13章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第14回	発達⑩ 学童・青年・成人・老年期の発達について学習する	教科書第14章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第15回	人間発達学のまとめ学習 不足している講義とまとめテストを行う	1回目から14回目までの教科書、資料を学習する(180分)	まとめテスト内容の再確認(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	まとめテスト、授業中の参加態度
その他	20	小テスト、授業中のレポート作製
<b>教科書</b>		
人間発達学/上杉雅之監修/医歯薬出版		
<b>参考文献</b>		
赤ちゃんの発達地図/木原秀樹/メディカ出版 人間発達学/浅野大喜/メディカルビュー		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
遅刻3回を1回の欠席として計算する。理解度を確認するために予習・復習すること。 授業中のレポート作成、最後のまとめテストで60点に達しない場合は、不可保留とし、再テストを行う		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学 I				ナンバリング	2202
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 一志、池野 秀則						

授業の位置づけ

理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。

作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)」と「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。

生理学I,II、運動学I,IIと関連し、基礎解剖学実習(理学療法学専攻)、解剖学実習(作業療法学専攻)の基礎となる。

授業の概要

人体の基本構造を細胞・組織・器官・器官系(循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚系)レベルで、系統的に学ぶ。また、構造に基づいた機能との関連を学び、理学・作業療法士としての人体の基本的構造とその機能、ならびに器官の相互作用を理解する。

到達目標

1. 骨格全体の成り立ち、個々の骨と筋との関連を説明できる。
2. 関節と靭帯の構造と機能・作用を説明できる。
3. 骨格筋の構造(起始・停止、走行、神経支配)とその作用を説明できる。
4. 脊髄・脳の構造と機能を説明できる。
5. 脊髄神経、脳神経、自律神経の走行と機能・作用を説明できる。

授業の方法

教科書および配布資料を基にした講義形式で進める。  
適宜パワーポイントを用いる。  
毎回、講義内容確認のため、小テストを行う。

ICT活用

適宜Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。  
必要に応じてWebアプリのvisible body 等を活用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

池野:老健併設の総合病院に理学療法士としてまた、専門学校で理学療法学科教員として勤務した経験を活かして筋骨格系についての授業を行う。  
木村:該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	解剖学総論 解剖学の歴史 骨学総論 骨の種類・形態・構造・骨の成長・骨の機能・滑膜性連結(関節)の形態による分類について学ぶ。	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	運動器の解剖学 脊柱 脊柱の形・構成、椎骨の一般的特徴、個々の椎骨(頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨)について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	頭蓋(脳頭蓋・顔面頭蓋)について学ぶ 新生児の頭蓋について学ぶ 胸郭(肋骨・胸椎・胸骨)の連結について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第4回	上肢帯骨(鎖骨・肩甲骨)、自由上肢骨について学ぶ。 手根管について学ぶ。 上肢の靭帯について学ぶ 手指の関節の呼び方について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第5回	下肢帯骨(寛骨)について学ぶ 骨盤(寛骨・仙骨・尾骨)について学ぶ 自由下肢骨について学ぶ ショパール関節・リスフラン関節について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		

第6回	筋学総論 筋の種類、筋の付着、随意筋・不随意筋、平滑筋・横紋筋について学ぶ 起始・停止(停止が起始に近づき回転運動)について学ぶ  筋膜・筋間中隔について学ぶ 肘関節に働く筋・支配神経について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第7回	前腕(回内・回外)に働く筋と支配神経について学ぶ 肩関節に働く筋と支配神経について学ぶ 上肢帯骨(肩甲骨)挙上・下制に働く筋・支配神経について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	上肢帯骨(肩甲骨)内転・外転・上方回旋・下方回旋,上肢帯骨(鎖骨)下制に働く筋・支配神経について学ぶ  手関節に働く筋と支配神経について学ぶ 腱板について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第9回	膝関節,股関節に働く筋・支配神経について学ぶ 骨盤挙上に働く筋と神経について学ぶ 股関節の複合運動について学ぶ 下肢の靭帯および鷲足、スカルパ三角について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第10回	足関節及び足部に働く筋・支配神経について学ぶ 体幹に働く筋・支配神経について学ぶ 吸気運動(吸気・強制呼気)に働く筋・支配神経について学ぶ 頸部(屈曲・伸展)の筋について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		

第11回	神経系1 神経組織の構成, 神経細胞の構造, 神経組織の発生について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を讀んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員	木村 一志		
第12回	神経系2 脳の構造・機能 — 大脳, 小脳, 脳幹, 脳神経について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を讀んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員	木村 一志		
第13回	神経系3 脊髄の構造・機能, 脊髄神経, 脊髄反射, 脳脊髄液, 脳と脊髄の血管について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を讀んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員	木村 一志		
第14回	感覚器 体性感覚, 視覚, 聴覚・平衡覚, 嗅覚, 味覚の感覚受容器とその神経伝導路について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を讀んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員	木村 一志		
第15回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～14回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員	池野 秀則		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。
その他	0	
<b>教科書</b>		
1.PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 2.イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 3.ネッター解剖学アトラス 相磯貞和・今西宣晶監訳 南江堂		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
生理学との関連で理解を深めること。 6回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む) 授業を欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。 また、まとめの試験を欠席する場合は事前に連絡すること。 上記2点が無い場合は追試験・再試験の受験を認めない。		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学Ⅱ				ナンバリング	2203
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	池野 秀則						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>理学療法学科のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことに特に関係のある科目である。</p> <p>作業療法学科のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことに特に関係がある科目である。</p> <p>解剖学Ⅰでは筋骨格系と神経系を中心に扱い、続く解剖学Ⅱでは内臓について扱う。生理学とともに身体の構造と機能を理解することを目的とし、内科学・病理学などを学ぶ際の基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>解剖学Ⅰで学習した基礎知識を基に、筋骨格系(骨学、関節・靭帯学、筋学)と神経系を系統的に学ぶ。また、構造に基づいた機能との関連を学び、理学・作業療法士としての人体の運動の機構とその制御機構、障害を理解する。それらを基盤とし、応用するための基礎知識を深める。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞・組織の構造と機能を説明できる。</li> <li>2. 循環器系の構造と機能を説明できる。</li> <li>3. 消化器系、呼吸器系の構造と機能を説明できる。</li> <li>4. 泌尿器系、生殖器の構造と機能を説明できる。</li> <li>5. 内分泌系、人体発生の基礎について説明できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>教科書および配布資料を基にした講義形式で進める。</p> <p>適宜パワーポイントを用いる。</p> <p>毎回講義の初めに確認小テストを行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>適宜Webにて学習の補助教材の配布などを予定。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>老健施設併設総合病院勤務等の経験から理学療法及び作業療法の臨床に即した情報を加えながら講義を進めていく。</p>							



課題に対するフィードバックの方法			
毎回の講義開始時に準備学習欄に記載された内容の小テストを行い、適宜フィードバックとして解説を行う。 この小テストは出席票を兼ねる。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	循環器系1 血液血管の役割 胸大動脈・腹大動脈・頸動脈について学ぶ 上腕動脈～手の動脈について学ぶ	第IV章循環器系の血液・血管系の役割、血管の構造についてあらかじめよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、とくに血液・血管の役割について確認しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	循環器系2 腹腔動脈・上腸間膜動脈・下腸間膜動脈について学ぶ 骨盤の動脈・腹壁動脈について学ぶ 大腿～足の動脈について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	循環器系3 静脈系 上大静脈・上肢の静脈・皮静脈について学ぶ 肝門脈・奇静脈・下肢の静脈について学ぶ リンパ系 一次リンパ組織・二次リンパ組織について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	循環器系4 心臓の形態と機能について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	呼吸器系 気管・気管支・気道の組織について学ぶ 肺の形態と機能について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第6回	消化器系1 消化器系の機能と支配神経について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第7回	消化器系2 口腔について学ぶ 唾液腺・咽頭・リンパ性咽頭輪について学ぶ 食道について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	消化器系3 胃・小腸(十二指腸)について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	消化器系4 小腸(空腸・回腸)・大腸について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第10回	消化器系5 肝臓・胆嚢・膵臓について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第11回	泌尿器系1 腎臓・尿管について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	泌尿器系2 膀胱・尿道について学ぶ 生殖器系 男女の生殖器について学ぶ 乳房と乳腺について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第13回	細胞 核・細胞骨格・器官・組織について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	内分泌系 下垂体(前葉・後葉)・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎について学ぶ 人体発生の基礎について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	まとめの試験 これまで学んだ内容について確認を行う	これまで学んだ授業内容についてまとめ、復習しておくこと(90分)	わからなかった試験問題について調べ、復習しておくこと(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認小テスト10% まとめの試験90%で60%以上を単位取得とする
その他	0	
<b>教科書</b>		
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 ネット解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
なし		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学 I				ナンバリング	2210
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。</p> <p>作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。</p> <p>生命科学、生理学II、解剖学Iと関連し、生理学III、解剖学II、病理学、生理学演習の基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>医療系分野の必須基礎知識である人体の生理機能を学習する。複雑な人体の生理機能のうち、まずは生体の生命活動を維持するために必要な体液・血液と循環・呼吸、消化と吸収・排泄、ホルモンなどの機能について、解剖学の知識を活用しながら学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>細胞、組織、骨・軟骨、筋、体液・血液、循環に関する基本用語を説明することができる。 骨代謝、筋収縮、循環の仕組みと体液成分の機能を説明することができる。 関連する医学専門書が読解できる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。 毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。 最終回にまとめの試験を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	細胞: 生命の基本単位である細胞の構成要素と機能について理解する。 細胞内小器官の機能について理解する。細胞が行う生命活動について理解する。	事前配布資料と教科書のp2-6を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	組織: 人体を構成する組織について理解する。上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の構造と機能について理解する。 骨・軟骨組織: 骨・軟骨・関節の構造と機能について理解する。 骨のリモデリングについて理解する。	事前配布資料と教科書のp133～141を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	筋組織: 骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能について理解する。	事前配布資料と教科書のp118-132,p320を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第4回	血液、体液1: 体液の組成とその働きを理解する。 血液、血球の役割について理解する。	事前配布資料と教科書のp188-193を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	血液、体液2: 血液凝固と血栓線溶の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp194-197を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第6回	循環1:血液循環について理解する。心臓の働きと刺激伝導系について理解する。心電図と心周期について理解する。	事前配布資料と教科書のp156-162、p287-294を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第7回	循環2:血管と血圧について理解する。血圧調節の仕組みを理解する。リンパ管とリンパ液の循環について理解する。	事前配布資料と教科書のp163-169、p280-286を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。	
その他	0		
教科書			
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社			
参考文献			
PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院 標準生理学、本間研一監修、医学書院 生理学テキスト、大地陸男 著、文光堂 シンプル生理学、貴邑富久子・根来英雄著、南江堂 カラーイラストで学ぶ集中講義 生理学、岡田隆夫、メジカルビュー社			
履修条件・留意事項等			

解剖学や生命科学との関連で理解を深めること。  
3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)  
授業を欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。  
また、まとめの試験を欠席する場合は事前に連絡すること。  
上記2点が無い場合は追試験・再試験の受験を認めない。

**備考欄**



2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学Ⅱ				ナンバリング	2211
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。</p> <p>作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係がする。</p> <p>生命科学、生理学I、解剖学Iと関連し、生理学III、解剖学II、病理学、生理学演習の基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>脳機能を始めとする神経機能と情報伝達、脳血流の維持と血流調節メカニズムについて、細胞レベルから臓器器官まで幅広く理解し、神経・循環障害とリハビリテーションの機能回復について生理科学的観点から学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>呼吸、消化と吸収、代謝、排泄に関する基本用語を説明することができる。</p> <p>呼吸、消化と吸収、排泄、体液成分調節、代謝の仕組みと体液成分の機能を説明することができる。</p> <p>関連する医学専門書が読解できる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。</p> <p>毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。</p> <p>最終回にまとめの試験を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	呼吸1:呼吸器の構造と機能を理解する。 呼吸運動について理解する。	事前配布資料と教科書のp178-181を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	呼吸2:ガス交換、呼吸の調節について理解する。 肺気量曲線と換気障害について理解する。	事前配布資料と教科書のp171-177、p182-187、p298、p304-311を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	消化と吸収1:消化管の基本構造を理解する。唾液の役割とその分泌の仕組みを理解する。 嚥下の仕組みを理解する。 胃、小腸、大腸の働きについて理解する。 排便の仕組みを理解する。	事前配布資料と教科書のp214-218、p222-228を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第4回	消化と吸収2:肝臓、膵臓の機能を理解する。 各栄養素の消化と吸収の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp218-222を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	栄養と代謝、体温調節:エネルギー代謝について理解する。 体温調節の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp261-269を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第6回	体液の調節と尿の生成1:腎臓の基本的構造と機能について理解する。 尿の生成過程と体液量調節について理解する。	事前配布資料と教科書のp204-211を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第7回	体液の調節と尿の生成2:膀胱と畜尿・排尿の仕組みについて理解する。 体液の酸塩基平衡の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp211-213、p270-277を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。	
その他	0		
<b>教科書</b>			
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社			
<b>参考文献</b>			
PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院 標準生理学、本間研一監修、医学書院 生理学テキスト、大地陸男 著、文光堂 シンプル生理学、貴邑富久子・根来英雄著、南江堂 カラーイラストで学ぶ集中講義 生理学、岡田隆夫、メジカルビュー社			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

解剖学や生命科学との関連で理解を深めること。  
3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)  
授業を欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。  
また、まとめの試験を欠席する場合は事前に連絡すること。  
上記2点が無い場合は追試験・再試験の受験を認めない。

**備考欄**

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学Ⅲ				ナンバリング	2212
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。</p> <p>作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。</p> <p>生理学I、II、解剖学I、IIと関連し、生理学演習、応用解剖学演習(理学療法学専攻)、解剖学実習(作業療法学専攻)、高次脳機能障害学の基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>脳機能を始めとする神経機能と情報伝達のメカニズムについて、分子・細胞レベルから臓器に至るまで幅広く学習する。感覚受容、運動調節、自律神経系、内分泌、生殖・発生、脳の可塑性や高次機能の仕組みを生理学的観点から学び、リハビリテーションによる機能回復について理解する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>神経細胞の活動を理解し、説明することができる。</p> <p>神経細胞による情報伝達の仕組みを理解し、説明することができる。</p> <p>感覚受容の仕組みを理解し、説明することができる。</p> <p>中枢神経系による運動調節の仕組みを理解し、説明することができる。</p> <p>自律神経・内分泌や生殖の仕組みを理解し、説明することができる。</p> <p>その他の脳の働きを理解し、説明することができる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントと配布資料を用いて講義形式を進める。</p> <p>毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。</p> <p>まとめの試験を2回行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	神経科学概論 神経系の成り立ちについて理解する。脳・脊髄の構造と機能について理解する。	教科書のp19-26を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第2回	神経の情報伝達機構 神経情報の伝達メカニズムについて理解する。イオンチャネルと活動電位、シナプスの構造と機能、神経筋接合部、神経伝達物質について理解する。	事前配布資料や教科書のp7-18を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第3回	感覚の受容と脳における情報処理1 視覚、聴覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp98-102、104、105を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第4回	感覚の受容と脳における情報処理2 平衡覚、嗅覚、味覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp93、97、98、102、103を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第5回	感覚の受容と脳における情報処理3 体性感覚と内臓感覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp87-96を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第6回	脳と脊髄による運動制御1 運動野-皮質脊髄路による運動制御の仕組みを理解する。 脊髄反射による運動制御の仕組みを理解する。	事前配布資料や教科書のp34、57-62、79-86を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第7回	脳と脊髄による運動制御2 大脳基底核による運動制御の仕組みを理解する。小脳による運動制御の仕組みを理解する。	事前配布資料や教科書のp36-44、52-56を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第8回	ゲスト講師(北海道大学医学研究科神谷温之教授)による特別講義 シナプスの可塑性、記憶と学習のメカニズムについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(30分)
担当教員			
第9回	まとめと試験1 第1-7回までに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1-7回までの講義内容を復習しておくこと。(40分)	試験の出題内容について確認しておくこと。(5分)
担当教員			
第10回	視床下部と内分泌、自律神経1 視床下部による下垂体の内分泌制御、交感神経と副交感神経による各臓器の機能調節について理解する。	事前配布資料や教科書のp107-117、229-235を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第11回	視床下部と内分泌、自律神経2 松果体、副腎、甲状腺、副甲状腺、膵臓が分泌するホルモンの機能とその調節機構について理解する。	事前配布資料や教科書のp235-243を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第12回	生殖と発生 女性生殖器の構造と機能を理解する。男性生殖器の構造と機能を理解する。ヒトの発生と老化について理解する。	事前配布資料や教科書のp244-260、p255-260を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第13回	神経発生と脳の可塑性 神経系発生のメカニズムについて理解する。 神経回路形成の仕組みを理解する。 脳の可塑性について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第14回	脳と行動、脳の高次機能 脳と行動の関係について理解する。摂食行動、動機づけ、情動、脳波と睡眠について理解する。脳の言語処理機能について理解する。	事前配布資料や教科書のp30-31、p322-325を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第15回	まとめと試験2 第10-14回までに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第10-14回までの講義内容を復習しておくこと。(40分)	試験の出題内容について確認しておくこと。(5分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	



<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>まとめの試験、講義ごと的小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院                  標準生理学、本間研一監修、医学書院                  神経科学一脳の探求一、藤井聡監訳、西村書店                  エッセンシャル神経科学、前田正信 監訳、丸善                  カールソン神経科学テキスト、中村克樹監訳、丸善</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>解剖学や運動学との関連で理解を深めること。                  6回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)                  授業を欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。                  また、まとめの試験を欠席する場合は事前に連絡すること。                  上記2点が無い場合は追試験・再試験の受験を認めない。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志、大川 浩子、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」ことに関係がある科目である。</p> <p>生理学I、II、IIIと関連し、理学療法研究I、IIの基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>生理学の講義で得た知識をもとに、筋収縮、筋電図、呼吸、循環、感覚(体性感覚、視覚、聴覚)などの測定・観察項目について16名程度を少人数グループとして演習を行い、人体の生理について理解を深める。また、測定したデータをもとに考察を行い、レポート作成することで、論理的な思考を育む。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>実験を行うことにより人体の生理機能を実感する。                  実験を通じて人体の構造と機能をより深く理解し、実践・応用、説明ができる。                  実験により得られたデータを適切に解析・解釈し、それを基に適切なレポートを作成できる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>実験の目的・方法については演習ガイドによる説明を行い、実験手技についてはデモンストレーションを行う。毎回、異なるテーマの実験を行う。毎回、実験後に実験目的、内容、実験結果および実験結果の解析・解釈をまとめたレポートを作成する。全員が授業計画通り全ての実験を行うが、グループごとに行う実験の順番は異なる。詳細は生理学演習ガイドに記載する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
なし							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>木村、神谷、大川:該当なし                  柴田:理学療法士として勤務した経験を活かして、筋電図の演習の指導を行う。                  南部:理学療法士として勤務した経験を活かして、循環の演習の指導を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしてレポートにコメントを付して返却します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 演習ガイドを配布し、実験項目と内容の説明を行うとともにレポートの作成法や評価のポイントについて説明する。 グループ分け、実習室使用のルール、注意事項などについてガイダンスを行う。	なし	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第2回	筋電図1:上下肢の表面筋電図の記録 肘関節屈曲・伸展運動時、立ち座り動作時の筋電図を記録する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第3回	筋電図2:運動神経伝導速度の測定 刺激部位を変化させることで得られた筋電波形から運動神経伝導速度を算出する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第4回	筋電図のデータ整理とレポート作成 ・力と筋電図の大きさの関係、収縮様式や関節角度による筋活動の変化を考察する。 ・神経伝導速度から末梢神経の特性と速度に影響する要因を学習する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第5回	皮膚感覚1:二点識別閾(2点刺激閾)の測定、データ整理とレポート作成 先端にナイロンテグスを取り付けたデバイダーを用い、安静時人体各部の皮膚上加えた2点刺激閾を測定する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		

第6回	皮膚感覚1:データ整理とレポート作成 人体各部の二点識別閾の違いについて考察する。また、個人差についても考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第7回	皮膚感覚2:運動後の二点識別閾の測定 二点識別閾に及ぼす運動(踏み台昇降運動)の影響を調べる。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第8回	皮膚感覚2:データ整理とレポート作成 安静時と運動後の二点識別閾を比較し、皮膚感覚に対する運動(踏み台昇降運動)の影響を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第9回	心電図:正常心電図の導出記録 肢導出と胸部導出による心電図の記録を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第10回	血圧測定 聴診法による血圧測定の原理を理解する。 姿勢変換後の経時的な血圧測定を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		

第11回	心電図・血圧:データ整理とレポート作成 心電図をP, QRS, T波について潜時振幅を測定する。 測定した心電図記録を用いて電気軸を求める。 重力が血圧変動に及ぼす影響について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第12回	顕微鏡1:骨格筋標本の観察・スケッチ 顕微鏡の使い方を学習する。 骨格筋標本を観察し、筋紡錘をスケッチする。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第13回	顕微鏡1:レポート作成 筋紡錘の機能を調べ、伸張反射の機序を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第14回	顕微鏡2:血球の観察・スケッチとレポート作成 顕微鏡で血球を観察する。 各血球(赤血球、好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)を区別し、スケッチする。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第15回	顕微鏡2:レポート作成 各白血球(好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)が全白血球に占める比率を求める。 各白血球の機能について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>実習レポート。実習参加態度。 全ての実験と試験に参加し、全ての課題とレポートを提出しないと単位を認定しない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>生理学演習ガイドを配布する。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>新訂生理学実習書、日本生理学会編、南江堂 コメディカルのための生理学実習ノート、杉春夫著、南江堂 生理学実習NAVI、大橋敦子監修、医歯薬出版 生理学I、II、IIIの授業で使用した教科書</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>全ての授業に出席すること。全てのレポートを期限内に提出すること。 白衣、ネームプレート、実習靴を必ず着用。 実習に積極的に参加すること。 遅刻・欠席は厳禁。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志、大川 浩子、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」ことに関係がある科目である。</p> <p>生理学I、II、IIIと関連し、理学療法研究I、IIの基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>生理学の講義で得た知識をもとに、筋収縮、筋電図、呼吸、循環、感覚(体性感覚、視覚、聴覚)などの測定・観察項目について16名程度を少人数グループとして演習を行い、人体の生理について理解を深める。また、測定したデータをもとに考察を行い、レポート作成することで、論理的な思考を育む。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>実験を行うことにより人体の生理機能を実感する。                  実験を通じて人体の構造と機能をより深く理解し、実践・応用、説明ができる。                  実験により得られたデータを適切に解析・解釈し、それを基に適切なレポートを作成できる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>実験の目的・方法については演習ガイドによる説明を行い、実験手技についてはデモンストレーションを行う。毎回、異なるテーマの実験を行う。毎回、実験後に実験目的、内容、実験結果および実験結果の解析・解釈をまとめたレポートを作成する。全員が授業計画通り全ての実験を行うが、グループごとに行う実験の順番は異なる。詳細は生理学演習ガイドに記載する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
なし							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>木村、神谷、大川:該当なし                  柴田:理学療法士として勤務した経験を活かして、筋電図の演習の指導を行う。                  南部:理学療法士として勤務した経験を活かして、循環の演習の指導を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとしてレポートにコメントを付して返却します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 演習ガイドを配布し、実験項目と内容の説明を行うとともにレポートの作成法や評価のポイントについて説明する。 グループ分け、実習室使用のルール、注意事項などについてガイダンスを行う。	なし	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第2回	筋電図1:上下肢の表面筋電図の記録 肘関節屈曲・伸展運動時、立ち座り動作時の筋電図を記録する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第3回	筋電図2:運動神経伝導速度の測定 刺激部位を変化させることで得られた筋電波形から運動神経伝導速度を算出する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第4回	筋電図のデータ整理とレポート作成 ・力と筋電図の大きさの関係、収縮様式や関節角度による筋活動の変化を考察する。 ・神経伝導速度から末梢神経の特性と速度に影響する要因を学習する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第5回	皮膚感覚1:二点識別閾(2点刺激閾)の測定、データ整理とレポート作成 先端にナイロンテグスを取り付けたデバイダーを用い、安静時人体各部の皮膚上加えた2点刺激閾を測定する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		



第6回	皮膚感覚1:データ整理とレポート作成 人体各部の二点識別閾の違いについて考察する。また、個人差についても考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第7回	皮膚感覚2:運動後の二点識別閾の測定 二点識別閾に及ぼす運動(踏み台昇降運動)の影響を調べる。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第8回	皮膚感覚2:データ整理とレポート作成 安静時と運動後の二点識別閾を比較し、皮膚感覚に対する運動(踏み台昇降運動)の影響を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第9回	心電図:正常心電図の導出記録 肢導出と胸部導出による心電図の記録を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第10回	血圧測定 聴診法による血圧測定の原理を理解する。 姿勢変換後の経時的な血圧測定を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		

第11回	心電図・血圧:データ整理とレポート作成 心電図をP, QRS, T波について潜時振幅を測定する。 測定した心電図記録を用いて電気軸を求める。 重力が血圧変動に及ぼす影響について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第12回	顕微鏡1:骨格筋標本の観察・スケッチ 顕微鏡の使い方を学習する。 骨格筋標本を観察し、筋紡錘をスケッチする。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第13回	顕微鏡1:レポート作成 筋紡錘の機能を調べ、伸張反射の機序を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第14回	顕微鏡2:血球の観察・スケッチとレポート作成 顕微鏡で血球を観察する。 各血球(赤血球、好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)を区別し、スケッチする。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第15回	顕微鏡2:レポート作成 各白血球(好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)が全白血球に占める比率を求める。 各白血球の機能について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>実習レポート。実習参加態度。 全ての実験と試験に参加し、全ての課題とレポートを提出しないと単位を認定しない。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p><b>教科書</b></p>		
<p>生理学演習ガイドを配布する。</p>		
<p><b>参考文献</b></p>		
<p>新訂生理学実習書、日本生理学会編、南江堂 コメディカルのための生理学実習ノート、杉春夫著、南江堂 生理学実習NAVI、大橋敦子監修、医歯薬出版 生理学I、II、IIIの授業で使用した教科書</p>		
<p><b>履修条件・留意事項等</b></p>		
<p>全ての授業に出席すること。全てのレポートを期限内に提出すること。 白衣、ネームプレート、実習靴を必ず着用。 実習に積極的に参加すること。 遅刻・欠席は厳禁。</p>		
<p><b>備考欄</b></p>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学 I				ナンバリング	2226
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と関係がある科目である。</p> <p>解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、人体の運動・動作における関節運動機能を学ぶ。特に運動器(筋骨格系)の機能解剖を中心に身体運動の特徴を理解する。また、姿勢や動作の分析および解析の基礎を学び、理学療法学、作業療法学の基礎を理解する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、人体の運動・動作における関節運動機能を学ぶ。特に運動器(筋骨格系)の機能解剖を中心に身体運動の特徴を理解する。また、姿勢や動作の分析および解析の基礎を学び、理学療法学、作業療法学の基礎を理解する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・力学の基礎、運動器の基本構造と機能について理解できる</li> <li>・身体各関節の構造と機能について理解できる</li> <li>・姿勢、歩行について理解できる</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントもしくは教科書、その両方を用いた講義形式にて説明する。</p> <p>各回にテストを実施して理解度を確認する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google classroomを用いて課題を提出する。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>高田、金子ともに整形外科領域のリハビリテーションに従事しており、その経験を踏まえて授業を担当する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
1～14回に確認テストを実施して理解度を確認した後に解説を行う。 15回目には1～14回の内容についてテストを行い、それまでに学んだ内容について知識の整理と理解を促す。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 運動器の基本構造と機能① 骨・関節と筋の基本構造と機能について学習する	運動学P12-19, 運動学(羊土社) P27-43を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	運動器の基本構造と機能② 骨・関節と筋の基本構造と機能について学習する	運動学P12-19, 運動学(羊土社) P43-62を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	股関節の運動学について学習する	運動学P55-62, 運動学(羊土社) P118-124を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第4回	膝関節の運動学について学習する	運動学P63-72, 運動学(羊土社) P125-134を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第5回	足関節と足部の運動学について学習する	運動学P73-82, 運動学(羊土社) P135-147を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		

第6回	脊柱・体幹の運動学① 頸椎・胸椎・胸郭について学習する	運動学P83-90, 運動学(羊土社) P95-110を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	脊柱・体幹の運動学② 腰椎・骨盤 顔面および頭部の運動学について学習する	運動学P91-99, 運動学(羊土社) P111-117を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	生体力学 力と運動について学習する	運動学P2-10, 運動学(羊土社) P10-26を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	姿勢と姿勢制御について学習する	運動学P111-119, 運動学(羊土社) P148-152を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第10回	歩行 正常歩行、異常歩行について学習する	運動学P121-130, 運動学(羊土社) P153-165を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	肩複合体の運動学について学習する	運動学P21-32, 運動学(羊土社)P63-70を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	肘関節・前腕の運動学について学習する	運動学P33-42, 基運動学(羊土社)P71-75を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第13回	手関節・手指関節の運動学について学習する①	運動学P43-54, 運動学(羊土社)P76-87を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	手関節・手指関節の運動学について学習する②	運動学P43-54, 運動学(羊土社)P76-87を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	全体のまとめとテスト	1-14回までの内容を整理しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1-14回に実施する確認テスト、出席態度等(30%) 15回に実施するテスト:6割以上合格(70%)
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
運動学/石川朗、種村留美/株式会社 中山書店 運動学第2版 (PT・OTビジュアルテキスト専門基礎)/山崎敦 /羊土社		
<b>参考文献</b>		
基礎運動学第6版/中村隆一著/医歯薬出版		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
解剖学や生理学との関連で理解を深めること。		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		



2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマポリシーの理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」に関連し「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」に関する。「運動学Ⅰ」と関連し「運動学実習」の基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>身体運動の基礎となる生体の形体と生理機能について、特に筋骨格系と神経系の理解を深め、運動の発現する一連のプロセス(企画・命令から実施まで)を理解する。さらに身体運動の発達や文化的側面に関する知見に加え、運動を観察・分析する方法について学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テコおよび重心について説明できる。</li> <li>・床反力、床反力作用点について説明できる。</li> <li>・関節モーメントと筋活動について説明できる。</li> <li>・歩行のバイオメカニクスを説明できる。</li> <li>・四肢の運動学各論を説明できる。</li> <li>・脊柱の運動学各論を説明できる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイント、印刷資料を活用しながら講義形式で行う。 確認テストを行い、フィードバックとして確認テストの解説を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>講義は状況に応じてオンライン授業で行う。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
出席と理解度確認を兼ねて小テストを行い、回収後に解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	身体運動のバイオメカニクス①(大森):力の合成と分解および生体におけるテコについて理解する	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	身体運動のバイオメカニクス②(大森):重心の求め方および速度、加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	身体運動のバイオメカニクス③(大森):床反力と重心加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第4回	身体運動のバイオメカニクス④(大森):床反力作用点(COP)とは何か理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	身体運動のバイオメカニクス⑤(大森):関節モーメントのパワーと筋活動について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第6回	身体運動のバイオメカニクス⑥(大森):立ち上がりのバイオメカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第7回	身体運動のバイオメカニクス⑦(大森):歩き始めのバイオメカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	身体運動のバイオメカニクス⑧(大森):歩行のバイオメカニクス1 重心と床反力作用点について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	身体運動のバイオメカニクス⑨(大森):歩行のバイオメカニクス2 重心の動きを滑らかにする機能について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	身体運動のバイオメカニクス⑩(大森):歩行のバイオメカニクス3 歩行の観察-OGIGの方法について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	運動学各論①(橋田):下肢の運動学(股関節、膝関節、足関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	運動学各論②(橋田):脊柱の運動学(顎関節、頸椎、胸椎)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第13回	運動学各論③(橋田):脊柱の運動学(腰椎、骨盤)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第14回	運動学各論④(金子):上肢の運動学(肘関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	運動学各論⑤(金子):上肢の運動学(手および手指)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	復習小テスト、授業参加態度
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
基礎バイオメカニクス第2版/山本澄子 他 著/医歯薬出版株式会社 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版/Donald A. Neumann/医歯薬出版株式会社		
<b>参考文献</b>		
基礎運動学 第6版/中村隆一 他 著/医歯薬出版株式会社 観察による歩行分析/Kristen Gotz-Neumann著 月城慶一 他 訳/医学書院		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
特になし		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
<b>区分</b>		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
<b>科目名</b>		運動学実習				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	2年	<b>開講学期</b>	2024年度後期	<b>区分</b>	実習	<b>単位</b>	1
<b>担当教員</b>	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘						

**授業の位置づけ**

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適應できる能力を身につけている。(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。

**授業の概要**

運動学を基盤とし、実習において体表解剖、臨床的・運動学的計測を行い、正常な関節構成体の形態および関節運動を理解する。また、機器を用いた動作分析を通して身体の運動様式について理解を深める。さらに、視知覚系が身体運動に与える影響について学習する。

**到達目標**

- ・運動器(筋・骨格)系の体表解剖を理解し触診ができる
- ・観察による姿勢、歩行、動作の分析ができる
- ・機器を使用した動作分析を理解できる
- ・上肢、手指の運動・動作解析ができる

**授業の方法**

各授業ははじめに配布物やパワーポイント等にて実習の説明と講義を行う。その後、少人数グループに分かれて課題の観察記録や計測を行う。グループごとでディスカッションとまとめを行い、レポート作成し提出する。

**ICT活用**

原則使用しない。(必要に応じてGoogleクラスルームを活用する。)

**実務経験のある教員の教育内容**

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
授業内あるいはオンラインやメール等での質疑応答やディスカッションおよび課題レポートや次回授業時などでフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 下肢下肢二関節筋の運動学的影響について	下肢二関節筋について解剖学 と運動学の復習と知識の整理 (90分)	下肢二関節筋の運動学的影響 についての整理とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第2回	・歩き始めの動作解析 歩きはじめのCOPの変化について	歩きはじめの運動学的特徴の復 習と知識の整理(90分)	歩きはじめのCOPについての整 理とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第3回	・定常歩行と応用歩行 歩行中のCOPの変化について	歩行中のCOPについての復習と 知識の整理(90分)	歩行中のCOPの変化について の整理とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第4回	・姿勢観察 座位・立位の姿勢観察について	座位および立位の運動学的特 徴の復習と知識の整理(90分)	座位・立位の姿勢観察の整理と まとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第5回	・動作観察と解析 寝返りおよび立ち上がり動作の観察と運動学的解析	寝返り・立ち上がり動作の運動 学的特徴の復習と知識の整理 (90分)	寝返り・立ち上がり動作の整理と まとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第6回	・歩行観察と解析 正常歩行観察と解析について	正常歩行についての復習と知識の整理(90分)	正常歩行観察と解析の整理とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第7回	運動器(筋・骨格)と関節運動1・頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診について	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖の知識の整理(90分)	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第8回	運動器(筋・骨格)と関節運動2・体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診について	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖の知識の整理(90分)	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第9回	上肢の運動学実習1・手指・手関節・前腕・肘関節の運動学実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第10回	上肢の運動学実習2・上肢の運動・動作解析実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		



第11回	上肢の運動学実習3 ・肩関節・肩甲上腕リズムについて	肩関節・肩甲上腕リズムの知識の整理(90分)	肩関節・肩甲上腕リズムの確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第12回	上肢の応用的動作・物品操作に関わる運動学と動作分析	上肢の応用的動作の知識の整理(90分)	物品操作に関わる運動学と動作分析の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席、小テスト、参加態度、課題レポート、理解度等により総合的に判断する	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察による歩行分析 沢 月城慶一ら 医学書院</li> <li>・基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版株式会社</li> </ul>			
<b>参考文献</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A. Neumann 医歯薬出版株式会社</li> </ul>			
<b>履修条件・留意事項等</b>			
必要資料は随時配布します。 実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。			
<b>備考欄</b>			

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		病理学				ナンバリング	2300
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>理学療法・作業療法に必要な病理学の基礎的知識・技能を身につけるための科目である。理学療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」と特に関係がある科目である。作業療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」及び「【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適應できる能力を身につけている。」と関係する科目である。また、その他の全てのディプロマ・ポリシーと関係している。両専攻ともに、「微生物・免疫学」「人間発達学」「医学概論」「解剖学I」「解剖学II」「生理学I」「生理学II」「基礎解剖学実習/解剖学実習」と関連し、「内科学」「脳神経内科学」「整形外科学」「小児科学」「老年医学」「救急医学」の基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>病気の原因やその発症のメカニズムについて、細胞・組織傷害、細胞死と老化、先天異常と遺伝病、代謝障害、循環障害、炎症と感染症、免疫疾患、腫瘍など原因や機序別に分けて学習する。また、それぞれの代表的な疾患に加え、リハビリテーションが介入する代表的な内部障害疾患についての病因・病態について具体的に学ぶ。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院病理の役割や病理診断の意義、加えて病理解剖の意義を説明できる。</li> <li>2. 細胞傷害および細胞死の分類や機序、その形態的特徴を述べることができる。</li> <li>3. 先天異常や遺伝性疾患、代謝異常、循環障害、腫瘍について、それぞれの病態や種類、発症機序を説明できる。また、それぞれの代表的疾患を挙げ説明できる。</li> <li>4. 各臓器の代表的疾患について、それぞれの発症機序や病態を説明できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 必要に応じてオンライン授業を実施する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>病理専門医として病理診断や病理解剖などに従事した経験を活かして授業を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、練習問題の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【病理学総論1.「病理学とは」「細胞傷害」】 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。また、細胞傷害の種類やその機序、及び傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。	教科書のpp.14～52を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	【病理学総論2.「先天異常」】 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形について学ぶ。染色体異常とその代表的疾患として、常染色体の異常によるダウン症候群や、性染色体の異常によるクラインフェルター症候群、ターナー症候群などを学ぶ。	教科書のpp.53～64を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	【病理学総論3.「循環障害」】 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うっ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。	教科書のpp.65～75を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	【病理学総論4.「炎症」】 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。急性炎症の結果としての膿瘍や蜂窩織炎、肉芽組織など、及び慢性非特異性炎症と肉芽腫を形成する特異性炎症との違いについて学ぶ。	教科書のpp.76～87を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第5回	【病理学総論5.「免疫異常とアレルギー」】 免疫と免疫系の細胞、I型からV型までの各種のアレルギー反応、臓器移植と拒絶反応、先天性免疫不全症と後天性免疫不全症候群(AIDS)、臓器特異的自己免疫疾患や膠原病などについて学ぶ。	教科書のpp.88～102を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第6回	【病理学総論6.「感染症」】 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、病原体に対する宿主の反応、病原性と増殖速度、日和見感染、病原体の感染経路、内因性感染症と外因性感染症、劇症型感染症などについて学ぶ。	教科書のpp.103~117を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	【病理学総論7.「腫瘍」】 腫瘍の概念や分類、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いとその形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断、治療法などについて学ぶ。	教科書のpp.118~134を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	【病理学各論1.「心臓の疾患」「脈管系の疾患」】 狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心筋炎と心筋症、リウマチ熱と感染性心内膜炎、心弁膜症、心房中隔欠損症や心室中隔欠損症などの先天性心疾患、心不全、動脈瘤、動脈硬化症、血管炎などについて学ぶ。	教科書のpp.136~166を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	【病理学各論2.「造血系・リンパ系の疾患」】 巨赤芽球性貧血など各種の貧血、血液凝固因子や血小板の異常による出血性疾患、白血病、多発性骨髄腫などの形質細胞性腫瘍、各種の悪性リンパ腫、リンパ節炎などその他の造血系・リンパ系疾患について学ぶ。	教科書のpp.167~185を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	【病理学各論3.「呼吸器系の疾患」】 扁桃炎やアデノイド肥大、鼻咽頭腫瘍、喉頭腫瘍など上気道の疾患、慢性閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺塞栓症などの肺血管疾患、肺炎、抗酸菌感染症、肺癌とその主な組織型、その他の肺疾患について学ぶ。	教科書のpp.186~212を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	【病理学各論4.「消化管の疾患」】 白板症や口腔癌、歯源性腫瘍などの口腔・顎部の疾患、胃食道逆流症、食道静脈瘤、食道癌などの食道の疾患、慢性胃炎や胃潰瘍、胃癌、胃の悪性リンパ腫など胃の疾患、炎症性腸疾患や大腸癌など小腸・大腸の疾患について学ぶ。	教科書のpp.213~237を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	【病理学各論5.「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」】 各種ウイルス性肝炎、アルコール性肝疾患、非アルコール性脂肪性肝炎、肝硬変、肝細胞癌などの肝臓の疾患、胆石症と慢性胆嚢炎、胆道癌などの胆嚢・胆道の疾患、急性膵炎と慢性膵炎、膵癌などの膵臓の疾患について学ぶ。	教科書のpp.238~254を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	【病理学各論6.「泌尿器系、男性生殖器系、女性生殖器系と乳腺、内分泌系の疾患」】 糸球体疾患、腎細胞癌などの泌尿器系の疾患、精巣腫瘍や前立腺過形成、前立腺癌などの男性生殖器系の疾患、子宮頸癌、子宮体癌、乳癌などの女性生殖器系と乳腺の疾患、下垂体腺腫、甲状腺癌など内分泌系の疾患について学ぶ。	教科書のpp.255~323を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	【病理学各論7.「筋・骨格系、皮膚、脳・神経系、眼と耳、全身性疾患」】 筋ジストロフィー、重症筋無力症、骨肉腫などの筋・骨格系の疾患、炎症性皮膚疾患や皮膚の腫瘍、脳血管疾患、頭蓋内感染症、脱髄疾患、主な神経系腫瘍、膠原病やアミロイドーシスなどの全身性疾患について学ぶ。	教科書のpp.324~398を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テスト、第15回の修了テストなど。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
クイックマスター病理学第2版／堤寛著／サイオ出版		
<b>参考文献</b>		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版／梶原博毅監修／医学書院		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
特記事項なし。		
<b>備考欄</b>		
特記事項なし。		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		微生物・免疫学				ナンバリング	2262
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」ことや「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」とも関係する。</p> <p>作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。</p> <p>医学概論、解剖学I、II、生理学I、II、IIIと関連し、病理学、内科学、神経内科学、整形外科学、小児科学、老年医学、救急医学を学ぶ基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>感染症の原因となる病原微生物についてウイルスや細菌、真菌、原虫、寄生虫に分類して、それぞれの生物学的特徴などを学ぶほか、それらの感染症の基本や感染に対する生体防御機構として機能する免疫の基本システムについて、自然免疫と適応(獲得)免疫に分けて学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌・ウイルス・真菌・原虫・蠕虫の種類やそれぞれの特性を説明できる。</li> <li>2. 微生物感染やそれに対する生体防御機構の種類を説明できる。</li> <li>3. 生体防御機構の中で重要な免疫に係る細胞や液性因子についてそれぞれの機能を説明できる。</li> <li>4. 自然免疫の仕組みを説明できる。</li> <li>5. 獲得(適応)免疫の仕組みを説明できる。</li> <li>6. 感染症の制御、予防方法について説明できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。          毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。          最終回にまとめの試験を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	微生物学1 微生物の分類について理解する。細菌と細菌による感染症を理解する。抗菌薬について理解する。	教科書のp22-25、28-37、97-99を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	微生物学2 ウイルス・プリオンとその感染症を理解する。抗ウイルス薬について理解する。	事前配布資料と教科書のp37-41、p106-110を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	微生物学3 真菌、原虫、蠕虫とその感染症を理解する。抗真菌薬について理解する。	事前配布資料と教科書のp26-28、p110-112を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第4回	免疫学1 免疫担当細胞・組織とその機能について理解する。	事前配布資料と教科書のp53-59を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	免疫学2 自然免疫と獲得免疫(適応免疫)の仕組みを理解する。	事前配布資料と教科書のp59-66を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			



第6回	免疫学3 免疫寛容の仕組みを理解する。 免疫系の疾患を理解する。	事前配布資料と教科書のp66-73を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第7回	感染症の制御 社会的に感染症を防ぐ方法を理解する。 滅菌・消毒など感染経路別の予防対策を理解する。	事前配布資料と教科書のp75-96を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。
その他	0	

教科書

感染制御の基本がわかる微生物学・免疫学、増澤俊幸著、羊土社

参考文献

よく分かる微生物学の基本としくみ/高麗紀寛著/秀和システム  
シンプル微生物学/小熊恵二・堀田博・若宮伸隆編集/南江堂  
新クイックマスター微生物学/西條政幸著/医学芸術社  
好きになる免疫学第2版/萩原清文著・山本一彦監/講談社サイエンティフィック  
わかる!身につく!病原体・感染・免疫 藤本秀十編著 南山堂

履修条件・留意事項等

高校の生物基礎の教科書にある免疫の項目について復習してくること。  
3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)  
授業を欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。  
また、まとめの試験を欠席する場合は事前に連絡すること。  
上記2点が無い場合は追試験・再試験の受験を認めない。

**備考欄**

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科	医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻						
区分	専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						
科目名	終末期医療					ナンバリング	2312
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>理学療法のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」および「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」</p> <p>作業療法のディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)」に対応する科目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期の患者と家族の精神、身体的特徴を修得する。</li> <li>・医療従事者としての基本的な考え方や種々の臨床医学を学ぶ基礎となり、社会人としての知識を修得する。</li> <li>・「理学療法概論」、「作業療法概論」と関連し、「内部障害理学療法学」、「内部障害作業療法学」、「臨床実習」の基礎となる科目である。</li> </ul>							
<b>授業の概要</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢社会の日本は、がんをはじめ難病等で終末期を在宅および施設で迎えることが増える多死の時代となってきた。医療・福祉専門職として、寄り添う医療により、患者の死やそれを取り巻く家族等、終末期医療に対する医療の現状や倫理感を学生の修学早期に理解する。</li> <li>・理学療法士・作業療法士として生や死を考え、倫理観を学習する。</li> </ul>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期の概念を理解できる。</li> <li>・終末期を支える理学療法士、作業療法士が役割を理解できる。</li> <li>・終末期を支える医療者の役割を理解し、チームとしての取り組みが理解できる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>医療の各分野の専門家の講義も含め、講義形式ですすめる。</p> <p>必要に応じて課題やグループワークを実施する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。</p> <p>必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業を展開する。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>佐藤は理学療法士として、これまでの臨床・研究の経験を基に授業を展開する。</p> <p>加えて、臨床経験豊富な医療者をゲスト講師として迎え、チームとして終末期を支える授業を展開する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
授業内で課題に対してコメントし、補足説明が必要な場合は随時説明する。 レポート内容によっては次回以降の講義で紹介、コメントを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	終末期医療の概念と、現状と課題を学習する	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	医療現場における終末期医療の実際を学習する	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	医療現場や在宅における終末期リハビリテーションについて学習する	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	「生と死」について、グループワークを通して学習する	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	終末期を支えるⅠ - 緩和ケア(1)総論 緩和ケアとは何かについて理解する(ゲスト講師:前野)	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第6回	終末期を支える-Ⅱ 緩和ケア(2)コメディカルの役割:看護師の立場を理解する(ゲスト講師:山崎)	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第7回	終末期を支える-Ⅲ 緩和ケア(3)コメディカルの役割:ソーシャルワーカーの立場を理解する(ゲスト講師:下倉)	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第8回	終末期を支える-Ⅳ 緩和ケア(4)終末期を支えるための医療人として、何が出来るかを考える(ゲスト講師:前野)	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席・態度(20%) レポート課題(80%)	
その他	0	出席態度、授業内の課題、その他のレポートなどを総合的に評価する。レポートは自分の考えを論理的に展開すること。	
教科書			
なし。 必要に応じてパワーポイントなどの資料を配布する。			
参考文献			
DEATH「死」とは何か/文響社/Shelly Kagan ソフトランディング/BFP/柴田岳三 終末期リハビリテーション臨床アプローチ/MEDUCAL VEIW/安部能成			
履修条件・留意事項等			

授業中は指定された席に座ること。  
欠席の際は必ず届けを提出すること。

**備考欄**

医療者に必要な「考える力」を身に付ける。

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
<b>区分</b>		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
<b>科目名</b>		内科学				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	2年	<b>開講学期</b>	2024年度前期	<b>区分</b>	講義	<b>単位</b>	2
<b>担当教員</b>	水越 常德、明石 浩史、永洞 明典、安丸 卓磨						

授業の位置づけ

理学療法／作業療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。「解剖学Ⅰ・Ⅱ」「生理学Ⅰ～Ⅲ」「病理学」を基礎に主な内科疾患とその治療について理解し、「臨床実習」に繋げるための科目である。

授業の概要

「内科学」は臨床医学の最も中心的分野であり、基礎医学の進歩とともに新しい疾患概念、診断法、治療法が登場してきた。このような背景から内科学の対象はますます広がりつつあるが、リハビリテーション治療に当たっては患者さんの持つ内科疾患とともに合併症としての内科疾患を正しく理解することは非常に重要である。本講義では主な内科疾患がどうして起るのかという病態生理に重点を置き、臓器疾患ごとにその症状と治療について解かりやすく講義する。

到達目標

- ・各内科疾患について 教科書にある Point を理解したうえで説明できる。
- ・各内科疾患の概念、臨床症状、検査所見、治療を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントと配布印刷物を用いて、講義形式で行う。
- ・確認テストを行い、自身の理解度を確認する。

ICT活用

Google Formにて確認テストを実施し、解答後にフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
確認テストについては、解答後に解説を含めたフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	循環器・腎泌尿器① 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。	教科書の p95～p176を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第2回	循環器・腎泌尿器② 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。また、腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書のp95～p176、p375～p438を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第3回	循環器・腎泌尿器③と確認テスト 腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p385～p421を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第4回	消化器① 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	教科書の p177～p240を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第5回	消化器② 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p177～p240を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		



第6回	肝胆膵① 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。	教科書の p241～p294を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第7回	肝胆膵②と確認テスト 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p241～p294を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第8回	呼吸器① 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常徳		
第9回	呼吸器② 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常徳		
第10回	呼吸器③と確認テスト 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常徳		

第11回	内分泌・代謝① 内分泌疾患である、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患について学ぶ。また、代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風/高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	教科書の p295～p374を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第12回	内分泌・代謝②、感染症① 代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風/高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p295～p374、p595～p636を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第13回	感染症②と確認テスト 感染症である、細菌性疾患、真菌性疾患、ウイルス性疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p595～p636を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第14回	血液・膠原病① 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。	教科書の p511～p594を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第15回	血液・膠原病②と確認テスト 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p511～p594を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト及び授業の取り組み状況によって総合的に判断
その他	0	
<b>教科書</b>		
なるほどなっとく！ 内科学 改訂3版／浅野嘉延／南山堂		
<b>参考文献</b>		
随時紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
感染症等により授業の形態が変わる場合は別途説明する。		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		整形外科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	未定						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」に特に対応する科目である。理学療法および作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目であり、臨床医学である整形外科学を学ぶ。これまでに学習した「解剖学」「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」などと関連し、「運動器障害理学療法学」「運動器障害作業療法学」「臨床実習」の基礎となる。

授業の概要

脊柱および四肢の骨格・関節・神経・筋組織は運動器を構成し、身体の運動を司る。運動器の疾患および障害の治療は予防も含めて理学療法士・作業療法士が行う医学的リハビリテーションそのものである。これら運動器に発生する疾患および障害の疫学や予後、病因や症候について学び、その画像や生理的検査に基づく診断と治療を学習するとともに、保存的および外科的治療の適応と方法について理解する。また、高度な機能を要求されるスポーツ外傷や障害の分野においても、その病態と予防および治療について学習する。

到達目標

1.一般的な整形外科疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査所見、画像所見、診断、治療について説明できる。2.一般的な整形外科疾患について、医学的リハビリテーションとの関連性を説明できる。

授業の方法

- 1.教科書を中心に授業を行い、講義形式ですすめる。
- 2.整形外科学領域の一般的疾患の症状に関しては、画像をスライドで示しながら講義をすすめる。
- 3.授業の終わりには質問の時間を設ける。
- 4.理解度の確認として単元毎に小テストを実施する。合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストを実施する。

ICT活用

必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

担当者は、整形外科専門の医療機関において勤務経験がある。この経験を活かして整形外科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
小テストの解説を行う。また、小テストの結果、合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストやレポート課題を実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・オリエンテーション・骨の構造について理解する・骨折の種類について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(1~22ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	・骨折の治療について理解する・偽関節と骨壊死について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(23~62ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	・変形性関節症について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(63~98ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第4回	・関節リウマチと類縁疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(99~134ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	・小テスト1:1回目~4回目を試験範囲とする・講義3、講義4で学習した疾患以外の軟骨・関節の疾患について理解する	小テスト1の試験範囲について教科書の関連する部分(1~134頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(135~154ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第6回	・靭帯の外傷や疾患について理解する・腱の外傷や疾患について理解する・筋肉の外傷や疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(155~196ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第7回	・小テスト1の解説を行う・絞扼性神経障害について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(197~240ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	・神経根の障害について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(241~270ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第9回	・小テスト2:5回目~8回目を試験範囲とする・脊髄疾患について理解する	小テスト2の試験範囲について教科書の関連する部分(135~270頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(271~300ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第10回	・小児整形外科について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(301~342ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第11回	・小テスト2の解説を行う・切断に対する治療について理解する・熱傷に対する治療について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(343~356ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第12回	・身体各部位における運動器疾患の鑑別疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(357~368ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第13回	・小テスト3:9回目~12回目を試験範囲とする・ロコモティブシンドローム、廃用症候群、運動器不安定症 について理解する・サルコペニア、骨粗鬆症について理解する	小テスト3の試験範囲について教科書の関連する部分(271~368頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第14回	・整形外科疾患の画像評価について理解する	授業内容に関連する事柄をインターネットや図書を用いて予習しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第15回	・小テスト3の解説を行う・本講義の総まとめ	本講義のノートや小テストを全て見直しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	小テスト毎に成績を出し、その結果を総合的に判断する
その他	10	授業の参加態度を評価する
<b>教科書</b>		
リハビリテーションのための整形外科学の歩き方 監修・田中栄 著・仲村一郎 南江堂 2020年		
<b>参考文献</b>		
標準整形外科学 第14版 井樋栄二・他編集 医学書院 2020年		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
聴講に際しては、すでに学んだ運動器の解剖や生理学を十分に復習して臨むこと。		
<b>備考欄</b>		
(備考欄)		



2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		脳神経内科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松谷 学、林 貴士						

授業の位置づけ

理学療法/作業療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関係がある科目である「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」「内科学」と関連する。

授業の概要

脳神経内科疾患は、障害が中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、筋肉に及ぶので、小児から高齢者までのリハビリテーション治療の対象として重要である。臨床の現場では神経学的な検査を行い、その結果に基づき適切な治療計画と実施がなされなければならない。講義では、神経系の解剖と機能および画像診断等を理解し、その上で各種の神経・筋疾患の臨床像と病態に基づく治療が理解出来るように計画されている。

到達目標

- ・神経学的症候を神経系の解剖、機能と関連付けて述べることができる。
- ・神経学的検査および補助検査を理解し、その臨床的意義を述べることができる。
- ・主な脳神経内科疾患について、その特徴や臨床経過、治療法等について述べるができる。

授業の方法

- ・教科書とパワーポイントを併用して、講義形式で進める。
- ・脳神経内科疾患について、症候や病態の考え方、必要な検査法について、演習でディスカッションを行い、理解を深める。
- ・まとめの講義と質疑応答、および確認テストを2回行い、理解の定着を図る。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

松谷、林ともに脳神経内科診療と脳神経内科疾患のリハビリテーションに長年携わってきた。日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医の資格を有する。医科大学神経内科領域の非常勤講師、臨床教授として、学生指導に関わってきた幅広い経験を活かし、脳神経内科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、質疑応答の時間を設け、確認テスト終了後に解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	序論： 神経系の基本構造、情報伝達機能、脳神経内科疾患の大きな全体像を学習する。	教科書の第1章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第2回	中枢神経系の構造と機能： 中枢神経系を構成する各部位の構造と機能、求心性/遠心性伝導路を学習する。	教科書の第2章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第3回	末梢神経系の構造と機能： 末梢神経の構造と機能を、脳神経、脊髄神経、神経叢、自律神経を含めて学習する。	教科書の第3章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第4回	症候学1(運動・感覚系)： 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。神経学的診察法について学ぶ。	教科書の第4章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第5回	症候学2(高次脳機能)： 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。とくに意識と高次脳機能障害について焦点を当てる。	教科書の第5章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		

第6回	神経学的診断と補助検査法: 近年のリハビリテーション臨床で重要な画像検査や各職協働に必要な生理学的検査の基本を学習する。 確認テストとその解説(1回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	教科書の第6章を予習する。(90分) これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。 各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第6章にあり)を各自予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第7回	脳血管障害1: 患者数の多い疾患分野である。脳血管の解剖とその血管障害より生じる症候を学ぶ。 種々の脳血管障害を学ぶ。	教科書の第7章、第8章を予習する。(100分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第8回	脳血管障害2: 患者数の多い疾患分野である。脳血管の解剖とその血管障害より生じる症候を学ぶ。 種々の脳血管障害を学ぶ。	教科書の第7章、第8章を予習する。(100分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第9回	感染症・自己免疫疾患(脱髄疾患含む): 炎症を基盤とした疾患群を学習する。	教科書の第9章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第10回	末梢神経障害・筋疾患: 末梢神経系、筋、神経筋接合部の疾患について学ぶ。	教科書の第10章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		

第11回	脳腫瘍・頭部外傷: 脳神経外科で扱う手術が必要になることが多い疾患について学習する。	教科書の第11章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第12回	水頭症・代謝性疾患(遺伝形式含む)・脊髄疾患: 水頭症、代謝性疾患(先天代謝疾患、代謝性脳症)、脊髄疾患について学習する。	教科書の第12章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第13回	神経変性疾患1(運動障害を中心に): 代表的な神経系の疾患群である運動障害を中心とする神経変性疾患を学ぶ。	教科書の第13章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第14回	神経変性疾患2(認知症を中心に)、頭痛、てんかん: 認知症を主体とする神経変性疾患、ならびに発作性の疾患を学習する。	教科書の第14章、第15章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第15回	確認テストとその解説(2回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。 各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第15章にあり)を各自予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。 確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト2回 ・出席回数が3分の2に達しない場合は不合格
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
永井知代子/ビジュアル臨床神経学/医歯薬出版株式会社		
<b>参考文献</b>		
・川平和美 編集/標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学/i医学書院 ・他 随時紹介する。		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
<b>備考欄</b>		

2024 北海道文教大学 シラバス

<b>学部・学科</b>		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
<b>区分</b>		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
<b>科目名</b>		小児科学				ナンバリング	
<b>配当年次</b>	2年	<b>開講学期</b>	2024年度前期	<b>区分</b>	講義	<b>単位</b>	1
<b>担当教員</b>	石黒 信久						

**授業の位置づけ**

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。  
 小児科学は、小児の各種疾患の成因や病態および治療を科学的根拠の上から理解し、また小児の健康的な発育・発達を支援するための基礎的な知識を獲得するための授業であり、理学療法士や作業療法士となるために、必ず修めておかなければならない授業である。

**授業の概要**

理学療法士・作業療法士に必要な小児科学の基礎を学習する。特に、小児の成長や発達に伴う正常な運動および精神発達の評価と種々の疾患の基礎について学習する。

**到達目標**

1. 小児の成長や発達に伴う正常な運動および精神発達の評価ができる。
2. 種々の疾患に関する知識を取得、理解し、それらの説明ができる。

**授業の方法**

対面講義を予定しているが、学習効果を考慮しWebによる講義も検討する

**ICT活用**

web講義を行う場合には、ICT(Information and Communication Technology)機能を活用する。

**実務経験のある教員の教育内容**

小児科医として30年以上の経験を活かした授業を進める。

課題に対するフィードバックの方法			
必要に応じて講義のなかで説明する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	新型コロナウイルス感染症:SARS-CoV-2, 疾患の概要, 検査所見, 治療, 感染対策, 学生生活を送る上での注意事項について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第2回	新生児・未熟児疾患: 新生児特有の問題, 新生児・周産期異常症, 中枢神経障害と疾患などの症状・診断・治療などについて学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第3回	先天異常と遺伝病: 染色体異常, 先天奇形, 先天代謝異常症などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第4回	神経・筋・骨系疾患: 中枢神経疾患, てんかん, 発達遅滞を伴う疾患, 脊髄疾患, 末梢神経疾患, 筋疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第5回	循環器疾患, 呼吸器疾患および感染症: 種々の先天性心疾患および呼吸器疾患, 感染症などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		

第6回	<p>消化器疾患, 内分泌・代謝疾患および血液疾患: 種々の消化器疾患, 内分泌・代謝疾患および血液疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。</p> <p>腎・泌尿器疾患, 眼科・耳鼻科的疾患: 種々の腎・泌尿器疾患, 眼科・耳鼻科的疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。</p>	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第7回	<p>免疫・アレルギー疾患および腫瘍性疾患: 種々の免疫・アレルギー疾患および腫瘍性疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。</p>	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第8回	まとめ(筆記試験もしくは課題を検討する)。	指定した教科書を用いて, これまでの該当部分を予習する(90分間程度)。	試験の内容について復習しておく(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	80% 筆記試験(もしくは課題)を実施する。 20% 授業への参加度や授業態度から判断する。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版			
<b>参考文献</b>			
なし			
<b>履修条件・留意事項等</b>			



なし
<b>備考欄</b>
なし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		精神医学 I				ナンバリング	2310
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						

授業の位置づけ

理学療法・作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。理学療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」と特に関係がある科目である。作業療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」及び「【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適應できる能力を身につけている。」と関係している。両専攻ともに「精神医学Ⅱ」、作業療法学専攻においては「精神障害作業療法治療学」の基礎となる。

授業の概要

精神疾患患者のリハビリテーション計画を立案する上で必要となる、主要な精神科疾患についての知識を学ぶ。精神障害の分類についての考え方、精神科疾患の概念、疫学的事項、症状、診断、経過、成因と治療の概要について学習する。

到達目標

1. 精神医学に関する基本的な知識を理解し、説明できる。
2. 理学療法士・作業療法士としてリハビリテーションを実践していくときに、精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。
3. 国家試験「精神医学」範囲の出題を確実に得点できるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。  
必要に応じGoogle Classroomでオンライン授業を行う。  
第1回から第14回まで、Google ClassroomのGoogleフォームを用いた理解度確認テストを行う。

ICT活用

Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【精神医学総論1.「精神医学とは」】 精神医学の特色を身体医学との比較で学び、かつ協働領域との連携の重要性について学ぶ。また、古代ギリシアから中世のアニミズム的な考え方を経て現代にいたる精神医学の歴史について学ぶ。	教科書のpp.1～10を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	【精神医学総論2.「精神障害の成因と分類」「精神機能の障害と精神症状」①】 精神障害の3つの成因とその概念、精神障害の分類について学ぶ。また、意識とその障害、注意と見当識の障害、精神遅滞や認知症など知能とその障害、性格の分類とその障害について学ぶ。	教科書のpp.10～22を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	【精神医学総論3.「精神機能の障害と精神症状」②】 記憶の概念と分類、記憶障害とその分類、感情の概念と不安や抑うつなど感情の障害の種類、欲動と意志の概念とその障害、自我意識の概念と離人体験やさせられ体験など自我意識の障害について学ぶ。	教科書のpp.22～28を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	【精神医学総論4.「精神機能の障害と精神症状」③】 知覚とその障害としての錯覚、既視感・未視感、幻覚、思考とその障害としての思路の障害、思考体験様式の障害、思考内容の障害としての妄想、病識とその障害、及び主な精神状態像について学ぶ。	教科書のpp.28～38を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第5回	【精神医学総論5.「精神機能の障害と精神症状」④】 失語、失行、失認など神経心理学的症状について学ぶ。Wernicke-Lichtheimの失語図式に基づき運動失語、感覚失語、伝導失語、超皮質運動失語、超皮質感覚失語などの臨床像の分類を学ぶ。	教科書のpp.38～45を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第6回	【病理学総論6.「精神障害の診断と評価」①】 精神障害の診断や評価の基本となる精神医学的診察法、病歴の聴取について学ぶ。また、頭部CTやMRI、SPECT、脳波などの身体的検査法の概略について学ぶ。	教科書のpp.46～53を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	【精神医学総論7.「精神障害の診断と評価」②】 各種知能検査、記銘力検査、Kohs立方体テスト、HDS-R、MMSE、MMPI、ロールシャッハテスト、P-Fスタディなどの各種心理検査法の概要、精神症状や社会生活、主観的QOLの評価法の概略について学ぶ。	教科書のpp.53～67を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	【精神医学各論1.「脳器質性精神障害」①】 脳器質性精神障害の経過による症状の特徴、原因となる主な疾患について学ぶ。主な老年期の認知症疾患であるアルツハイマー型認知症、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症の特徴やリハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.68～81を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	【精神医学各論2.「脳器質性精神障害」②】 パーキンソン病やハンチントン舞踏病など大脳基底核の変性疾患、進行麻痺や単純ヘルペス脳炎などの脳の感染症、頭部外傷と外傷性脳損傷、中毒、脳腫瘍、脱髄性疾患、代謝障害、正常圧水頭症などについて学ぶ。	教科書のpp.81～93を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	【精神医学各論3.「症状性精神障害」】 症状性精神障害の概念と症状の特徴について学ぶ。低血糖、ペラグラ、Wernicke脳症、電解質異常、全身性エリテマトーデスなどの膠原病、甲状腺機能障害など基礎となる主な疾患、治療および経過について学ぶ。	教科書のpp.94～99を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	【精神医学各論4.「精神作用物質による精神および行動の障害」】 アルコールや依存性薬物による精神的・社会的障害を理解する。特にアルコール依存症候群に見られるアルコール離脱症候群、アルコール幻覚症、Korsakoff精神病などについて、またAAなどの自助グループについて学ぶ。	教科書のpp.100～114を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	【精神医学各論5.「てんかん」】 てんかんの概念、発作型と病型の分類、発作症状や精神症状の特徴、経過と予後、治療の一般的原則と主な抗てんかん薬、抗てんかん薬の対象となる発作型と主な副作用、ケアとリハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.115～126を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	【精神医学各論6.「統合失調症およびその関連障害」】 統合失調症がどのような病気か、病型や診断基準、経過と予後、急性期・慢性期における精神症状の特徴、社会生活における制限の特徴、治療法とリハビリテーションの基本について学ぶ。	教科書のpp.127～148を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	【精神医学各論7.「気分(感情)障害」】 気分(感情)障害の概念および病型の分類について学ぶ。うつ病と躁うつ病について、症状や経過の特徴、誘因・病因と発症の機制、治療と援助、リハビリテーションのあり方などに関して学ぶ。	教科書のpp.149～163を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テストの提出状況、および最終回の修了テスト。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院		
<b>参考文献</b>		
標準精神医学第8版／尾崎紀夫・三村將・水野雅文・村井俊哉 編集／医学書院		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
特記事項なし。		
<b>備考欄</b>		
特記事項なし。		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻						
区分	専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						
科目名	リハビリテーション医学					ナンバリング	2314
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	生駒 一憲						

授業の位置づけ

理学療法学専攻では、ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。さらに、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関係する。

作業療法学専攻では、ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。さらに、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関係する。

「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論」と関連し、理学療法学専攻および作業療法学専攻の各専門科目の基礎となる。

授業の概要

リハビリテーション医学の実践であるリハビリテーション医療は障害を最小化し、残存能力を最大化するための治療と予防である。本講義ではリハビリテーション治療について、代表的な疾患を通して基本的な考え方を学ぶ。また、リハビリテーション医学とは何かについて学び、あるべき理学療法士像や作業療法士像について考察する。

到達目標

1. リハビリテーション医学における障害の捉え方を説明できる。
2. 代表的な疾患に関して、リハビリテーション医学の治療目的を説明できる。
3. リハビリテーション医学の中の理学療法や作業療法の役割を説明できる。

授業の方法

- ・講義形式ですすめる
- ・講義資料は、Google Classroom で配布する
- ・授業内において質問の時間を設ける
- ・各回の授業の終わりに小テスト(出席確認を兼ねる)を Google Form を用いて行い、授業の振り返りを行う

ICT活用

自主学習支援のため、講義資料を Google Classroom で配布する。  
Google Form を用いた双方向型授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

担当者は病院施設においてリハビリテーション科専門医として勤務しており、その経験を活かして具体的・実践的な内容を盛り込んで授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
Google Form による小テストで出席者の理解度を確認した上で、必要な解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション リハビリテーション医療の内容やチームアプローチについて学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	リハビリテーション医療を実施するための国際生活機能分類について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	代表的な運動器疾患の臨床症状と理学療法および作業療法の治療手技について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第4回	高齢者に対するリハビリテーション医療の現状について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第5回	脳血管障害の臨床症状と理学療法および作業療法の治療手技について、神経学的な視点から学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			



第6回	リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の臨床症状について理解し、理学療法および作業療法の介入目的とその方法について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	認知症について、その分類と臨床症状について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	内部疾患(呼吸器・循環器疾患)により発生する様々な障害について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の授業内で行う小テストの結果と出席態度により評価する	
その他	0		
教科書			
リハビリテーション医学/上月正博・高橋仁美 編/メジカルビュー社			
参考文献			
必要に応じて授業中に文献を紹介する			
履修条件・留意事項等			

- 準備学習が済んでいることを前提に授業をすすめる
- 質問や確認事項がある場合は、積極的に発言すること
- Google Classroom にアクセスできる通信機器を持参のこと

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		老年医学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	瀧山 晃弘、續 佳代、佐々木 幸子、辻 幸美						

授業の位置づけ

理学療法・作業療法を行うために必要な、老年医学に関連する基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」及び「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。「高齢者理学療法学」「高齢期作業療法治療学」の基礎となる。

授業の概要

超高齢社会を迎え老年学の重要性はいやが上にも増大し、高齢者医療においては、診断や治療を行うのみではなく、社会生活にまで配慮した、全人的医療の実践が望まれる。そのためには医療、リハビリテーション、看護、栄養など専門職のチームによる理解を深めたい。

到達目標

1. 老化と老年期を包括的に理解し、説明できる。
2. 高齢者の個別の疾患、障害への理解を深め、応用できる。
3. 高齢者の全人的復権、リハビリテーション看護などの重要性について理解し、説明できる。

授業の方法

板書と教科書を活用しながら講義形式ですすめる。パワーポイントと配布印刷物も用いる。Google Classroomを用いた理解度確認テストを時間内に行う(全4回程度)。必要に応じてオンライン授業を実施する。フィードバックとして理解度確認テストの解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

各教員は医師、看護師、薬剤師、理学療法士等の資格に基づく臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
講義の中で小テストについて解説する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	加齢と老化(瀧山晃弘) ・老年学とは ・老化と加齢の定義、老化の機序 ・老化による生理機能の低下 ・老年病と老年症候群	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	高齢者に特徴的な症候と疾患1(瀧山晃弘) ・循環器疾患 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90分)	内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患2(瀧山晃弘) ・骨・運動器疾患 ・精神・神経疾患 ・耳鼻咽喉疾患 ・眼疾患その他	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学・精神医学・臨床心理学などを復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	高齢者に特徴的な精神疾患(認知症とうつ)(續佳代) ・加齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違いについて理解する。 ・認知症の種類とその特徴について理解する。 ・老年期のうつ病の特徴と治療について理解する。	教科書p188-204を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	續 佳代		
第5回	高齢者のリハビリテーション1(佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・サルコペニア・フレイル ・転倒・骨折 ・変形性関節症	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第6回	高齢者のリハビリテーション2 (佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・脳血管疾患 ・循環器疾患 ・呼吸器疾患	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第7回	老年看護学における理論と実際 (辻幸美) 内容: 老年看護学の概要や老年看護学の定義、役割 行動目標: 医療チームの一員である看護師が基盤としている考え方が理解できる。	教科書 32 高齢者の医療、看護、介護・福祉、保健 B を熟読しておくこと。(90分)	看護師と連携することで得られる患者にとってのメリットを考える。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	まとめと修了テスト(瀧山晃弘) 第1回から第7回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第7回までの学習内容を復習しておくこと。(90分)	修了テストを自己採点し、理解が不十分な点を確認しておくこと。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	一部の講義で小テストを行う。最終回に修了テストを実施する。詳細は授業中に伝える。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学(第5版) 編集:大内 尉義 医学書院			
<b>参考文献</b>			
必要に応じて紹介する。			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

積極的に学修すること。

**備考欄**

特記事項なし。

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床心理学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 紘史						

授業の位置づけ

理学療法学科のディプロマ・ポリシー「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」および作業療法学科のディプロマ・ポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と関係する科目である。

授業の概要

臨床心理学は心理学の古くて新しい応用領域である。伝統的な臨床心理学は精神力動論に基礎を置き、過去に遡っていわゆる心因を求め(病因論)、パーソナリティや内的葛藤を重視、自己洞察と人格成長を援助することを目指してきた。一方、健康心理学や行動医学と一緒に発展してきた新しい臨床心理学は、認知・行動理論に基礎を置き、客観的に得られるデータによって(evidence based medicine)、身体と精神疾患の治療と予防、リハビリテーションへと幅広い、未来志向の多様な援助を目標とする。科学的な方法論に基づいた健康関連行動、疾病関連行動の理解こそ、臨床場面の医師、看護、コメディカルが問題なく共有でき、相互のコミュニケーションに大いに役立つ、医療専門職としての基礎知識といえる。健康と臨床に関する題材を中心に、医療への応用について学習する。

到達目標

1. 医療の中での臨床心理学の必要性について説明できる。
2. 代表的な臨床心理学的アセスメントの方法について説明できる。
3. 代表的な心理療法について説明できる。
4. 行動理論の代表的な基礎理論を説明できる。
5. 行動理論の代表的なアプローチを説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。  
理解度確認テストを実施する(8回)。

ICT活用

google formsを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりまぜながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
理解度確認テストの解答をフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	臨床心理学とは 臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。	参考文献を中心に臨床心理学の必要性について考えておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
第2回	アセスメント 臨床心理学で用いられるアセスメントについて理解する	参考文献を中心に臨床心理学で用いられるアセスメントについて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			
第3回	臨床心理学の諸理論 臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異動について理解する。	参考文献を中心に臨床心理学で用いられる心理療法(行動療法以外)について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			
第4回	行動理論:学習理論 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方の基礎となる学習理論について理解する。	参考文献を中心に学習理論について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
第5回	行動理論:機能分析 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方の1つである機能分析を理解する。	参考文献を中心に機能分析について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			



第6回	行動理論:行動のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、行動のコントロールに関するアプ ローチを理解する。	参考文献を中心に行動のコン トロールの方法について予習して おくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第7回	行動理論:認知のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、認知のコントロールに関するアプ ローチを理解する。	参考文献を中心に認知のコン トロールの方法について予習して おくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第8回	行動理論:気分・感情のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するア プローチを理解する。	参考文献を中心に気分・感情の コントロールの方法について予 習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を実施しない
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	レポート(60%) 理解度確認テスト(40%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

リハベーシック 心理・臨床心理学／内山 靖他編／医歯薬出版株式会社  
実践家のための認知行動療法テクニックガイド／鈴木伸一他／北大路書房  
認知行動療法事典／日本認知・行動療法学会編／丸善出版

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション栄養学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 将太						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>[理学療法学専攻]                      ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。                      また、「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」および「地域医療を支える多種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。</p> <p>[作業療法学専攻]                      ディプロマ・ポリシーの「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。                      また、「作業療法学を实践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、および「地域医療を支える多種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。</p> <p>両専攻とも「食生活論」と関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>食事は健康を維持・増進するために欠かせないものである。栄養素の摂取は健康状態と関連し、年齢に適した食事をとることが大切であり、過不足のない状態を維持することが重要である。リハビリテーションを行う際、低栄養状態では十分な効果を期待できないと言われており、対象者の栄養状態の評価を適切に行う必要がある。本科目では、人間の健康および疾病と栄養摂取との関連について学習し、栄養スクリーニングやアセスメントの基礎知識を身につける内容とする。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養素とその働きを説明できる。</li> <li>・栄養状態の評価に必要な指標、臨床検査値、身体計測法などについて説明できる。</li> <li>・栄養補給法の概略について説明できる。</li> <li>・病態と栄養学的対策との関連を説明できる。</li> <li>・リハビリテーションにおける栄養知識の重要性を説明できる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>スライドおよび配布資料を用いて講義形式を進める。                      授業の理解度を高めるため、授業毎に確認小テストを実施する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>授業に関する事項は、Classroomを用いる。                      Google Formを用いて小テストを実施する。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
なし							

課題に対するフィードバックの方法			
確認小テストの解説をする。 レポート課題へのフィードバックは、ルーブリックを通して行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<p>【ガイダンス】【栄養知識の重要性】 栄養、および栄養素の概念とリハビリテーションにおける栄養知識の重要性を学ぶ。 【栄養の基礎① 栄養補給ルート】 治療に用いられる栄養補給法の概略について学ぶ。 【栄養学の基礎② 栄養ケアプロセス】 栄養ケアプロセスの概略について学ぶ。</p>	<p>序章: pp.1-18 第1章 1. 栄養補給ルート: pp.20-22 第1章 7. 栄養ケアプロセス: pp.78-84 を読んでおく (90分)</p>	<p>配布資料および授業内容を整理する (90分)</p>
担当教員			
第2回	<p>【栄養の基礎③ 栄養素の役割】 栄養素代謝の概略について学ぶ。 リハビリテーションを行う患者の必要栄養量を学ぶ。</p>	<p>第1章 3. 栄養素の役割: pp.28-56を読んでおく (90分)</p>	<p>配布資料および授業内容を整理する (90分)</p>
担当教員			
第3回	<p>【栄養の基礎エネルギー代謝】 エネルギー代謝の概略と消費エネルギーの算出方法を学ぶ。</p>	<p>第1章 2. エネルギー代謝: pp.23-27を読んでおく (90分)</p>	<p>配布資料および授業内容を整理する (90分)</p>
担当教員			
第4回	<p>【主な病態の栄養療法①低栄養】 低栄養の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。</p>	<p>第2章 1. 低栄養者の栄養管理: pp.86-91を読んでおく (90分)</p>	<p>配布資料および授業内容を整理する (90分)</p>
担当教員			
第5回	<p>【主な病態の栄養療法②摂食嚥下障害, フレイル・サルコペニア】 嚥下障害者の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。 フレイル・サルコペニアの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。</p>	<p>第2章 2. 摂食嚥下障害, 3. フレイル, 4. サルコペニア: pp.92-123 を読んでおく (90分)</p>	<p>配布資料および授業内容を整理する (90分)</p>
担当教員			

第6回	【主な病態の栄養療法③ロコモティブシンドローム】 ロコモティブシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 5. ロコモティブ・シンドローム: pp.124-128を読んでおく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			
第7回	【主な病態の栄養療法④メタボリックシンドローム】 メタボリックシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 6. メタボリック・シンドローム: pp.129-137を読んでおく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			
第8回	【運動(身体活動と栄養)】 身体活動が多い者、お多くなる場合の栄養について学ぶ。	身体活動と栄養の関連について調べ、興味を持ったことを整理しておく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題を3回出題し、その内容を評価する 1回目(授業2回目終了後, ショートレポート): 30% 2回目(授業5回目終了後, ショートレポート): 30% 3回目(授業8回目終了後, レポート): 40%	
その他	0	なし	
教科書			
リハビリテーションに役立つ 栄養学の基礎 [第3版] / 栢下淳・若林秀隆 編著 / 医歯薬出版株式会社			
参考文献			
適宜紹介する			
履修条件・留意事項等			

必修科目

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		言語障害治療学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金浜 悦子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>臨床現場で接する言語聴覚及び嚥下障害全般にわたる専門的な知識を得ることにより、患者や地域で暮らす利用者とのコミュニケーション能力を高めることができ、より良いリハビリテーションの提供ができる。又、当事者をとりまくあらたな環境整備を考えるための応用力を身につけることを目的とする。ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」とも関連する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>言語障害治療学の定義、言語障害の分類を理解し、各障害について、その特性、評価、治療、予防、指導、生活上の関わり方について学習する。具体的には構音障害、声の障害、吃音、口蓋裂、脳性麻痺障害、言語発達遅滞、失語症等について学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語(失語症を中心に)や聴覚障害者とのコミュニケーション技術、支援方法を習得する。</li> <li>・医療、福祉、教育の現場等においての言語聴覚士の領域の専門的な知識について理解を深めることで、チームとしてより良い連携をし幅広い対応ができるセラピストになる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>教科書、配布資料、パワーポイントを用いての講義形式で行う。失語症者との接し方については実践体験を行う予定。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>特に予定なし</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>言語聴覚士として、医療機関、訪問看護ステーション、介護保険施設に勤務し、現在はNPO法人で失語症に特化した支援活動に取り組む。臨床経験を活かし、言語障害全般のとらえ方や支援方法について授業を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
各講義のポイントを教科書や配布資料に則って復習チェックしておく。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】言語聴覚士の成り立ちや仕事内容などを紹介する。又言葉の持つ役割やしぐみ、主な言語障害の種類について学ぶ。	教科書巻頭カラーページ P2～16を読む(90分)	配布資料を復習し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	【失語症①定義・症状】失語症とは、発話のみに限らず理解の障害であることを学ぶ。又、主な失語のタイプの症状や特徴を知り、失語症を正しく理解する。	第1章 失語症 P24～47を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	【失語症②評価・接し方】様々なタイプがある失語症を評価する方法や観察点について、又接し方のコツについてを学ぶ。	第1章 失語症 P48～58を読む(90分)	教科書・配布資料を読み、小テストに備える。(90分)
担当教員			
第4回	【失語症③会話実践体験・小テスト】失語症者との会話場面を想定し、接し方や会話のコツについて実践を通して学ぶ。まとめとして失語症についての小テストを行う。	配布資料の接し方のコツを読み、次回実践学習に備える。(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	【摂食嚥下障害①】高齢者の死亡原因の上位とされる摂食嚥下障害について嚥下機能や障害の特徴について学ぶ。	第1部第4章摂食嚥下障害p86～94を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。小テストのためのポイントをチェックする(90分)
担当教員			



第6回	【摂食嚥下障害②】嚥下障害の評価時の観察点や簡易検査の方法、訓練内容や対応を理解し、多職種がチームとなり関わる重要性を知る。摂食嚥下障害について小テストを実施する。	第I章第4部摂食嚥下障害p90～94を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第7回	【その他のコミュニケーション障害】失語症と間違われやすい運動性構音障害について、また、聴覚障害について知識を深める。	第I部第2章運動性構音障害p60～72、第II部第2章聴覚障害p138～141まで読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	【小児の言語障害】近年、小児の言葉の発達や学習支援のニーズが増加傾向にある。小児の主な言語障害について学ぶ。	第II部第6章学習障害p192～202を読む(90分)	全講義の配布資料に目を通し、復習する(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	講義の出席姿勢と小テストの成績。
その他	10	各種届(欠席・遅刻)の提出必須。テストの結果によってレポートの提出が必要な時あり。

教科書

図解やさしくわかる言語聴覚障害 小嶋知幸 編著 ナツメ社

参考文献

- ・脳卒中後のコミュニケーション障害 竹内愛子/河内十郎 編著 協同医書
- ・絵でわかる言語障害 毛束真知子 著 学研
- ・失語症の理解とケア 遠藤尚志 著 雲母書房
- ・神経心理学入門 山鳥重 著 医学書院
- ・口から食べる嚥下障害Q&A 藤島一郎 著 清水一男 絵 中央法規 他

履修条件・留意事項等

教科書、配布資料の持参。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻						
区分	専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念						
科目名	医学概論					ナンバリング	2282
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	生駒 一憲						

授業の位置づけ

理学療法士・作業療法士を目指す学生が医学とは何かを考え、医療職としての社会性や常識を学ぶ科目である。本科目と特に関係があるディプロマ・ポリシーは、理学療法学専攻では「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」、作業療法学専攻では「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」、両専攻共通で「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」である。さらに関連性があるディプロマ・ポリシーは、理学療法学専攻では「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、作業療法学専攻では「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」、両専攻共通で「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」である。本科目は「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論」「リハビリテーション医学」の各科目と関連し、その他すべての専門科目の基礎となる。

授業の概要

現代の医療は、医療が複雑化し高度化したことに加えて生命の質が求められている。様々な専門職が協働する医療の現場では、医学・医療に関して共通の基盤に立った認識が必要である。本講義は今日の医学がどのように発展してきたのか、現代医学はどのように成り立っているのか、これからの医学は何を目指しているのかを学び、「医学・医療とは何か」を客観的に把握できる内容である。医療専門職を目指す学生にとって最初に聴講すべき講義である。

到達目標

- ・医学・医療の必要性について論じることができる
- ・健康にとって必要なことは何かについて論じることができる
- ・医学・医療の過去、現在、未来について論じることができる
- ・現代日本の医療制度について説明することができる
- ・医学・医療の倫理や生命倫理について説明することができる

授業の方法

- ・教科書に沿って授業を行い、講義形式ですすめる
- ・講義資料は、Google Classroom で配布する
- ・授業内において質問の時間を設ける
- ・各回の授業の終わりに小テスト(出席確認を兼ねる)を Google Form を用いて行い、授業の振り返りを行う

ICT活用

自主学习支援のため、講義資料を Google Classroom で配布する  
Google Form を用いた双方向型授業を取り入れる

実務経験のある教員の教育内容

担当者は病院施設において医師として勤務しており、その経験を活かして具体的・実践的な内容を盛り込んで授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
Google Form による小テストで出席者の理解度を確認した上で、必要な解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション。 医学の歴史について学ぶ。病気とその治療・予防についての基本的な考え方を学ぶ。	教科書の1章, 2章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	患者の診察と検査の概略を学ぶ。わが国の社会保障と医療保険について学ぶ。	教科書の3章, 4章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	国民の医療の現状と国民の意識を理解し、わが国の医療の問題点と対策について考える。	教科書の5章, 6章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第4回	生活習慣病と特定健診, 産業保健と勤労者医療, 学校保健と障害児教育について学ぶ。	教科書の7章, 8章, 9章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第5回	高齢者医療, 介護保険, リハビリテーションについて学ぶ。	教科書の10章, 11章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第6回	チーム医療の中での医療職の役割と医療安全について学ぶ。	教科書の12章, 13章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第7回	災害医療について学ぶ。医の倫理, 患者の権利について考える。	教科書の14章, 15章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	国際医療協力について学ぶ。医学研究と臨床への応用についての基本的考え方を学ぶ。医療と法律についての概略を学ぶ。 本科目全体のまとめ。	教科書の16章, 17章, 18章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の授業内で行う小テストの結果と出席態度により評価する	
その他	0		
<b>教科書</b>			
現代医学概論 第3版 / 柳澤信夫 著 / 医歯薬出版			
<b>参考文献</b>			
必要に応じて授業中に参考図書を紹介する			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

- 準備学習で教科書を読んでいることを前提に授業をすすめる
- 質問や確認事項がある場合は、積極的に発言すること
- Google Classroom にアクセスできる通信機器を持参のこと

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻						
区分	専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念						
科目名	リハビリテーション概論					ナンバリング	2284
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1

担当教員 白戸 力弥、牧野 均

授業の位置づけ

理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関連する。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「作業療法を行うために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と特に関連する。医学概論・日本国憲法・現代医療と福祉・介護と関連し、チーム医療概論、リハビリテーション医学、理学療法概論、作業療法学概論の基礎となる科目である。

授業の概要

リハビリテーションの歴史・理念・目標、病気・障害・健康の概念、リハビリテーション対象者の状態像を理解する。さらに、今日における医学的、教育的・職業的・地域リハビリテーション分野の基礎知識や総合リハビリテーションについて概観する。合わせて、わが国のリハビリテーションを支える社会制度や社会資源について学習し、関連職種間のチームワークやその重要性を概説する。

到達目標

1. リハビリテーションの定義と理念を述べるができる
2. 健康の概念、病気や障害のとらえ方を説明できる
3. 各種リハビリテーション分野の定義や現状を具体的に説明できる
4. 各リハビリテーション分野関連職種の名称を述べるができる
5. リハビリテーションを支える社会制度や社会資源、法律についておおまかに説明できる

授業の方法

パワーポイントとビデオ画像を用いて講義形式ですすめる。学生のノートテキングを徹底する。毎回の用語の説明を教科書を調べて事後学習時にまとめること。

ICT活用

スマートフォンなどの媒体を用いて、出席および確認テストなどをGoogle Formで行う予定である。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員はともに理学療法士または作業療法士の資格を有し、臨床での勤務経験がある。これらを幅広い経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして確認テストは解答終了後に解説を行う(Classroomのストリームページに解説することもある)。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	リハビリテーションってなに？ リハビリテーションの意味、歴史、定義について学ぶ。	教科書の第1章1～13頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		
第2回	リハビリテーションはなぜ必要か 障害と障害者の歴史、国際障害者分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)、障害受容について学ぶ。	教科書の第2章15～29頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	リハビリテーションとチーム医療 チーム医療の必要性、多職種連携、リハビリテーションを支える医療職について学ぶ。	教科書の第3章31～44頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		
第4回	「活動を育む」リハビリテーション医学とは 活動とはなにか、人間が動くしくみ、歩行と移動、活動から日常生活活動(ADL)へについて学ぶ。	教科書の第4章47～62頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	リハビリテーションを支える社会保障制度 リハビリテーション関連法規、医療制度、介護保険制度について学ぶ。	教科書の第5章65～86頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		



第6回	リハビリテーション工学 リハビリテーション工学とは何か、自助具、歩行補助具、車椅子とシーティング、コミュニケーション支援機器、さらにロボティクスとリハビリテーションについて学ぶ。	教科書の第6章89～112頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		
第7回	栄養とリハビリテーション 栄養とは何か、食べることと摂食嚥下について、消化・吸収についてを学ぶ。	教科書の第7章113～126頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		
第8回	教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーション 教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーションの役割と実践について学ぶ。	教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーションにはどのようなものがあるか調べる(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テストを行う	
その他	0		
<b>教科書</b>			
川手信行／リハビリテーション概論のいろは／南江堂			
<b>参考文献</b>			
田島文博 編著／リハビリテーション概論 改訂第4版／永井書店			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

授業中は持参したノートにノートテキングすること。出席および確認テストなどに充電したスマートフォンなどを用いるので毎回、必ず持参すること。授業中に充電することはできない。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		公衆衛生学				ナンバリング	2286
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>理学療法学専攻のディプロマポリシー「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」、作業療法学専攻のディプロマポリシー「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関連する科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>臨床医学が患者を対象とするのに対し、公衆衛生は健康な人を含めた集団を対象としている。健康課題を社会全体の問題としてとらえ、物理化学的、生物学的、社会的環境の健康に影響を与える因子について学習する。本講義は疾病の予防から、健康障害を残した人々のより良い健康レベルの獲得までを目指すための学習であり、総合的に人々の健康を守り、増進するための基礎的知識を学ぶ。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生の定義・概念を理解し、各領域とその活動の特徴についての概略を理解することができる。</li> <li>・わが国の医療保険制度の特色とその仕組みの概略について理解することができる。</li> <li>・公衆衛生学の基本的手法である、疫学の特徴について理解することができる。</li> <li>・生活習慣病対策として取り組んでいる健康づくりの施策について理解することができる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、講義の終了時に小テストを実施し、内容の確認を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、講義の終了時に小テストを実施し、内容の確認を行う。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>該当なし</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、理解度確認のためのテストの解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	公衆衛生と健康の概念 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生の定義、健康の定義を理解する。</li> <li>・予防医学の概念を理解する。</li> <li>・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて理解する。</li> </ul>	教科書第1章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	保健統計 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康指標とその例について理解する。</li> <li>・各種統計指標の内容について理解する。</li> </ul>	教科書第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	疫学 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学の概念、方法論について理解する。</li> <li>・疾病、死亡の指標を理解する。</li> </ul>	教科書第3章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第4回	疾病予防と健康管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防医学の概念について理解する。</li> <li>・健康増進の具体的手法とその特徴について理解する。</li> <li>・健康日本21について理解する。</li> </ul>	教科書第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要感染症の発生状況について理解する。</li> <li>・主要感染症の感染経路と特徴について理解する。</li> <li>・標準予防策について理解する。</li> </ul>	教科書第5章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第6回	疾病予防と健康管理 ・循環器系疾患の予防について理解する ・代謝性疾患の予防について理解する	教科書第5章-2, 3を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第7回	地域保健と保健行政 ・地域保健活動の進め方について理解する。 ・PDCAサイクルについてその概要を理解する。	教科書第7章を事前に読んでおくこと。(90分) 第8回に行うまとめのテストに備え、講義内容の復習をする。	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	母子保健 ・死産、死亡に関する指標について理解する。 ・乳幼児の発育指標について理解する。 ・母子保健の課題、少子化の現状について理解する。 ・理解度確認のため、まとめのテストを実施する。	教科書第7章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する小テスト、まとめのテスト及び授業への参加態度により評価する。
その他	0	なし

教科書

シンプル衛生公衆衛生学2024、辻一郎/小山洋、南江堂

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定になります。

**備考欄**

なし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		地域包括ケアシステム論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳、小橋 拓真						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」と特に関係がある科目である。また、「臨床場面や研究において、状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている」などとも関係する。

授業の概要

超高齢社会を迎えた日本では、医療・介護保険制度また関連する施策改定により、各地域の実情に合った地域包括ケアシステムの構築を推進しており、看護師・理学療法士・作業療法士等の活躍が期待されている。そのため地域包括ケアシステムの制度およびその実践を学び、地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、地域包括ケアシステムにおいてリーダー的な役割を担うことができる能力を養う。

到達目標

- ・地域連携の基本的な連携について説明できる。
- ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について説明できる。
- ・在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントと配布資料、視聴覚教材を用いた講義形式とグループワークで進める。
- ・授業の理解度確認のため小テストを実施する。
- ・ゲストスピーカーによる地域における実践例について、レポート課題を実施する。

ICT活用

- ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。
- ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域包括ケアシステムに関する授業を行う。  
小橋は、看護師、保健師としての実務経験、及び、地域包括支援センター、社会福祉協議会における実務経験を講義に活用する。

課題に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。</li> <li>・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。</li> </ul>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.地域包括ケアシステム論の概要について【講義】(小橋) 1)地域包括ケアの概念 2)地域連携の理論と方法 3)我が国の社会保障制度の変遷 4)我が国の医療の背景と特徴, ケアサイクルの概念と理論	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第2回	2.地域連携の方法論と地域包括ケアシステムにおける地域連携と多職種連携について【講義】(小橋) 1)連携の方法と形式について 2)地域包括ケアシステムが求められる背景	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第3回	3.地域連携の方法論【演習】(水本・小橋)ゲストスピーカー:大津 崇輔 先生(元経済産業省/北海道子ども総合医療・療育センター 企画総務課) 1)日本における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み ・国の機関(経済産業省・厚生労働省・内閣府など)や地域公共団体が支える地域包括ケアシステム	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		
第4回	4.地域包括ケアシステムにおけるリハ職の役割(水本) 1)退院支援から地域連携におけるリハ職の役割 2)様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 3)薬剤師, ソーシャルワーカーなど他の役割について 小テスト1	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. (90分)
担当教員	水本 淳		
第5回	小テスト1の解説 5.地域包括ケアシステムにおける看護職の役割【講義】(小橋) 1)退院支援から地域連携において, 看護師にはどのような役割があるのかについて 2)退院支援のプロセス第1段階, 第2段階, 第3段階について 3)地域連携の展望と課題 4)認知症ケアが必要とする地域連携 5)小規模多機能型居宅介護が進める地域連携	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		



第6回	6.地域包括ケアシステムにおける多職種の連携【演習】(水本) グループワーク 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		
第7回	7.地域包括ケアにおける医師の役割と地域連携の実践【講義】(小橋・水本) ゲストスピーカー: 柴田 岳三 先生(緩和ケアクリニック 恵庭) 1) 恵庭市で緩和ケアクリニックを開業している医師から恵庭市における在宅緩和ケアを中心とした地域包括ケアシステムの取り組みについて	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第8回	8.地域包括ケアシステムの展望について【講義】(水本) 1) インテグレートケアについて 2) 地域包括ケアシステムの展望について 視聴覚教材の視聴 小テスト2	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. (90分)
担当教員	水本 淳		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	出席を含む講義・演習への参加態度(30%) 課題レポート(30%:5%×6回)	
その他	40	小テスト:2回(40%:20%×2回)	
<b>教科書</b>			
地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹／オーム社			
<b>参考文献</b>			
講義内で紹介する			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 理学療法基礎					
科目名		応用解剖学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	池野 秀則、南部 路治						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある。またその他すべてのディプロマ・ポリシーと関係している。「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「基礎解剖学実習」の発展的科目で形態学的側面のみでなく機能学的側面も学習する。さらに、「病態運動学」や「神経障害理学療法学・実習」とつながる科目である。

授業の概要

1年次に学んだ筋の起始・停止および支配神経の知識をもとに、触診を通してさらに理解を深める。また、中枢神経である脳・脊髄の形態と機能および脳神経について学ぶ。さらに、呼吸器・循環器・泌尿器などの内臓器の形態及び機能を学ぶことにより、科学的見地から人体の構造と各器官の連関についての知識を身に付ける。

到達目標

- ・脳・脊髄(中枢神経系)と末梢神経系の形態と機能を関連づけ、錐体路から運動器官までの一連の流れを説明できる。
- ・循環器系、呼吸器系など内臓に関する形態と機能について説明できる。

授業の方法

Iについては脳の標本等を活用しながら立体的に理解できるように進める(全22回)  
IIについてはパワーポイント、DVDを活用して理解しやすいように行う(全8回)

ICT活用

webアプリのvisible body、maruzen eBook libraryを適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務した経験を活かして神経系の実習を担当する。  
南部は総合病院・大学病院にて理学療法士として勤務した経験を活かして内臓系の実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度確認テストを実施し、回収後に解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・神経系の全体像と脳の構造(1) (池野)	脳の構造について調べておくこと(60分)	脳の構造について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	脳の構造(2)・ニューロンとグリア細胞・シナプス伝達 理解度確認テスト (池野)	脳の構造及びニューロン、グリア細胞、シナプス伝達について調べておくこと(60分)	脳の構造及びニューロン、グリア細胞、シナプス伝達について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	脳の4つの葉 (池野)	脳の4つの葉についてそれぞれ調べておくこと(60分)	脳の4つの葉についてそれぞれ調べたことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第4回	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳 理解度確認テスト (池野)	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳について調べておくこと(60分)	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第5回	脳幹、小脳、立体的に理解する脳の構造 (池野)	脳幹、小脳を立体的に理解できるよう調べておくこと(60分)	脳幹、小脳を立体的に理解できるよう学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第6回	脳動脈 理解度確認テスト (池野)	脳動脈について調べておくこと(60分)	脳動脈について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第7回	脳血管障害・脳梗塞 (池野)	脳血管障害・脳梗塞について調べておくこと(60分)	脳血管障害・脳梗塞について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	脳内出血 理解度確認テスト (池野)	脳内出血について調べておくこと(60分)	脳内出血について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第9回	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病 (池野)	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病について調べておくこと(60分)	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第10回	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液 理解度確認テスト (池野)	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液について調べておくこと(60分)	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第11回	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚 (池野)	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚について調べておくこと(60分)	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第12回	運動・運動の異常 理解度確認テスト (池野)	運動・運動の異常 について調べておくこと(60分)	運動・運動の異常 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第13回	反射・運動の調節 (池野)	反射・運動の調節について調べておくこと(60分)	反射・運動の調節について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第14回	感覚 理解度確認テスト (池野)	感覚 について調べておくこと(60分)	感覚について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第15回	自律神経系 (池野)	自律神経について調べておくこと(60分)	自律神経について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第16回	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 理解度確認テスト (池野)	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 について調べておくこと(60分)	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第17回	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 (池野)	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 について調べておくこと(60分)	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第18回	筋疾患・その他 理解度確認テスト (池野)	筋疾患について教科書に沿って調べておくこと(60分)	筋疾患について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第19回	認知症 (池野)	認知症について調べておくこと(60分)	認知症について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第20回	イラスト解剖学持参(復習) 理解度確認テスト (池野)	イラスト解剖学で 第VI章神経と感覚器について読んでおくこと(60分)	イラスト解剖学で 第VI章神経と感覚器について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第21回	札幌医大標本館見学 (池野)	病理標本(特に脳)について調べておくこと(60分)	標本館で学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第22回	札幌医大標本館見学 (池野)	病理標本(特に内臓)について調べておくこと(60分)	標本館で学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第23回	循環器系について理解する(1) (南部)	循環器系の形態と機能(特に心臓)について調べておくこと(60分)	循環器系の形態と機能(特に心臓)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第24回	循環器系について理解する(2) (南部)	循環器系の形態と機能(特に血管系)について調べておくこと(60分)	循環器系の形態と機能(特に血管系)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第25回	呼吸器系について理解する(1) (南部)	呼吸器系の形態と機能(特に気管・気管支)について調べておくこと(60分)	呼吸器系の形態と機能(特に気管・気管支)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		



第26回	呼吸器系について理解する(2) (南部)	呼吸器系の形態と機能(特に肺) について調べておくこと(60分)	呼吸器系の形態と機能(特に肺) について学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第27回	消化器系(消化管)について理解する (南部)	消化器系(消化管)について調 べておくこと(60分)	消化器系(消化管)について学 んだことを復習しておくこと(60 分)
担当教員	南部 路治		
第28回	消化器系(肝・胆・膵)について理解する (南部)	消化器系(肝・胆・膵)について 調べておくこと(60分)	消化器系(肝・胆・膵)につい て学んだことを復習しておくこと (60分)
担当教員	南部 路治		
第29回	泌尿器系(腎臓、尿管)について理解する (南部)	泌尿器系(腎臓、尿管)につい て調べておくこと(60分)	泌尿器系(腎臓、尿管)につい て学んだことを復習しておくこと(60 分)
担当教員	南部 路治		
第30回	泌尿器系(膀胱、尿道)について理解する (南部)	泌尿器系(膀胱、尿道)につい て調べておくこと(60分)	泌尿器系(膀胱、尿道)につい て学んだことを復習しておくこと(60 分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	I は70% (理解度確認テストと総合評価)、II は30% (総合評価)
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
病気がみえる(脳・神経) 尾上 尚志他 メディックメディア PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社		
<b>参考文献</b>		
ネット解剖学アトラス 相磯禎和訳 南江堂		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
演習科目なのでなるべく欠席しないこと		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 理学療法基礎					
科目名		応用解剖学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	池野 秀則、南部 路治						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある。またその他すべてのディプロマ・ポリシーと関係している。「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「基礎解剖学実習」の発展的科目で形態学的側面のみでなく機能学的側面も学習する。さらに、「病態運動学」や「神経障害理学療法学・実習」とつながる科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>1年次に学んだ筋の起始・停止および支配神経の知識をもとに、触診を通してさらに理解を深める。また、中枢神経である脳・脊髄の形態と機能および脳神経について学ぶ。さらに、呼吸時・循環器・泌尿器などの内臓器の形態及び機能を学ぶことにより、科学的見地から人体の構造と各器官の連関についての知識を身に付ける。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳・脊髄(中枢神経系)と末梢神経系の形態と機能を関連づけ、錐体路から運動器官までの一連の流れを説明できる。</li> <li>・循環器系、呼吸器系など内臓に関する形態と機能について説明できる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>I については脳の標本等を活用しながら立体的に理解できるように進める(全22回)                      II についてはパワーポイント、DVDを活用して理解しやすいように行う(全8回)</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>webアプリのvisible body、maruzen eBook libraryを適宜活用する。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務した経験を活かして神経系の実習を担当する。                      南部は総合病院・大学病院にて理学療法士として勤務した経験を活かして内臓系の実習を担当する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度確認テストを実施し、回収後に解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・神経系の全体像と脳の構造(1) (池野)	脳の構造について調べておくこと(60分)	脳の構造について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	脳の構造(2)・ニューロンとグリア細胞・シナプス伝達 理解度確認テスト (池野)	脳の構造及びニューロン、グリア細胞、シナプス伝達について調べておくこと(60分)	脳の構造及びニューロン、グリア細胞、シナプス伝達について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	脳の4つの葉 (池野)	脳の4つの葉についてそれぞれ調べておくこと(60分)	脳の4つの葉についてそれぞれ調べたことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第4回	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳 理解度確認テスト (池野)	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳について調べておくこと(60分)	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第5回	脳幹、小脳、立体的に理解する脳の構造 (池野)	脳幹、小脳を立体的に理解できるよう調べておくこと(60分)	脳幹、小脳を立体的に理解できるよう学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第6回	脳動脈 理解度確認テスト (池野)	脳動脈について調べておくこと(60分)	脳動脈について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第7回	脳血管障害・脳梗塞 (池野)	脳血管障害・脳梗塞について調べておくこと(60分)	脳血管障害・脳梗塞について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	脳内出血 理解度確認テスト (池野)	脳内出血について調べておくこと(60分)	脳内出血について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第9回	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病 (池野)	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病について調べておくこと(60分)	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第10回	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液 理解度確認テスト (池野)	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液について調べておくこと(60分)	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第11回	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚 (池野)	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚について調べておくこと(60分)	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第12回	運動・運動の異常 理解度確認テスト (池野)	運動・運動の異常 について調べておくこと(60分)	運動・運動の異常 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第13回	反射・運動の調節 (池野)	反射・運動の調節について調べておくこと(60分)	反射・運動の調節について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第14回	感覚 理解度確認テスト (池野)	感覚 について調べておくこと(60分)	感覚について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第15回	自律神経系 (池野)	自律神経について調べておくこと(60分)	自律神経について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第16回	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 理解度確認テスト (池野)	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 について調べておくこと(60分)	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第17回	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 (池野)	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 について調べておくこと(60分)	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第18回	筋疾患・その他 理解度確認テスト (池野)	筋疾患について教科書に沿って調べておくこと(60分)	筋疾患について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第19回	認知症 (池野)	認知症について調べておくこと(60分)	認知症について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第20回	イラスト解剖学持参(復習) 理解度確認テスト (池野)	イラスト解剖学で 第VI章神経と感覚器について読んでおくこと(60分)	イラスト解剖学で 第VI章神経と感覚器について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第21回	札幌医大標本館見学 (池野)	病理標本(特に脳)について調べておくこと(60分)	標本館で学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第22回	札幌医大標本館見学 (池野)	病理標本(特に内臓)について調べておくこと(60分)	標本館で学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第23回	循環器系について理解する(1) (南部)	循環器系の形態と機能(特に心臓)について調べておくこと(60分)	循環器系の形態と機能(特に心臓)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第24回	循環器系について理解する(2) (南部)	循環器系の形態と機能(特に血管系)について調べておくこと(60分)	循環器系の形態と機能(特に血管系)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第25回	呼吸器系について理解する(1) (南部)	呼吸器系の形態と機能(特に気管・気管支)について調べておくこと(60分)	呼吸器系の形態と機能(特に気管・気管支)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		



第26回	呼吸器系について理解する(2) (南部)	呼吸器系の形態と機能(特に肺) について調べておくこと(60分)	呼吸器系の形態と機能(特に肺) について学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第27回	消化器系(消化管)について理解する (南部)	消化器系(消化管)について調 べておくこと(60分)	消化器系(消化管)について学 んだことを復習しておくこと(60 分)
担当教員	南部 路治		
第28回	消化器系(肝・胆・膵)について理解する (南部)	消化器系(肝・胆・膵)について 調べておくこと(60分)	消化器系(肝・胆・膵)につい て学んだことを復習しておくこと (60分)
担当教員	南部 路治		
第29回	泌尿器系(腎臓、尿管)について理解する (南部)	泌尿器系(腎臓、尿管)につい て調べておくこと(60分)	泌尿器系(腎臓、尿管)につい て学んだことを復習しておくこと(60 分)
担当教員	南部 路治		
第30回	泌尿器系(膀胱、尿道)について理解する (南部)	泌尿器系(膀胱、尿道)につい て調べておくこと(60分)	泌尿器系(膀胱、尿道)につい て学んだことを復習しておくこと(60 分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	I は70% (理解度確認テストと総合評価)、II は30% (総合評価)
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
病気がみえる(脳・神経) 尾上 尚志他 メディックメディア PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社		
<b>参考文献</b>		
ネット解剖学アトラス 相磯禎和訳 南江堂		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
演習科目なのでなるべく欠席しないこと		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 理学療法基礎					
科目名		精神医学Ⅱ(理学療法)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						

授業の位置づけ

理学療法・作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。  
 理学療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」と関係する科目である。作業療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」及び「【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」と関係する科目である。両専攻ともに「精神医学Ⅰ」と関連し、作業療法学専攻においては「精神障害作業療法治療学」の基礎となる。

授業の概要

精神医学Ⅰで得た主要精神科疾患の症状などについての知識に加え、それぞれの疾患の病因、心理社会的な困難、治療法についての理解を深める。

到達目標

1. 精神科疾患に関する知識を深め、説明できる。
2. これらの知識を、理学療法士・作業療法士としてリハビリテーションを実践していくときに応用できる。
3. 精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。  
 必要に応じてオンライン授業を実施する。  
 Google Classroomを用いた理解度確認テストを講義時間内に行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

医師、作業療法士、公認心理師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【神経症性障害①】 神経症性障害の概念(ICD-10)とその種類、臨床的特徴について学ぶ。DSM-5-TRの不安症群に分類される全般不安症、パニック症、広場恐怖症、社交不安症、分離不安症、限局性恐怖症など、及び強迫症及び関連症群に分類される強迫症、身体醜形症、ためこみ症、抜毛症、皮膚むしり症などについて学ぶ。	教科書のpp.164～169を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	【神経症性障害②】 DSM-5-TRの心的外傷及びストレス因関連症群に分類される心的外傷後ストレス症、急性ストレス反応、適応反応症、解離症群に分類される解離性同一症、解離性健忘、離人感・現実感消失症、並びに身体症状症及び関連症群に分類される身体症状症、病氣不安症、機能的神経学的症状症(変換症)などについて学ぶ。	教科書のpp.169～175を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	【生理的障害および身体的要因に関連した障害】 身体的要因と関連した精神障害にはどのようなものがあるか理解する。DSM-5-TRの食行動症及び摂食症群に分類される神経性やせ症、回避・制限性食物摂取症、神経性過食症、及び睡眠・覚醒障害群に分類される不眠障害、過眠障害、ナルコレプシー、呼吸関連睡眠障害群、睡眠時随伴症群などについて学ぶ。	教科書のpp.176～180を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	【成人のパーソナリティ・行動・性の障害】 パーソナリティ障害(パーソナリティ症)の概念、代表的なパーソナリティ障害の種類とその特徴について学ぶ。特に臨床場面で問題となるボーダーラインパーソナリティ症を中心に、その病因と病態、治療と援助の基本的な考え方を学ぶ。	教科書のpp.181～187を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第5回	【コンサルテーション・リエゾン精神医学/心身医学】 コンサルテーション・リエゾン精神医学の概念を理解し、精神腫瘍学、臨死状態やターミナルケアにおける精神的問題について学ぶ。また、心身医学の概念と心身症の発現機序、心身症として考えられている多様な疾患、及び心身症の治療の基本について学ぶ。	教科書のpp.207～214を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第6回	【心理的発達の障害／精神遅滞[知的障害]／ライフサイクルにおける精神医学】 心理的発達の障害及び精神遅滞について学ぶ。DSM-5-TRの神経発達症群に分類される知的発達症群、コミュニケーション症群、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症、運動症群について学ぶ。また、ライフサイクルの観点から、小児期・青年期、成人期、初老期、老年期の精神・心理特性について学ぶ。	教科書のpp.188～206、pp.215～230を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	【精神障害の治療とリハビリテーション①】 精神障害に対して用いられている主な治療法の種類と特徴、適応などについて学ぶ。薬物療法に関しては向精神薬の種類と主な薬物の作用、対象とする疾患や副作用、リハビリテーションにおける注意点などについて、精神療法に関しては、技法に基づく種類とその特色、対象疾患、実施にあたっての注意などを学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	【精神障害の治療とリハビリテーション②】 精神療法/心理療法各論その1 認知行動療法の第1世代から第3世代に至る3つの主要な流れを概観し、それらの文化的背景、共通する原則と基本技法、行動変容技法、認知変容技法の概要を学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	【精神障害の治療とリハビリテーション③】 精神療法/心理療法各論その2 芸術療法、特に音楽療法、箱庭療法を取り上げ、音楽療法の基礎となる音楽心理学、箱庭療法の背景にあるユング心理学をふまえてつそれらの概要を学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	【精神障害の治療とリハビリテーション④】 精神療法/心理療法各論その3(ゲスト講師:渡辺明日香) ソマティック心理療法:傾聴とフォーカシング、マインドフルネスについて学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	【精神障害の治療とリハビリテーション⑤】 精神療法/心理療法各論その4(ゲスト講師:渡辺明日香) ソマティック心理療法:センサリーモーター・サイコセラピー(SP), ダンス・ムーブメントセラピーについて学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	【精神科保健医療と福祉, 職業リハビリテーション】 精神保健福祉法と関連法規、精神障害者の職業リハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.254～272を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	【社会・文化とメンタルヘルス①】 学校におけるメンタルヘルス(学校精神保健)、職場のメンタルヘルス(産業精神保健)について学ぶ。	教科書のpp.273～276を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	【社会・文化とメンタルヘルス②】 家庭のメンタルヘルス(家族精神保健)、司法精神医学、社会現象とメンタルヘルスについて学ぶ。	教科書のpp.276～279を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、および修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	修了テストを自己採点し、理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト、修了テスト、レポートの提出状況等。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院		
<b>参考文献</b>		
標準精神医学第8版／尾崎紀夫・三村將・水野雅文・村井俊哉 編集／医学書院 久保隆司・春木豊・日本ソマティック心理学協会:ソマティック心理学への招待―身体と心のリベラルアーツを求めて、コスモス・ライブラリー, 2015		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
精神医学 I の修得を前提とする。		
<b>備考欄</b>		
特記事項なし。		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法概論 I				ナンバリング	3400
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	橋田 浩						
<b>授業の位置づけ</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。</li> <li>初年次教育の一環として、全ての専門基礎科目、専門科目を学習するための心構えを養うための科目である。</li> </ul>							
<b>授業の概要</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法の導入部として、国民の医療・保健・福祉の増進に寄与する理学療法および理学療法士の全体像を理解し、把握できるように、総合的に学習する。理学療法の定義と業務、歴史と理念、理学療法士に関連する法律、専門職としての理学療法士の役割、対象・領域、理学療法の流れ、活躍する現場についても理解する。</li> </ul>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーション理念の発展の歴史と、理学療法・理学療法士の歴史的経緯を説明できる。</li> <li>理学療法の定義、理念、対象と目的を説明できる。</li> <li>理学療法士に関する関係法規、教育制度、職域および職能団体などについて説明できる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションの方法: パワーポイント等の視聴覚教材を用いた講義形式で進める。</li> <li>授業形態: 教科書の内容を中心とした講義形式で進める。</li> <li>アクティブラーニングの内容: 提示した課題に対し、グループで検討したものを発表する。</li> </ul>							
<b>ICT活用</b>							
グーグルフォームのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
病院での理学療法士としての勤務経験を活かし授業を行う							



課題に対するフィードバックの方法			
<p>・授業での確認課題や質問については、次回授業時に回答する。</p>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション :4年間の学ぶことや大学生活について説明する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	理学療法士とは？ 理学療法の定義や技術、歴史について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	理学療法士とは？ 理学療法士に関連する法規について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	専門職としての理学療法士:理学療法の役割について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	専門職としての理学療法:理学療法の対象について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			

第6回	専門職としての理学療法士:理学療法士に求められる臨床思考について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	専門職としての理学療法士:理学療法の実際の流れについて紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	1回目から7回目までに行った授業について確認テストを実施する。	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題提出(50%) 8回目確認テスト(50%)の総合点数で評価する。	
その他	0		
<b>教科書</b>			
理学療法概論テキスト(改訂第4版)南江堂			
<b>参考文献</b>			
なし			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

毎回の授業における授業課題提出、グループ発表や確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法概論Ⅱ				ナンバリング	3401
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	橋田 浩						
<b>授業の位置づけ</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。</li> <li>初年次教育の一環として、全ての専門基礎科目、専門科目を学習するための心構えを養うための科目である。</li> </ul>							
<b>授業の概要</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法概論Ⅰの知識をもとに、さらに理学療法士の職能の理解、理学療法士の教育、理学療法研究、医療や福祉における役割、各種理学療法の手法や理学療法士に必要な管理や運営、業務内容、多職種チーム医療等の重要性について学修する。</li> </ul>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法・理学療法士の職能、教育を説明できる。</li> <li>理学療法研究、医療や福祉における役割、各種理学療法の手法を説明できる。</li> <li>理学療法士にに必要な管理・運営、多職種チーム医療の重要性を説明できる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションの方法: パワーポイント等の視聴覚教材を用いた講義形式で進める。</li> <li>授業形態: 教科書の内容を中心とした講義形式で進める。</li> <li>アクティブラーニングの内容: 提示した課題に対し、グループで検討したものを発表する。</li> </ul>							
<b>ICT活用</b>							
googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参する事。							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
病院での理学療法士としての勤務経験を活かし授業を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
・授業での確認課題や質問については、次回授業時に回答する			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	専門職としての理学療法:理学療法士がどのようなところで活躍しているのかについて紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	専門職としての理学療法:理学療法士の職能について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	理学療法士と教育:理学療法士教育について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	理学療法士と教育:理学療法のフィールドワークについて紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	理学療法士と教育:理学療法研究について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			

第6回	理学療法士に必要な管理や運営について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	グループワークを行う。(詳細については授業時に説明する)	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	グループ別に発表を実施する。	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題提出(50%) 8回目のグループ発表(50%)の総合点数で評価する	
その他	0		
<b>教科書</b>			
理学療法概論テキスト(改訂第4版)南江堂			
<b>参考文献</b>			
なし			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

毎回の授業における授業課題提出、グループ発表や確認テストで成績を評価するので欠席しないこと。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		運動生理学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連のある科目である。この科目は「生理学Ⅰ・Ⅱ」「運動学Ⅰ・Ⅱ」と関連し、「基礎運動療法学」の基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>身体活動・運動」を健康で豊かな生活を送るための不可欠要素としてとらえ、運動と体力向上・健康増進の関連について学ぶ。また、身体活動に伴う人体内の現象をエネルギー代謝系、呼吸・循環器系、骨格系および栄養学との関連に注目しながら理解する。特に、対象者の身体特性に応じて安全で効果的な運動指導を実施するための科学的トレーニング理論を修得する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・有酸素運動と無酸素運動の違いを平易な表現で説明できる。</li> <li>・運動強度の違いがもたらす身体機能の変化やエネルギー代謝系への影響を説明できる。</li> <li>・体力向上や健康増進に有用なトレーニングの実施方法を科学的に理解するための基礎知識を説明できる。</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントと教科書、配布資料を用いて講義形式で進める。毎回の授業後に「理解度確認フォーム」を回答させ、重要語句や授業ポイント、質問・感想などを記載させる。最終回に、「理解度確認テストと課題レポート」により授業全体のまとめを行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料(記入式講義資料および授業内容補足版)をGoogle Classroomで公開し、準備学習と事後学習などの自主学習を支援する。</li> <li>・Google Formのアンケート作成機能を用いて授業後の理解度確認と質問・意見を回答させる。</li> </ul>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
該当なし							



課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、授業の後にGoogle Formを利用して「理解度確認フォーム」を提出させる。後日確認課題の正答と補足説明資料を全員に配布する。また、質問などがあれば次回以降の授業で回答したり、補足資料配布を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	運動生理学の概要と運動の効果(1) ・健康とは ・「やせる」方法 ・ルーの3法則(原則) 運動不足病 運動の生活化 ・「運動生理学」の範囲	教科書p1-7、p67を読んでおくこと。WHOの「健康」の定義を調べておくこと。(20分)	「ルーの3法則」と「やせる」方法の区分についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	大森 圭		
第2回	運動生理学の概要と運動の効果(2) ・安静状態、身体活動、運動、スポーツ、生活活動 ・健康関連体力と運動技能関連体力 ・ヘルスプロモーションの考え方 ・女性アスリートの三主徴	教科書p1-7、p67-70を読んでおくこと。(20分)	「健康関連体力」の内容をまとめること。(25分)
担当教員	大森 圭		
第3回	エネルギー理論の基礎知識 ・エネルギーの循環・エネルギー保存の法則 ・カロリーの定義・ATPの構造と役割 ・ATP生産システム・有酸素運動と無酸素運動	教科書p8-12を読んでおくこと。食品パッケージ記載の栄養成分表の内容を数点確かめておくこと。(20分)	1カロリー[cal]の定義を暗記し、加工食品中の栄養成分とカロリー数の関係を復習すること。(25分)
担当教員	大森 圭		
第4回	エネルギー供給システム ・ATP-PCr系・乳酸系・有酸素系 ・無酸素系エネルギー生産(非乳酸性、乳酸性) ・有酸素系エネルギー生産 ・スポーツドーピングと健康管理	教科書p8-12、p152-159を読んでおくこと。ATP生産システムを説明できるようにすること。(20分)	エネルギー連続体の概念による3種類のエネルギー供給システム利用割合を運動継続時間で説明できるようにすること。(25分)
担当教員	大森 圭		
第5回	運動強度と主要エネルギー源 ・AT (Anaerobic Threshold:無酸素性作業閾値) ・運動強度とエネルギー源栄養素 呼吸商(RQ)	教科書p14-17を読んでおくこと。(20分)	運動時の糖質の重要性を確認しておくこと。(25分)
担当教員	大森 圭		

第6回	エネルギー代謝量 ・基礎代謝量と安静時代謝量 ・身体活動レベルと推定エネルギー必要量 ・Activity factor (Af)	教科書p12-24を読んでおくこと。 1カロリーの定義、アトウォーター係数について復習しまとめておくこと。(20分)	メッツを使って、自分や家族・知人が大学から恵庭駅まで歩いた際のエネルギー消費量を試算すること。(25分)
担当教員	大森 圭		
第7回	運動強度と酸素動態(1) ・メッツ メッツ・時 (Ex:エクササイズ) ・メッツによるエネルギー消費量推定 ・%最大酸素摂取量(V02max) ・酸素需要、酸素負債 ・RMR	基礎代謝量 安静時代謝量 運動時代謝量 身体活動レベルの定義を確認しておくこと。教科書p35-37を読んでおくこと。(20分)	メッツ・時を使って、自分や家族・知人の1週間の「運動によるエネルギー消費量」を推定してみること。(25分)
担当教員	大森 圭		
第8回	運動強度と酸素動態(2) ・%HRmax ・%HRR ・Hb酸素解離曲線 ・乳酸蓄積と分解能力(トレーニングへの応用) ・自覚的運動強度(RPE)	教科書p25-37を読んでおくこと。(20分)	自分自身や家族・知人の運動強度50%、60%のときの心拍数を算出してみること。(25分)
担当教員	大森 圭		
第9回	トレーニング理論の基礎(1) ・トレーニングの原則 ・運動処方内容 (FITTの原則) ・ウォーミングアップとクーリングダウン	教科書p1-7、p74-76、p95-99を読んでおくこと。(20分)	トレーニングの原則の内容をまとめておくこと。整理運動(クーリングダウン)の必要性を説明できるようにすること。(25分)
担当教員	大森 圭		
第10回	トレーニング理論の基礎(2) ・スポーツ貧血への対応 ・健康づくりのための運動基準と運動指針(アクティブガイド) ・健康運動指導士	教科書p18-20、p67-73、p95-99、p108-110、p163-195を読んでおくこと。(20分)	「アクティブガイド」の概要を把握しておくこと。(25分)
担当教員	大森 圭		

第11回	健康づくりのための運動プログラム ・健康づくりのための身体活動基準2013 ・ポピュレーションアプローチ	教科書p67-73、p85-110、p163-195を読んでおくこと。(20分)	「健康づくりのための身体活動基準2013」の概要を把握しておくこと(25分)
担当教員	大森 圭		
第12回	身体特性に応じた運動指導プログラム(1) ・ハイリスクアプローチ ・メタボリックシンドローム ・糖尿病・高血圧症・脂質代謝異常症	教科書p96-99、110-114を読んでおくこと。糖尿病の治療・生活習慣改善方法についてまとめておくこと。(20分)	糖尿病療法士、健康運動指導士などの活動についても情報を得ておくこと。(25分)
担当教員	大森 圭		
第13回	身体特性に応じた運動指導プログラム(2) ・介護予防とリハビリテーション ・アダプテッドスポーツ	教科書p117-130を読んでおくこと。(20分)	障がい者スポーツを取り巻く環境について情報を集めておくこと(25分)
担当教員	大森 圭		
第14回	地域特性に応じた運動指導 ・地域差、季節差、自然を生かした運動 ・災害被災地における運動指導	教科書p196-212を読んでおくこと。(20分)	近年の災害被災地域(地震、水害、雪害など)の運動不足に伴う健康問題について情報を集めておくこと(25分)
担当教員	大森 圭		
第15回	これからの健康づくり ・生涯スポーツと地域支援 ・健康生活サポート  「理解度確認と課題レポート」	教科書p213-217を読んでおくこと。(20分)	専門職としての健康サポートのあり方を考えてみること。(25分)
担当教員	大森 圭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各講義後に提出する「理解度確認フォーム」の評価(50%)および15回目に実施する「理解度確認と課題レポート」(50%)による評価
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
新版 生涯スポーツと運動の科学／上杉尹宏・晴山紫恵子・川初清典監修、佐美靖・花井篤子編集／市村出版		
<b>参考文献</b>		
ウェルビクス運動のすすめ－健康づくりと自立維持を目指す運動の実践のために－／竹島伸生編著／ナッパ		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
電卓(計算機)を使用することがある。		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		病態運動学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーのうち、                      「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」                      「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」                      「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」                      に関連する科目です。                      理学療法専門科目の基礎理学療学分野の科目の1つです。                      「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学実習」と関連し、「日常生活活動学」、「日常生活活動学実習」、「運動器障害理学療法学」、「神経障害理学療法学」などの基礎となる。また、「臨床実習」を理解するための基礎ともなります。</p>							
授業の概要							
<p>運動機能障害を有する病的状態における運動や動作の特徴について知り、臨床上的の問題点について理解を深める。</p>							
到達目標							
<p>正常な状態における運動や動作を適切な用語で表現できる。                      病的な状態における運動や動作を適切な用語で表現できる。                      正常な動作と病的な動作の違いを適切な用語で記述できる。</p>							
授業の方法							
<p>パワーポイントと配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。                      予習、復習の確認のため、確認テストを各授業の最初と最後に実施する。また、第8回目に「まとめの課題」を行う。                      「まとめの課題」後に「正常な動作と病的な動作の違い」のグループワーク課題を行い、各自提出する。                      教科書に付属するweb動画を応用する。</p>							
ICT活用							
<p>スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>科目担当者は、病院施設での実務経験を有している。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
確認テストの実施後には、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 講義の進め方、成績評価の方法について 病態運動学の領域について学ぶ 観察による姿勢・動作分析の手順について 正常動作①	教科書pp15-55を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	正常動作② 寝返り起き上がり動作から歩行までの基本動作について、 多くのヒトがとる動作パターンについて観察の手順について学ぶ。	教科書pp15-55を事前に読んでおくこと(90分)	正常動作について、復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	異常動作 歩行を中心に異常動作のチェックポイントを学ぶ。	教科書pp71-88を事前に読んでおくこと(90分)	異常動作について、復習しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	脳卒中片麻痺の姿勢・動作・歩行分析① 脳卒中片麻痺の病態について学ぶ。 中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について学ぶ。	教科書pp150-226を事前に読んでおくこと、特に前半部分を 読んでおくこと(90分)	中枢神経系の問題による異常 姿勢・動作について復習をして おくこと(90分)
担当教員			
第5回	脳卒中片麻痺の姿勢・動作・歩行分析② 中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について学ぶ。	教科書pp150-226を事前に読んでおくこと、特に後半部分を 読んでおくこと(90分)	中枢神経系の問題による異常 姿勢・動作について、復習をして おくこと(90分)
担当教員			

第6回	運動器障害の病態と姿勢・動作・歩行分析 ① 変形性股関節症の基本的姿勢と動作のチェックポイントについて学ぶ。	教科書pp71-88を事前に読んでおくこと(90分)	変形性股関節症の基本的姿勢と動作について復習をしておくこと(90分)
担当教員			
第7回	運動器障害の病態と姿勢・動作・歩行分析 ② 変形性膝関節症の基本的姿勢と動作のチェックポイントについて学ぶ。	教科書pp89-105を事前に読んでおくこと(90分)	変形性膝関節症の基本的姿勢と動作について、復習をしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	高齢者の姿勢・動作・歩行分析 高齢者の基本的姿勢と動作のチェックポイントについて大腿骨頸部骨折と変形性腰椎症を中心に学ぶ。 病態運動学の「まとめの課題」 課題後に、グループワークを行い自分の考えをまとめて提出。	教科書pp129-149を事前に読んでおくこと 1回目から7回目までの講義内容について理解しておくこと(90分)	高齢者の基本的姿勢と動作について、復習をしておくこと(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題、および「まとめの課題」とグループワーク課題の提出と参加態度を総合的に評価する。
その他	0	なし

教科書

「姿勢・動作・歩行分析 第2版」臨床歩行分析研究会・畠中泰彦 羊土社

参考文献

臨床運動学 第3版 中村隆一他 医歯薬出版  
運動療法学総論 第3版 吉尾雅春(編) 医学書院  
神経解剖カラーテキスト 第2版 野村巖(訳) 医学書院  
神経局在診断 第5版 花北順哉(訳) 文光堂  
運動器疾患の評価 D. I Magee 医歯薬出版

履修条件・留意事項等

主体的かつ積極的な授業態度が望まれる。2年生で学んだ疾患の病態について、歩行を中心として授業を行います。3年生に向けて、知識をまとめ直す機会にしてください。

備考欄



2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		基礎解剖学実習(1組)				ナンバリング	3408
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	池野 秀則、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある。「理学療法を行うための基本的知識・技術を身に付けている」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会的変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる」ことにも関係がある。

「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」と関連し、「応用解剖学実習」の基礎となる。

授業の概要

1年次前期に学んだ人体の構造について人体模型およびご遺体を通して理解を深める。特に、骨の構造と筋の起始・停止、支配神経および神経叢について学び、運動器の構造について解剖学的知識を身に付ける。

到達目標

- 1.骨の部位の名称をその形態に応じて分類することができる。
- 2.骨格筋の起始・停止及び支配神経を説明できる。
- 3.腕神経叢及び腰仙神経叢から出る神経を部位により分類し、それらが支配する筋の働きを説明できる。

授業の方法

骨学(関節と靭帯含む)においては、教科書と配布印刷物及び骨格標本を活用しながら実習形式ですすめる。  
筋学においては、教科書と配布印刷物及び動画教材を活用しながら実習形式ですすめる。  
札幌医科大学での解剖遺体見学実習を通して人体のしくみを立体的に学習する。  
理解度確認テストを次回の授業の初めに実施する。  
フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う(毎回)。

ICT活用

Webアプリのvisible body 等、必要に応じてを活用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。  
松田はリハビリテーション病院・脳神経外科病院にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度確認テスト回収後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	骨学オリエンテーション。脊柱、個々の椎骨、胸郭、上肢帯の形態について学ぶ。特に脊柱については弯曲のしかた、個々の椎骨についてはその特徴、胸郭及び上肢帯については骨連結について理解する。(池野)	教科書1のp146～p156を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第2回	自由上肢骨、下肢帯骨、骨盤の形態について学ぶ。特に自由上肢帯については左右の違い、下肢帯骨については寛骨の構成、骨盤については形態における男女差について理解する。(池野)	教科書1のp157～p166を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第3回	自由下肢骨、頭蓋、関節と靭帯について学ぶ。特に自由下肢骨については左右の違い、頭蓋についてはその構成、関節と靭帯については関節の一般構造と靭帯の種類について理解する。(池野)	教科書1のp166～p172、p139～p145、p30～p57を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第4回	骨学のまとめ(口頭試問)。1回～3回の授業内容についてその理解度を確認する。(池野)	1回～3回の授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目について復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第5回	筋学オリエンテーション。上肢の筋。特に肘関節、肩関節、脊柱周囲の筋について学ぶ。(池野)	教科書1のp261～p266を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		

第6回	上肢、体幹、頸部の筋。上肢では特に手関節・手指筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp241～p260、p286～p292を読んでおくこと。 (30分)	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第7回	下肢の筋。特に膝関節、股関節周囲の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp293～p304を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第8回	下肢の筋。特に下腿、足関節の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp305～p320を読んでおくこと。	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	松田 直樹		
第9回	総論(骨と関節・筋系)。骨、骨格筋の構造について学ぶ。 (松田)	教科書1のp30～p58を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第10回	筋学のまとめ(口頭試問)5回～9回までの授業内容についてその理解度を確認する。 札幌医大解剖学見学実習オリエンテーション (松田)	5回～9回までの授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目を復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		

第11回	札幌医大解剖学見学実習① ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。①では特に浅層筋の見学を中心に見学する。(池野)	浅層筋についての図譜をよく見 ておくこと	見学したご遺体の考察を書いて おくこと
担当教員	池野 秀則		
第12回	札幌医大解剖学見学実習② ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。②では特に深層筋の見学を中心に学習する。(松田)	深層筋についての図譜をよく見 ておくこと	学したご遺体の考察を書いてお くこと
担当教員	松田 直樹		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト10% 口頭試問(骨学・筋学)各10% 筆記試験70%	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂			
<b>参考文献</b>			
運動学 小島悟 中山書店 運動学 第2版 山崎敦 羊土社			
<b>履修条件・留意事項等</b>			
実習科目なので原則として欠席の場合は単位取得できない。			
<b>備考欄</b>			

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		基礎解剖学実習(2組)				ナンバリング	3408
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	池野 秀則、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある。「理学療法を行うための基本的知識・技術を身に付けている」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会的変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる」ことにも関係がある。「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」と関連し、「応用解剖学実習」の基礎となる。初年次教育の一環として、理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。

授業の概要

1年次前期に学んだ人体の構造について人体模型およびご遺体を通して理解を深める。特に、骨の構造と筋の起始・停止、支配神経および神経叢について学び、運動器の構造について解剖学的知識を身に付ける。

到達目標

- 1.骨の部位の名称をその形態に応じて分類することができる。
- 2.骨格筋の起始・停止及び支配神経を説明できる。
- 3.腕神経叢及び腰仙神経叢から出る神経を部位により分類し、それらが支配する筋の働きを説明できる。

授業の方法

骨学(関節と靭帯含む)においては、教科書と配布印刷物及び骨格標本を活用しながら実習形式ですすめる。筋学においては、教科書と配布印刷物及び動画教材を活用しながら実習形式ですすめる。札幌医科大学での解剖遺体見学実習を通して人体のしくみを立体的に学習する。理解度確認テストを次回の授業の初めに実施する。フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う(毎回)。

ICT活用

Webアプリのvisible body 等、必要に応じてを活用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。松田はリハビリテーション病院・脳神経外科病院にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして理解度確認テスト回収後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	骨学オリエンテーション。脊柱、個々の椎骨、胸郭、上肢帯の形態について学ぶ。特に脊柱については弯曲のしかた、個々の椎骨についてはその特徴、胸郭及び上肢帯については骨連結について理解する。(池野)	教科書1のp146～p156を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第2回	自由上肢骨、下肢帯骨、骨盤の形態について学ぶ。特に自由上肢帯については左右の違い、下肢帯骨については寛骨の構成、骨盤については形態における男女差について理解する。(池野)	教科書1のp157～p166を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第3回	自由下肢骨、頭蓋、関節と靭帯について学ぶ。特に自由下肢骨については左右の違い、頭蓋についてはその構成、関節と靭帯については関節の一般構造と靭帯の種類について理解する。(池野)	教科書1のp166～p172、p139～p145、p30～p57を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第4回	骨学のまとめ(口頭試問)。1回～3回の授業内容についてその理解度を確認する。(池野)	1回～3回の授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目について復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第5回	筋学オリエンテーション。上肢の筋。特に肘関節、肩関節、脊柱周囲の筋について学ぶ。(池野)	教科書1のp261～p266を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		

第6回	上肢、体幹、頸部の筋。上肢では特に手関節・手指筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp241～p260、p286～p292を読んでおくこと。 (30分)	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第7回	下肢の筋。特に膝関節、股関節周囲の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp293～p304を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第8回	下肢の筋。特に下腿、足関節の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp305～p320を読んでおくこと。	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	松田 直樹		
第9回	総論(骨と関節・筋系)。骨、骨格筋の構造について学ぶ。 (松田)	教科書1のp30～p58を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第10回	筋学のまとめ(口頭試問)5回～9回までの授業内容についてその理解度を確認する。 札幌医大解剖学見学実習オリエンテーション (松田)	5回～9回までの授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目を復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		

第11回	札幌医大解剖学見学実習① ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。①では特に浅層筋の見学を中心に見学する。(池野)	浅層筋についての図譜をよく見 ておくこと	見学したご遺体の考察を書いて おくこと
------	--	-------------------------	------------------------

担当教員	池野 秀則		
------	-------	--	--

第12回	札幌医大解剖学見学実習② ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。②では特に深層筋の見学を中心に学習する。(松田)	深層筋についての図譜をよく見 ておくこと	学したご遺体の考察を書いてお くこと
------	--	-------------------------	-----------------------

担当教員	松田 直樹		
------	-------	--	--

**成績評価の方法**

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト10% 口頭試問(骨学・筋学)各10% 筆記試験70%
その他	0	なし

**教科書**

PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店  
イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社  
ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂

**参考文献**

運動学 小島悟 中山書店 運動学 第2版 山崎敦 羊土社

**履修条件・留意事項等**

実習科目なので原則として欠席の場合は単位取得できない。

**備考欄**



2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学 I				ナンバリング	3442
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、柴田 恵理子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。</p> <p>理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を修得する。</p> <p>理学療法士としての専門性を高める専門科目として「理学療法評価学Ⅱ」、「理学療法評価学実習Ⅰ、Ⅱ」と関連し、「臨床実習」の基礎となる重要な科目で、理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につける。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>理学療法を実施する上で展開される一連の過程について、国際障害分類 (International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps: ICIDH)および国際生活機能分類(International Classification of Functioning:ICF)との関連を含めて理解し、理学療法評価の目的と意義について総論的に学習する。その後、各論として医療情報収集、問診、また理学療法評価基本技術のうち主として筋骨格系を対象とした項目について理論と概要を理解し、各項目に必要な基礎知識および検査の実際と留意点について学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法評価の概念・意義および目的を理解できる。</li> <li>2. 身体評価(physical assessment)全般の基本原則を理解できる。</li> <li>3. 評価に必要な検査・測定の意義と正しい方法を理解できる。</li> <li>4. 疾患を持つ患者の全体像を全人的な視点で捉えることの必要性を理解できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>パワーポイントと配布資料物を用いて講義形式ですすめる。</p> <p>理解度を確保するため小テストを実施する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。</p> <p>必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>佐藤、柴田は理学療法士として、これまでの臨床・研究経験を基に授業を展開する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
授業内容や小テスト課題に対し、その都度、解説や補足説明を実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	理学療法評価総論 理学療法評価の概念について学習する。	教科書1の「総論、第1章 一般的評価事項」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	理学療法評価総論 情報収集、医療面接について学習する。	教科書1の「総論、各論第1章 一般的評価事項」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	検査・測定 関節可動域の概論と特徴について学習する。	教科書1の「各論第4章 関節可動域測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	検査・測定 関節可動域測定(上肢・下肢)について学習する。	教科書1の「各論第4章 関節可動域測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	検査・測定 バイタルチェックについて学習する。	教科書1の「各論第2章 バイタルサイン」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		

第6回	検査・測定 形態計測について学習する。	教科書1の「各論第3章 形態測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
第7回	検査・測定 筋力の概論と特徴について学習する。 筋力(上肢・下肢・体幹)について学習する。	教科書1の「各論第5章 筋力検査」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	まとめと試験 理学療法評価のまとめと復習を含めた試験を行う。	これまで学んだことに対し、内容を深めるため復習すること 必要時間:90分	講義内容の復習をし理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと試験(90%) 授業内の課題、小テスト、授業への参加態度等(10%)	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
1.理学療法評価学:松澤正他/金原出版 2.新・徒手筋力検査法:Hislop, Montgomery他/協同医書出版			
<b>参考文献</b>			
1.ベッドサイドの神経の診かた:田崎義昭他/南山堂 2.図解理学療法検査・測定ガイド:奈良勲他/文光堂			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

復習のための小テストを行う。

**備考欄**

なし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻											
区分								専門科目 理学療法評価学											
科目名								理学療法評価学Ⅱ								ナンバリング			
配当年度		2年		開講学期		2024年度前期		区分		講義		単位		1					
担当教員		柴田 恵理子、松田 直樹																	
<b>授業の位置づけ</b> ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。 多岐にわたる理学療法評価のなかから、主に神経症候学的検査及び姿勢・動作評価に関連する項目を扱うものである。 本科目は、「解剖学」「生理学」など多くの専門基礎科目全般と関連し、「理学療法評価学実習Ⅱ」、「神経障害理学療法学」などの基礎となる。																			
<b>授業の概要</b> 理学療法評価学Iで学習した内容を基本とし、理学療法評価基本技術のうち主として中枢神経系、日常生活活動を対象とした項目について理論と概要を理解し、各項目に必要な基礎知識および検査の実際と留意点について学習する。また、理学療法の対象となる代表的疾患について、検査・測定のポイントを学習する。その後、検査・測定で収集したデータの解釈の仕方について学習し、理学療法評価の基本的思考過程について理解する。																			
<b>到達目標</b> 1. 理学療法評価の概念・意義および目的を理解できる 2. 理学療法評価の基本原則を理解できる 3. 評価に必要な検査・測定の目的と方法を理解できる 4. 評価技術の基盤となる理論的背景が理解できる																			
<b>授業の方法</b> 教科書、スライド、配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。 本講義内容を理解するためには、その基礎となる解剖学・生理学・運動学的知識が必要である。これらの理解を促すため、毎講義ごとに理解度確認の課題を行う。 学生は十分に予習をして講義に望むことが望ましい。																			
<b>ICT活用</b> 予習課題の達成度確認のため、学生と教員相互にウェブ上でのデータ整理を活用する。 必要に応じてオンライン・オンデマンド等の対応を検討する。																			
<b>実務経験のある教員の教育内容</b> 科目担当(柴田・松田)はいずれも理学療法士として勤務した経験を活かして授業を行う。																			

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして確認課題を回収後、課題の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	理学療法評価について:評価の意義、目的を学ぶ。本講義に必要な神経解剖学・神経生理学的知識を概説する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分) 「総論」p13-25、「一般的評価事項」p27-38	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	脳神経検査:脳神経障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	知覚検査:知覚とその障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	反射・筋緊張検査:それぞれの障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第5回	協調性検査:協調性障害を理解し、その検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		

第6回	バランス・姿勢反射検査:それぞれの障害を理解し、その検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	片麻痺機能検査, 高次脳機能検査:これらの検査について理解し、その検査方法を学ぶ。片麻痺機能検査についての歴史的背景と変遷について学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	これまでの授業内容の理解度確認のため、まとめテストを行う。	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	テスト内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめテスト(70%)、確認課題・授業参加態度(30%)	
その他	0		
<b>教科書</b>			
理学療法評価学, 松澤正, 江口勝彦(著), 金原出版 神経診察クローズアップ, 鈴木則宏(編), MEDICALVIEW			
<b>参考文献</b>			
神経症候学, 改訂第2版, 平山恵三(著), 文光堂 神経局在診断, 第6版, Peter Duus(著), 花北順哉(訳), 文光堂			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

基礎的な解剖生理学的な用語については、皆さんがある程度理解しているものとして授業を進めることがあります。教科書の予習部位は事前にお伝えしますので、十分に準備してから授業に臨んでください。

備考欄



2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習 I (1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、水本 淳、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。  
 理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を習得する科目である。  
 なかでも、形態計測、関節可動域、筋力検査は理学療法士が行う重要な評価項目であり、「臨床実習」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につける。

授業の概要

解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、理学療法評価のうち形態計測、関節可動域検査、徒手筋力検査等についての詳細を学ぶ。各検査の意義および目的、検査方法を理解するとともに理学療法評価の臨床推論過程を学び、系統的理解と他評価との統合解釈ができる基礎的能力を養うことを目的とする。

到達目標

1. 障害特徴に合わせた身体構造・機能の基礎を理解できる。
2. 各評価内容を模擬患者役に適切に説明できる。
3. 各評価の目的と方法を正しく理解し、施行することができる。
4. 評価した結果を正しく記載し、その意義を理解することができる。

授業の方法

教員が評価の理論的背景について解説し、デモンストレーションを行う。  
 その後学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。  
 録画を用いて、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査の正確性・信頼性の向上に努める。

ICT活用

Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。  
 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、水本、松田は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
授業中の課題に対して、その都度、解説や補足説明を実施する。 毎回の授業の課題を録画し、自ら復習できる環境を提供する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション 形態測定 四肢長と肢節長、および四肢周径の評価方法を学び、実践する。	教科書の形態測定を読んでおくこと。 必要時間:25分	形態測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	関節可動域測定(肩、肘、手、手指関節) 肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	肩、肘、手、手指関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定 of 教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定 of 復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	関節可動域測定(股、膝、足、足趾関節) 股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	股、膝、足、足趾関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定 of 教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定 of 復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	関節可動域測定(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定 of 教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定 of 復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	徒手筋力検査(肩、肘関節) 肩、肘関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	肩、肘関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査 of 教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘関節の徒手筋力検査 of 復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		

第6回	徒手筋力検査(手関節、手指) 手関節、手指の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	手関節、手指の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	手関節、手指の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第7回	徒手筋力検査(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第8回	徒手筋力検査(股、膝関節) 股、膝関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	股、膝関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	徒手筋力検査(足関節、足趾) 足関節、足趾の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	足関節、足趾の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	足関節、足趾の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第10回	徒手筋力検査(脳神経支配筋) 脳神経支配筋の徒手筋力検査の方法を学び、実践する。	脳神経支配筋の解剖学、生理学および運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	脳神経支配筋の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		

第11回	まとめと実技試1 形態計測と関節可動域測定の方法と実践の確認をする。	形態計測と関節可動域測定の方法と実践の確認をする。 必要時間:25分	形態計測と関節可動域測定の方法と実践の確認をする。 必要事項:20分
担当教員	水本 淳		
第12回	まとめと実技試験2 徒手筋力検査の方法と実践の確認をする。	徒手筋力検査の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	徒手筋力検査の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと実技試験で基本的な専門的知識・技術を身につけていると考えられるレベルを合格とする。実習内の課題や参加態度等も考慮する。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
理学療法評価学:松澤正他/金原出版 新・徒手筋力検査法:Hislop他/協同医書出版			
<b>参考文献</b>			
理学療法評価学テキスト:細田多穂他/南江堂 臨床ROM:隈元庸夫他/ヒューマン・プレス			
<b>履修条件・留意事項等</b>			
本科目は、臨床実習の履修要件の1つとなる。 実技の際にはTシャツと短パン、必要器具(角度計、メジャー)を準備すること。			
<b>備考欄</b>			
なし			

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習 I (2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、水本 淳、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。  
 理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を習得する科目である。  
 なかでも、形態計測、関節可動域、筋力検査は理学療法士が行う重要な評価項目であり、「臨床実習」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につける。

授業の概要

解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、理学療法評価のうち形態計測、関節可動域検査、徒手筋力検査等についての詳細を学ぶ。各検査の意義および目的、検査方法を理解するとともに理学療法評価の臨床推論過程を学び、系統的理解と他評価との統合解釈ができる基礎的能力を養うことを目的とする。

到達目標

1. 障害特徴に合わせた身体構造・機能の基礎を理解できる。
2. 各評価内容を模擬患者役に適切に説明できる。
3. 各評価の目的と方法を正しく理解し、施行することができる。
4. 評価した結果を正しく記載し、その意義を理解することができる。

授業の方法

教員が評価の理論的背景について解説し、デモンストレーションを行う。  
 その後学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。  
 録画を用い、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査の正確性・信頼性の向上に努める。

ICT活用

Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。  
 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、水本、松田は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
授業中の課題に対して、その都度、解説や補足説明を実施する。 毎回の授業の課題を録画し、自ら復習できる環境を提供する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション 形態測定 四肢長と肢節長、および四肢周径の評価方法を学び、実践する。	教科書の形態測定を読んでおくこと。 必要時間:25分	形態測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	関節可動域測定(肩、肘、手、手指関節) 肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	肩、肘、手、手指関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定 of 教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定 of 復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	関節可動域測定(股、膝、足、足趾関節) 股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	股、膝、足、足趾関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定 of 教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定 of 復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	関節可動域測定(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定 of 教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定 of 復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	徒手筋力検査(肩、肘関節) 肩、肘関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	肩、肘関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査 of 教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘関節の徒手筋力検査 of 復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		

第6回	徒手筋力検査(手関節、手指) 手関節、手指の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	手関節、手指の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	手関節、手指の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第7回	徒手筋力検査(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第8回	徒手筋力検査(股、膝関節) 股、膝関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	股、膝関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	徒手筋力検査(足関節、足趾) 足関節、足趾の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	足関節、足趾の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	足関節、足趾の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第10回	徒手筋力検査(脳神経支配筋) 脳神経支配筋の徒手筋力検査の方法を学び、実践する。	脳神経支配筋の解剖学、生理学および運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	脳神経支配筋の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		

第11回	脳神経支配筋の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分	形態計測と関節可動域測定 の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	形態計測と関節可動域測定 の目的や方法を復習し、練習する。 必要事項:20分
担当教員	水本 淳		
第12回	形態計測と関節可動域測定 の目的や方法を復習し、練習する。 必要事項:20分	徒手筋力検査の目的や方法を 復習し、練習する。 必要時間:25分	徒手筋力検査の目的や方法を 復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと実技試験で基本的な専門的知識・技術を身につけていると考えられるレベルを合格とする。実習内の課題や参加態度等も考慮する。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
理学療法評価学:松澤正他/金原出版 新・徒手筋力検査法:Hislop他/協同医書出版			
<b>参考文献</b>			
理学療法評価学テキスト:細田多穂他/南江堂 臨床ROM:隈元庸夫他/ヒューマン・プレス			
<b>履修条件・留意事項等</b>			
本科目は、臨床実習の履修要件の1つとなる。 実技の際にはTシャツと短パン、必要器具(角度計、メジャー)を準備すること。			
<b>備考欄</b>			
なし			



2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習Ⅱ(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、柴田 恵理子、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。  
 理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を習得する科目である。  
 なかでも、評価学実習Ⅱで実施する評価は理学療法士が行う一般的な評価項目であり、「臨床実習」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につける。

授業の概要

理学療法の評価に際して、基本となる神経系の障害、運動機能の障害に対する評価が必要である。反射検査、姿勢反射検査、感覚検査、片麻痺運動機能検査、日常生活動作検査などの実習を行う。  
 実習では学生間で理学療法士役と模擬患者役となり学習する。

到達目標

1. 障害特徴に合わせた身体構造・機能の基礎を説明できる。
2. 各評価内容を模擬患者役に適切に説明できる。
3. 各評価の目的と方法を正しく理解し、施行することができる。
4. 評価した結果の意義を理解し、その結果を正しく記載することができる。

授業の方法

教員が評価の理論的背景について解説し、デモンストレーションを行う。  
 その後学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。  
 録画を用いて、各検査の正確性・信頼性に務める。

ICT活用

Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。  
 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、柴田、松田は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
授業中の課題に対して、その都度、解説や補足説明を実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定 学生同士で検者・被検者となり、血圧・呼吸・脈拍などのバイタルサインを測定、観察する	教科書のバイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	脳神経検査、高次脳機能障害検査 学生同士で検者・被検者となり、脳神経検査、各種高次脳機能障害の検査を実施する	教科書の脳神経検査、高次脳機能障害検査の関連項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	脳神経検査、高次脳機能障害検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		
第3回	感覚検査: 表在感覚、深部感覚、複合感覚 学生同士で検者・被検者となり、検査器具を用いて感覚検査を実施する	教科書の感覚検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	感覚検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	反射検査: 腱反射、表在反射、病的反射 学生同士で検者・被検者となり、反射検査を実施し、反応を観察する	教科書の反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	反射検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		
第5回	姿勢反射検査: 座位での傾斜反応など 学生同士で検者・被検者となり、姿勢反射検査を実施し、反応を観察する	教科書の姿勢反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	姿勢反射検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		

第6回	協調性検査:測定障害の検査、変換運動障害の検査、ロンベルグ試験等 学生同士で検者・被検者となり、協調性検査を実施する	教科書の協調性検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	協調性検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
第7回	筋緊張検査:安静時および動作時筋緊張の評価等 学生同士で検者・被検者となり、安静時と動作時の筋緊張の程度やその違いについて観察する	教科書の筋緊張検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	筋緊張検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	片麻痺機能検査:上肢・手指 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上肢・手指)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	片麻痺機能検査:下肢 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上肢・手指)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第10回	日常生活活動(ADL)検査と動作分析、介助方法 学生同士で検者・被検者となり、ADL検査及び動作分析、起居動作～移乗介助方法等を実施する	教科書のADL検査、動作分析、介助方法の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	ADL検査、動作分析、介助方法の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		

第11回	ケーススタディ 患者例を提示し、評価項目の立案・模擬患者へのオリエンテーション・評価の実施・結果の記載についてグループで討議を行った後、発表する	これまでに学習した実習項目を整理し、復習しておくこと。 必要時間:25分	グループ討議、発表の内容を整理し、復習しておくこと。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	まとめ(実技試験) 臨床で患者を評価することを想定し、オリエンテーション・各評価の実施・結果の記載までを連続して実施する	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめ(実技試験)で、基本的な専門的知識・技術を身につけていると考えられるレベルを合格とする。実習内の課題や参加態度等も考慮する。
その他	0	なし

教科書

理学療法評価学:松澤正他/南江堂  
神経診療クローズアップ:鈴木則宏/MEDICAL VIEW

参考文献

ベッドサイドの神経の診かた:田崎義昭他/南山堂

履修条件・留意事項等

実技の際にはTシャツと短パン、必要器具を準備すること。

備考欄

なし

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻						
区分	専門科目 理学療法評価学						
科目名	理学療法評価学実習Ⅱ(2組)					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、柴田 恵理子、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。  
 理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を習得する科目である。  
 なかでも、評価学実習Ⅱで実施する評価は理学療法士が行う一般的な評価項目であり、「臨床実習」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につける。

授業の概要

理学療法の評価に際して、基本となる神経系の障害、運動機能の障害に対する評価が必要である。反射検査、姿勢反射検査、感覚検査、片麻痺運動機能検査、日常生活動作検査などの実習を行う。  
 実習では学生間で理学療法士役と模擬患者役となり学習する。

到達目標

1. 障害特徴に合わせた身体構造・機能の基礎を説明できる。
2. 各評価内容を模擬患者役に適切に説明できる。
3. 各評価の目的と方法を正しく理解し、施行することができる。
4. 評価した結果の意義を理解し、その結果を正しく記載することができる。

授業の方法

教員が評価の理論的背景について解説し、デモンストレーションを行う。  
 その後学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。  
 録画を用いて、各検査の正確性・信頼性に務める。

ICT活用

Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。  
 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、柴田、松田は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
授業中の課題に対して、その都度、解説や補足説明を実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定 学生同士で検者・被検者となり、血圧・呼吸・脈拍などのバイタルサインを測定、観察する	教科書のバイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	脳神経検査、高次脳機能障害検査 学生同士で検者・被検者となり、脳神経検査、各種高次脳機能障害の検査を実施する	教科書の脳神経検査、高次脳機能障害検査の関連項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	脳神経検査、高次脳機能障害検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		
第3回	感覚検査: 表在感覚、深部感覚、複合感覚 学生同士で検者・被検者となり、検査器具を用いて感覚検査を実施する	教科書の感覚検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	感覚検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	反射検査: 腱反射、表在反射、病的反射 学生同士で検者・被検者となり、反射検査を実施し、反応を観察する	教科書の反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	反射検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		
第5回	姿勢反射検査: 座位での傾斜反応など 学生同士で検者・被検者となり、姿勢反射検査を実施し、反応を観察する	教科書の姿勢反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	姿勢反射検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		

第6回	協調性検査:測定障害の検査、変換運動障害の検査、ロンベルグ試験等 学生同士で検者・被検者となり、協調性検査を実施する	教科書の協調性検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	協調性検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
第7回	筋緊張検査:安静時および動作時筋緊張の評価等 学生同士で検者・被検者となり、安静時と動作時の筋緊張の程度やその違いについて観察する	教科書の筋緊張検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	筋緊張検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	片麻痺機能検査:上肢・手指 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上肢・手指)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	片麻痺機能検査:下肢 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(下肢)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(下肢)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第10回	日常生活活動(ADL)検査と動作分析、介助方法 学生同士で検者・被検者となり、ADL検査及び動作分析、起居動作～移乗介助方法等を実施する	教科書のADL検査、動作分析、介助方法の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	ADL検査、動作分析、介助方法の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		

第11回	ケーススタディ 患者例を提示し、評価項目の立案・模擬患者へのオリエンテーション・評価の実施・結果の記載についてグループで討議を行った後、発表する	これまでに学習した実習項目を整理し、復習しておくこと。 必要時間:25分	グループ討議、発表の内容を整理し、復習しておくこと。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	まとめ(実技試験)(水本) 臨床で患者を評価することを想定し、オリエンテーション・各評価の実施・結果の記載までを連続して実施する	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめ(実技試験)で、基本的な専門的知識・技術を身につけていると考えられるレベルを合格とする。実習内の課題や参加態度等も考慮する。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
理学療法評価学:松澤正他/南江堂 神経診療クローズアップ:鈴木則宏/MEDICAL VIEW			
<b>参考文献</b>			
ベッドサイドの神経の診かた:田崎義昭他/南山堂			
<b>履修条件・留意事項等</b>			
実技の際にはTシャツと短パン、必要器具を準備すること。			
<b>備考欄</b>			
なし			



2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学 I				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」ことも関係する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>物理的エネルギーを応用した物理療法の目的、疼痛のメカニズム、物理療法機器の特性、生理学的作用、治療効果、禁忌等について学習する。物理療法 I では、自然エネルギーを生体に作用させる各種物理療法を主に学修する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物理療法で用いられる基本用語を用いて各治療法を説明できる。</li> <li>2. 物理的刺激と生体反応の関係を説明できる。</li> <li>3. 各種物理療法の適応と禁忌を説明できる。</li> <li>4. 機器の特殊性を理解し、各機器の特徴や相違点を説明できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>【プレゼンテーションの方法】パワーポイント等のスライドを用いた講義形式で進める。          【授業形態】教科書の内容を中心とした講義形式で進める。          【アクティブラーニング】授業内課題もしくは確認テストで授業の理解を確認する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google classroomを利用し資料提示、課題提出、確認テストの実施を行う。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>病院での理学療法士としての実務経験を活かし授業を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
・授業での確認課題および確認テストについては、その授業内で解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 物理療法総論、物理療法の歴史、理学療法における物理療法の位置付けを学ぶ。 【アクティブラーニング】物理療法について知っているものを挙げよ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	物理療法の基礎 物理療法におけるリスク管理、理学療法士に係る医療事故・医療過誤について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	温熱療法、温熱の基礎 温熱の生理的応答 熱の伝達様式、温熱療法実施上の注意点を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第4回	寒冷療法 寒冷療法の生理的作用、寒冷療法の適応および禁忌、寒冷療法の種類、RICE処置について学ぶ。 【確認テスト:授業1～4の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	電磁波療法 I 逆自乗の法則、ランバートの余弦則、高周波の熱発生原理と治療機器について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第6回	高周波治療 超短波治療法、極短波療法の生理学的効果、適応と禁忌について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第7回	電磁波療法Ⅱ 光線療法の歴史、紫外線・赤外線・レーザー光線の医学的応用について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	光線療法各論 紫外線・赤外線・レーザー治療の生理学的作用、適応と禁忌、治療上の注意を学ぶ。 【確認テスト:授業5～8の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
<b>成績評価の方法</b>			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の配点(授業毎の配点5点で6回行う。合計30点) 確認テストの配点(授業4回目、8回目に行う。各35点満点で合計70点)	
その他	0		
<b>教科書</b>			
物理療法学改訂版第3版 松澤 正・江口勝彦 金原出版			
<b>参考文献</b>			
理学療法学テキスト 物理療法学 編集 吉田秀樹 MEDICAL VIEW 理学療法学講座 物理療法学 編著 烏野 大川村博文 医歯薬出版			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

毎回の授業における授業課題や確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。  
ただし、やむを得ない理由(公欠と認められる)場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」ことも関係する。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>物理療法学Ⅱでは、最近の人工エネルギーを生体に作用させる物理療法の目的、疼痛のメカニズム、物理療法機器の特性、生理学的作用、治療効果、禁忌等について学修する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物理療法で用いられる基本用語を用いて各治療法を説明できる。</li> <li>2. 物理的刺激と生体反応の関係を説明できる。</li> <li>3. 各種物理療法の適応と禁忌を説明できる。</li> <li>4. 機器の特殊性を理解し、各機器の特徴や相違点を説明できる。</li> </ol>							
<b>授業の方法</b>							
<p>【プレゼンテーションの方法】パワーポイント等のスライドを用いた講義形式で進める。                  【授業形態】教科書の内容を中心とした講義形式で進める。                  【アクティブラーニング】授業内課題もしくは確認テストで授業の理解を確認する。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google classroomを利用し資料提示、課題提出、確認テストの実施を行う。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>病院での理学療法士としての実務経験を活かし授業を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
<p>・授業での確認課題および確認テストについては、その授業内で解答の解説を行う。</p>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	電気刺激療法の基礎 生体への電流作用、皮膚の電気整理、電気での生体制御などを学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	電気刺激の臨床応用 I 痛み軽減を目的とした各種電気刺激療法の概要を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	電気刺激の臨床応用 II 筋機能改善のための各種電気刺激療法を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第4回	電気刺激の臨床応用 III 機能を補うための各種電気刺激療法を学ぶ。 【確認テスト:授業1～4の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	超音波療法 超音波発生メカニズム、伝播、周波数と深達度、有効照射面積、ビーム不均等率、適当と禁忌を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第6回	水治療法 温泉を含めた水治療法の紹介、生理学的作用、適応と禁忌を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第7回	牽引療法、力学的機器を用いた治療 牽引療法、生理学的作用、適応と禁忌 CPM等を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	マッサージの基本手技 生理学的作用、および物理療法の総括。 【確認テスト:物理療法学Ⅰ・物理療法学Ⅱの全範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の配点(授業毎の配点5点で6回行う。合計30点) 確認テストの配点(授業4回目、8回目に行う。各35点満点で合計70点)	
その他	0		
教科書			
物理療法学改訂版第3版 松澤 正・江口勝彦 金原出版			
参考文献			
理学療法学テキスト 物理療法学 編集 吉田秀樹 MEDICAL VIEW 理学療法学講座 物理療法学 編著 烏野 大川村博文 医歯薬出版			
履修条件・留意事項等			

毎回の授業における授業課題や確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。  
ただし、やむを得ない理由(公欠と認められる)場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄



2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		日常生活活動学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことも関係する。「整形外科学」や「脳神経内科学」などの疾患学とそれに対する理学療法学に関連し、「日常生活活動学演習」の基礎となる。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>人は日常生活を過ごす上で、多くの活動を行っている。多くの活動をしながら、人は楽しく過ごすこともあれば、ときには泣きたくなることもある。活動を単に身体の動きとしてだけ考えるのではなく、喜怒哀楽のある人の活動として位置付けていきたい。授業では、日常生活活動とは何か、どのように捉えていけばよいのか学ぶ。また、さまざまな障がいがある日常生活活動に与える影響も考えながら、どのように対策していけばよいのか、評価と治療について学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>日常生活活動、生活関連動作の概念について説明することができる。                      国際生活機能分類の概念について説明することができる。                      日常生活活動における基本動作を運動学的に説明することができる。                      一般的な福祉用具の種類や使用方法を説明することができる。                      代表的な疾患の日常生活活動障害の特徴や問題点を説明することができる。</p>							
<b>授業の方法</b>							
<p>教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、小テストを実施し、内容の確認を行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>理学療法士として病院勤務した経験を活かし、日常生活活動の概念、評価法及び実際の患者への介入法の要点について講義を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	日常生活活動の概念と範囲およびQOLについて理解する	教科書の第1章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	日常生活活動の各種評価法について理解する。	教科書の第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	日常生活活動における姿勢や基本動作を理解し、運動療法の考え方を理解する。	教科書第3章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	日常生活活動の評価と動作分析について理解する。	教科書第3章2-6を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	日常生活活動を支援する福祉用具について理解する。1～4回目までの内容について小テストを行う。	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。また、小テストに向けて1～4回目までの総復習をすること。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第6回	片麻痺患者のADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。	教科書第6章-1を事前に読んでおくこと。また、片麻痺について復習しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	脊髄損傷患者のADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。	教科書第6章-2を事前に読んでおくこと。また、脊髄損傷について復習しておくこと。8回目のまとめのテストに向けて復習しておくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	変形性関節症、関節リウマチのADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。授業の最後にまとめのテストを実施する。	これまでの講義内容をまとめておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する小テスト、まとめのテスト及び授業への参加態度により評価する。	
その他	0	なし	
<b>教科書</b>			
Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学／臼田滋／MEDICAL VIEW			
<b>参考文献</b>			
姿勢と動作／斎藤宏他／メヂカルフレンド社			
<b>履修条件・留意事項等</b>			

なし
備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法学実習(1組)			ナンバリング	3534	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適應できる能力を身につけている(知識・技能)」、「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関連のある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>Redcord Neuracはノルウェー王国で開発された治療・エクササイズ法である。運動器疾患を始め、中枢性疾患、小児、スポーツなど幅広い分野で予防・治療・リハビリテーション等に活用され国際的にも注目されている。本科目ではRedcord Neuracの基本的な概念の理解と実技を学習する。</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングの理論を理解する</li> <li>・コンディショニングの理論を理解する</li> <li>・マッサージの理論と実技を習得する</li> <li>・Redcordの概念を理解する</li> <li>・Redcordの機能評価(Weak Link)を理解する</li> <li>・Redcordの基本的使用方法がマスターできる</li> <li>・Redcordの臨床応用を理解することができる</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、実技とその応用を小グループで行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>必要に応じてオンラインでの講義を行う。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcoredの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
実技巡回にて個別にフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・トレーニングの理論① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	・トレーニングの理論② 運動処方について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	・コンディショニングの理論 ストレッチング理論、リラクゼーションについて	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第4回	・マッサージの理論と実技① 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	・マッサージの理論と実技② フリクション&ファンクショナル・マッサージおよびあん摩・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第6回	Redcordの理論と実技① Redcordの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第7回	•Redcordの理論と実技② Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	•Redcordの理論と実技③ 機能評価の方法(Weak Link)OKC(開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	•Redcordの理論と実技④ 感覚-運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	•Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	•Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第12回	•Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第13回	•Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第14回	•Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	原 清和		
第15回	•Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	



定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること		
<b>備考欄</b>		
都度必要な資料を配布します。		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法学実習(2組)			ナンバリング	3534	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						
<b>授業の位置づけ</b>							
<p>ディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関連のある科目である。</p>							
<b>授業の概要</b>							
<p>Redcord Neuracはノルウェー王国で開発された治療・エクササイズ法である。運動器疾患を始め、中枢性疾患、小児、スポーツなど幅広い分野で予防・治療・リハビリテーション等に活用され国際的にも注目されている。本科目ではRedcord Neuracの基本的な概念の理解と実技を学習する</p>							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングの理論を理解する</li> <li>・コンディショニングの理論を理解する</li> <li>・マッサージの理論と実技を習得する</li> <li>・Redcordの概念を理解する</li> <li>・Redcordの機能評価(Weak Link)を理解する</li> <li>・Redcordの基本的使用方法がマスターできる</li> <li>・Redcordの臨床応用を理解することができる</li> </ul>							
<b>授業の方法</b>							
<p>配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、実技とその応用を小グループで行う。</p>							
<b>ICT活用</b>							
<p>必要に応じてオンラインでの講義を行う。</p>							
<b>実務経験のある教員の教育内容</b>							
<p>両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcoredの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
実技巡回にて個別にフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・トレーニングの理論① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	・トレーニングの理論② 運動処方について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	・コンディショニングの理論 ストレッチング理論、リラクゼーションについて	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第4回	・マッサージの理論と実技① 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	・マッサージの理論と実技② フリクション&ファンクショナル・マッサージおよびあん摩・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第6回	Redcordの理論と実技① Redcordの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第7回	•Redcordの理論と実技② Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	•Redcordの理論と実技③ 機能評価の方法(Weak Link)OKC(開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	•Redcordの理論と実技④ 感覚-運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	•Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	•Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第12回	•Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第13回	•Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第14回	•Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	原 清和		
第15回	•Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する
その他	0	なし
<b>教科書</b>		
なし		
<b>参考文献</b>		
なし		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること		
<b>備考欄</b>		
都度必要な資料を配布します。		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習 I (見学実習)				ナンバリング	3701
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている」と特に関係があり、初年次教育の一環として、他の職種との協力関係を築く能力や、理学療法対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動する能力を身につけるための科目である。  
 理学療法場面の見学の中から、理学療法の業務内容、役割、対象者について理解を深める。前期に学習した「理学療法概論」「リハビリテーション概論」「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」と関連し、後期の「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅰ」「理学療法評価学Ⅰ」「基礎解剖学実習」「生理学実習」など専門基礎科目、専門科目、2年次の「臨床実習Ⅲ」の基礎となる。

授業の概要

理学療法の実務的な視点で初めて病院・施設あるいは患者に接する機会であり、早期体験としての意義を持っている。臨床実習指導者をはじめ関係スタッフとの関わりの中で、理学療法士の業務や活動についての初歩的な理解を得ることに主眼をおいている。さらに患者を通して障害および障害者に理解を深め、リハビリテーションおよび理学療法が臨床的に果たす役割を認識することを目的とする。

到達目標

- ・理学療法対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる
- ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚ある言動をとることができる

授業の方法

- ・事前オリエンテーション、実習前講義を通して実習への準備を行う
- ・学生それぞれが、学外実習施設(病院、施設など)にて理学療法場面を見学する
- ・毎日、ポートフォリオに見学した内容と自己学習(不明なことは教科書等を使用して調べる)、感想等を記載して、実習指導者に提出する
- ・チェックリストを用いて学習段階を確認する
- ・サマリーシート(報告書)を作成し、大学に提出する

ICT活用

- ・実習前オリエンテーション、講義は状況に応じてオンライン授業で行う
- ・必要に応じてスライドに音声吹き込んだ動画をGoogle Classroomにアップし学生が活用できるようにする

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
実習報告会の中での学生からの質問、アドバイザー教員からの指導、アドバイスとする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前オリエンテーション ・実習の目的、注意事項の説明 ・実習の歩み、ポートフォリオの説明 ・実習の目標設定 ・学生紹介書の作成 ・服装髪型チェック ・実習施設への電話連絡の説明	シラバスで実習日程、実習内容について確認しておくこと。 臨床実習チェックリストの第1章、第2章を読んでおくこと(120分)	配付資料を見直すこと(30分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第2回	実習前講義および実習前試験 ・医療人としてのマナー講座 ・身体部位、姿勢の名称 ・専門用語、装具の説明 ・デイリーノート、チェックリスト、サマリーシートの説明 ・実習に関する理解度確認のテスト	理学療法評価学の教科書、臨床実習チェックリスト、配付資料を見直し、持参すること(60分)	配付資料を見直すこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第3回	臨床実習Ⅰ：2024年9月2日(月)～6日(金)(実習施設によっては7日土曜日までの実習、日程に変更の可能性あり) 1.学生は実習指導者または他の理学療法士と一緒に行動することを基本とし、理学療法業務の「見学」または「協同参加」によって理学療法について学習する 2.実習オリエンテーション(施設見学、施設概要の説明、実習全体の流れ、実習中の注意点、実習生自身が立てた「実習目標」の共有など)を実施する 3.対象者や家族とのコミュニケーションの取り方、接し方を学習する 4.「見学」または「協同参加」した対象者の疾患・障害の特徴を調べる 5.理学療法視点の他に作業療法、言語療法、症状など	実習施設へ持参物の確認、配付資料、実習の手引きの熟読、チェックリスト、デイリーノートを確認すること(90分)	見学した内容をデイリーノートに記載し、自己学習資料と合わせてポートフォリオにファイリングすること(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第4回	実習報告会の実施(日程未定) ・実習終了後、報告会にむけて、見学した内容について図書館等で調べた上で実習サマリーシートを作成・提出し、アドバイザーグループごとに報告会を行う ・実習後の提出物:ポートフォリオ、チェックシート、臨床実習Ⅰサマリーシート、実習の歩み、お礼状 ・実習報告会終了後、サマリーシートを修正して完成させ全員再提出する	実習報告会では4分以内で発表できるように、要点をまとめて、練習すること。 報告会での提出物を確認すること(90分)	他学生の発表、サマリーシートを見直したり、質問、アドバイスを参考にサマリーシートを修正し再提出する(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第5回			
担当教員			



第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	学外実習成績(30%):実習指導報告書
その他	70	学内実習成績(70%):実習前オリエンテーション・実習前講義の出席状況、実習前試験・ポートフォリオ・実習報告会の成績
<b>教科書</b>		
①PT臨床実習チェックリスト, 青木主税 編集, メディカルビュー ②理学療法学事典, 奈良勲 監修, 医学書院 ③理学療法評価学, 松澤正 著, 金原出版		
<b>参考文献</b>		
必要に応じて資料を配付する		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
オリエンテーション、実習前試験、実習、実習報告会の遅刻・欠席は原則認めません		
<b>備考欄</b>		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅱ(訪問・通所)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	水本 淳、佐々木 幸子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」こととも関係する。

授業の概要

訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーション等の実習を通じて、理学療法評価および自宅や高齢者施設等における利用者の生活の視点、多職種協働の実際を体験する。また、利用者の生活の場と病院等における医療および介護保険制度の違いや利用者の暮らす地域を取り巻く医療・保健・福祉の資源状況、ネットワーク、そして多職種、関係機関の役割等も理解する。

到達目標

- 1) 対象者(および家族)の生活特性について理解し、説明できる。
- 2) 対象者(および家族)や関係者に対して適切なコミュニケーションをとることができる。
- 3) 各事業所で提供しているサービス内容の特徴を理解し説明できる。
- 4) 理学療法士及び他の医療従事者の業務内容と役割を理解して説明できる。
- 5) 対象者のニーズを理解することができる。
- 6) 地域における多職種との連携を理解し、説明できる。
- 7) 関係する保険制度について調べて、示すことができる。
- 8) 学内での報告会で上記について報告し、ディスカッションすることができる。

授業の方法

実際に実習施設に行き、見学する。  
また、実習前の学習、サマリーを用いた実習後の報告会を行う。

ICT活用

実習前、実習中の指導として、必要に応じてzoomやGoogle classroomを使用した遠隔指導を行う。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員2名は現場での実務経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法			
<p>実習中はディレクターおよびポートフォリオの提出を行う。こちらは実習指導者が主に指導する。                      実習前学習は担当教員による課題提案や試験を実施し、それに対する指導を行う。                      また、報告会についてはグループディスカッション形式にて実施し、報告会後の指導は担当教員とアドバイザー教員が行う。</p>			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<p>実習前学習(水本・佐々木)                      本実習に必要な知識について講義および試験を実施する。</p>	<p>事前配布資料を予習すること。(60分)</p>	<p>実習前学習で提案する課題について学習すること。(60分)</p>
担当教員			
第2回	<p>臨床実習(水本・佐々木)                      訪問・通所リハビリテーションを見学する。                      12月9日～12月13日の5日間。                      実習施設の配置については、事前に学生に公表する。</p>	<p>実習に必要な知識を予習すること。                      実習地への交通機関を調べる。また、施設の特徴に合わせた事前学習を行うこと。(60分)</p>	<p>見学した内容、不明な点を教科書、文献で調べ、ディレクターに記載すること。(60分)</p>
担当教員			
第3回	<p>実習後学習(水本・佐々木)                      実習終了時にサマリーシートを作成し、グループディスカッション形式の報告会を実施する。                      サマリーシートは、                      1) 各事業所で提供しているサービス内容の特徴                      2) 対象者の疾患・障害の特徴                      3) 対象者のニーズ                      4) 生活場面における理学療法の役割                      5) 対象者に関連する多職種連携                      6) 見学から学んだこと                      7) 実習を通じ学んだこと                      について理解を深めることを目的に作成する。</p>	<p>サマリーシートを作成し、規定時間で発表できるよう準備を行うこと。(60分)</p>	<p>他者の報告内容を聞き、学んだことを整理すること。報告会で受けた指摘を踏まえ、サマリーシートを修正すること。(60分)</p>
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習地成績及び実習前後の学内成績で評価する。 ※成績には、出席態度、参加態度、試験結果、報告会の発表内容等を含むものとする。
その他	0	
<b>教科書</b>		
特になし		
<b>参考文献</b>		
必要資料については事前配布する		
<b>履修条件・留意事項等</b>		
実習前学習、実習前オリエンテーションは原則、全出席とする。 正当な理由のない欠席の場合は、実習中止とする。 実習後学習の実習報告会を欠席した場合は実習再履修とする。 実習前学習、実習後学習(報告会)の日程については後日、連絡する。		
<b>備考欄</b>		